

厚生労働大臣 殿 開設者名 国立大学法人千葉大学長
中山俊憲

千葉大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和4年度の業務に関して報告します。

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒263-8522 千葉県千葉市稲毛区弥生町1-33
氏名	国立大学法人千葉大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

千葉大学医学部附属病院

3 所在の場所

〒260-8677 千葉市中央区亥鼻1-8-1
電話(043)222-7171

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input checked="" type="radio"/>	1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
<input type="radio"/>	2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し○を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1)内科

内科				有			
内科と組み合わせた診療科名等							
<input checked="" type="radio"/>	1呼吸器内科	<input type="radio"/>	2消化器内科	<input type="radio"/>	3循環器内科	<input type="radio"/>	4腎臓内科
	5神経内科	<input type="radio"/>	6血液内科		7内分泌内科		8代謝内科
<input checked="" type="radio"/>	9感染症内科	<input type="radio"/>	10アレルギー疾患内科またはアレルギー科		<input type="radio"/>	11リウマチ科	
診療実績							
「神経内科」→「脳神経内科」にて診療							
「内分泌内科」、「代謝内科」→「糖尿病・代謝・内分泌・老年内科」にて診療							

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2)外科

外科				有			
外科と組み合わせた診療科名							
○	1呼吸器外科		2消化器外科	○	3乳腺外科		4心臓外科
	5血管外科	○	6心臓血管外科		7内分泌外科	○	8小児外科
診療実績							
「消化器外科」→「食道・胃腸外科」、「肝臓・胆のう・膵臓外科」にて診療 「内分泌外科」→「頭頸部耳鼻いんこう科」にて診療							

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること(「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと)。

(3)その他の標榜していることが求められる診療科名

○	1精神科	○	2小児科	○	3整形外科	○	4脳神経外科
○	5皮膚科	○	6泌尿器科	○	7産婦人科		8産科
	9婦人科	○	10眼科		11耳鼻咽喉科	○	12放射線科
	13放射線診断科		14放射線治療科	○	15麻酔科	○	16救急科

- (注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

(4)歯科

歯科				有			
歯科と組み合わせた診療科名							
	1小児歯科		2矯正歯科	○	3歯科口腔外科		
歯科の診療体制							

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5)(1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	糖尿病・代謝・内分泌・老年内科	2	腫瘍内科	3	食道・胃腸外科	4	肝臓・胆のう・膵臓外科	5	心療内科
6	リハビリテーション科	7	脳神経内科	8	形成外科	9	頭頸部耳鼻いんこう科	10	病理診断科
11	臨床検査科	12		13		14		15	
16		17		18		19		20	
21		22		23		24		25	

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
45	5	0	0	800	850

(単位:床)

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計
医師	252	667	699.0
歯科医師	9	25	29.0
薬剤師	59	31	84.8
保健師	0	0	0.0
助産師	41	0	41.0
看護師	989	30	1009.6
准看護師	0	1	1.0
歯科衛生士	1	3	4.0
管理栄養士	8	7	15.0

職種	員数
看護補助者	73
理学療法士	23
作業療法士	10
視能訓練士	7
義肢装具士	0
臨床工学士	26
栄養士	0
歯科技工士	0
診療放射線技師	54

職種	員数	
診療エックス線技師	0	
臨床検査	臨床検査技師	88
	衛生検査技師	0
	その他	0
あん摩マッサージ指圧師	1	
医療社会事業従事者	19	
その他の技術員	156	
事務職員	345	
その他の職員	6	

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	110	眼科専門医	12
外科専門医	83	耳鼻咽喉科専門医	13
精神科専門医	16	放射線科専門医	21
小児科専門医	2	脳神経外科専門医	10
皮膚科専門医	8	整形外科専門医	31
泌尿器科専門医	14	麻酔科専門医	15
産婦人科専門医	24	救急科専門医	18
		合計	367

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (横手 幸太郎)

任命年月日 令和 2 年 4 月 1 日

令和2年4月1日就任前
 ・医療の質・安全管理委員会委員(平成23年4月1日～平成26年3月31日、平成29年4月1日～令和2年3月31日)
 令和2年4月1日就任後
 ・医療の質・安全管理委員会委員長

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	590 人	9 人	599 人
1日当たり平均外来患者数	1996 人	93 人	2088 人
1日当たり平均調剤数	入院:911 外来:29		剤
必要医師数	174		人
必要歯科医師数	6		人
必要薬剤師数	20		人
必要(准)看護師数	370		人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二条

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
			病床数			
集中治療室	642.22 ㎡	鉄筋コンクリート	26 床	有	心電計	有
			人工呼吸装置	有	心細動除去装置	有
			その他の救急蘇生装置	有	ペースメーカー	有
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 507 ㎡		病床数	39 床		
	[移動式の場合] 台数 2 台					
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床面積 85.71 ㎡					
	[共用室の場合] 共用する室名					
化学検査室	403 ㎡	鉄筋コンクリート	(主な設備)	検体搬送システム、生化学用自動分析装置、化学発光法測定装置、酵素免疫法測定装置、血液ガス分析装置、HbA1c分析装置、赤血球沈降速度分析装置、電気泳動分析装置、超低温保冷庫(ディープフリーザー)		
細菌検査室	80 ㎡	鉄筋コンクリート	(主な設備)	細菌同定・薬剤感受性分析装置、抗酸菌培養検査装置、自動染色装置、血液培養自動分析装置、細菌同定用質量分析装置、顕微鏡(蛍光を含む)、安全キャビネット		
病理検査室	961 ㎡	鉄筋コンクリート	(主な設備)	自動包埋装置、組織切片薄切装置、自動染色装置、自動免疫染色装置、凍結切片薄切装置、パラフィン包埋機等		
病理解剖室	74 ㎡	鉄筋コンクリート	(主な設備)	解剖台、切出台、固定槽、撮影装置		
研究室	718 ㎡	鉄筋コンクリート	(主な設備)	パソコン、近赤外光イメージング装置、脳波計等		
講義室	736 ㎡	鉄筋コンクリート	室数 4 室	収容定員	504 人	
図書室	135 ㎡	鉄筋コンクリート	室数 4 室	蔵書数	17150 冊程度	

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	93.2	%	逆紹介率	117.3	%
算出 根拠	A: 紹介患者の数		20502		人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		31024		人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		4162		人
	D: 初診の患者の数		26458		人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害 関係	委員の要件 該当状況
宮坂 信之	東京医科歯科大学名誉教授	○	医療安全識見者かつ 病院管理経験者	無	1
花輪 正明	塩野義製薬株式会社 薬事部長		臨床研究識見者	無	3
藤原 康弘	独立行政法人 医薬品医療機器総合機構 理事長		臨床研究識見者	無	3
東宮 秀夫	一般財団法人医薬品 医療機器レギュラトリーサ イエンス財団理事		臨床研究識見者	無	3
山崎 晋一郎	千葉県病院事業管理者 (千葉県病院局長)		医療安全識見者かつ 病院管理経験者	無	3
宗像 令夫	独立行政法人中小企業 基盤整備機構関東本部 千葉大亥鼻イノベーション プラザチーフインキューベ ションマネージャー		臨床研究識見者	無	3
中谷 晴昭	千葉大学理事		医療及び臨床研究に関す る 学識経験者	有	3
後藤 弘子	千葉大学大学院 社会科学研究院教授		法律学専門家	有	1

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。
 1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法 本学ホームページ及び本院ホームページにて、設置規程及び委員名簿(選定理由についても記載有)、 監査結果報告書を掲載している。	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類の数	0
扱い患者数の合計(人)	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	28	101	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	1
2	筋萎縮性側索硬化症	39	102	前頭側頭葉変性症	12
3	脊髄性筋萎縮症	7	103	神経細胞移動異常症	4
4	進行性核上性麻痺	11	104	ドラベ症候群	1
5	パーキンソン病	341	105	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	1
6	大脳皮質基底核変性症	10	106	ミオクロニー欠伸てんかん	1
7	ハンチントン病	5	107	レノックス・ガストー症候群	1
8	シャルコー・マリー・トゥース病	28	108	ウエスト症候群	11
9	重症筋無力症	427	109	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	1
10	多発性硬化症/視神経脊髄炎	365	110	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	1
11	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	93	111	レット症候群	4
12	封入体筋炎	11	112	スタージ・ウェーバー症候群	3
13	クロー・深瀬症候群	58	113	結節性硬化症	24
14	多系統萎縮症	47	114	色素性乾皮症	2
15	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	119	115	先天性魚鱗癬	5
16	ライソゾーム病	12	116	家族性良性慢性天疱瘡	4
17	副腎白質ジストロフィー	4	117	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	94
18	ミトコンドリア病	20	118	特発性後天性全身性無汗症	31
19	もやもや病	59	119	眼皮膚白皮症	1
20	プリオン病	2	120	弾性線維性仮性黄色腫	4
21	HTLV-1関連脊髄症	3	121	マルファン症候群	21
22	特発性基底核石灰化症	5	122	エーラス・ダンロス症候群	8
23	全身性アミロイドーシス	11	123	ウィルソン病	4
24	遠位型ミオパチー	2	124	VATER症候群	1
25	神経線維腫症	68	125	ジュベール症候群関連疾患 旧病名(有馬症候群)	1
26	天疱瘡	52	126	クルーゾン症候群	16
27	表皮水疱症	2	127	アペール症候群	7
28	膿疱性乾癬(汎発型)	24	128	ファイファー症候群	2
29	ステイーヴンス・ジョンソン症候群	6	129	アントレー・ビクスラー症候群	1
30	高安静脈炎	60	130	多脾症候群	1
31	巨細胞性動脈炎	26	131	無脾症候群	3
32	結節性多発動脈炎	19	132	ウェルナー症候群	16
33	顕微鏡的多発血管炎	73	133	コケイン症候群	1
34	多発血管炎性肉芽腫症	22	134	ヌーナン症候群	3
35	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	25	135	4p欠失症候群	1
36	悪性関節リウマチ	40	136	5p欠失症候群	1
37	バージャー病	8	137	完全大血管転位症	1
38	原発性抗リン脂質抗体症候群	3	138	単心室症	2
39	全身性エリテマトーデス	483	139	三尖弁閉鎖症	1
40	皮膚筋炎/多発性筋炎	173	140	ファロー四徴症	12
41	全身性強皮症	122	141	両大血管右室起始症	1
42	混合性結合組織病	51	142	急速進行性糸球体腎炎	15
43	シェーグレン症候群	276	143	一次性ネフローゼ症候群	30
44	成人スチル病	23	144	紫斑病性腎炎	4
45	再発性多発軟骨炎	12	145	間質性膀胱炎(ハンナ型)	1
46	ベーチェット病	173	146	オスラー病	47
47	特発性拡張型心筋症	82	147	閉塞性細気管支炎	6
48	肥大型心筋症	133	148	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	7
49	拘束型心筋症	2	149	肺胞低換気症候群	1
50	再生不良性貧血	56	150	副甲状腺機能低下症	15
51	自己免疫性溶血性貧血	18	151	偽性副甲状腺機能低下症	7
52	発作性夜間ヘモグロビン尿症	2	152	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	3
53	特発性血小板減少性紫斑病	118	153	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	9
54	血栓性血小板減少性紫斑病	2	154	脂肪萎縮症	1
55	原発性免疫不全症候群	49	155	家族性地中海熱	24
56	IgA腎症	77	156	慢性再発性多発性骨髄炎	1
57	多発性嚢胞腎	64	157	強直性脊椎炎	20
58	黄色靱帯骨化症	32	158	骨形成不全症	3
59	後縦靱帯骨化症	228	159	軟骨無形成症	6
60	広範脊柱管狭窄症	2	160	リンパ管腫症/ゴーハム病	2
61	特発性大腿骨頭壊死症	44	161	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	2
62	下垂体性ADH分泌異常症	32	162	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	4

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
63	下垂体性TSH分泌亢進症	5	163	後天性赤芽球癆	1
64	下垂体性PRL分泌亢進症	56	164	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	3
65	クッシング病	26	165	遺伝性鉄芽球性貧血	2
66	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	40	166	クロンカイト・カナダ症候群	1
67	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	80	167	非特異性多発性小腸潰瘍症	1
68	下垂体前葉機能低下症	124	168	ヒルシュスブルング病(全結腸型又は小腸型)	1
69	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	1	169	総排泄腔遺残	6
70	先天性副腎皮質酵素欠損症	20	170	先天性横隔膜ヘルニア	25
71	アジソン病	2	171	乳幼児肝巨大血管腫	1
72	サルコイドーシス	367	172	胆道閉鎖症	16
73	特発性間質性肺炎	80	173	アラジール症候群	1
74	肺動脈性肺高血圧症	154	174	IgG4関連疾患	120
75	慢性血栓性肺高血圧症	92	175	黄斑ジストロフィー	17
76	リンパ管筋腫症	9	176	レーベル遺伝性視神経症	1
77	網膜色素変性症	571	177	好酸球性副鼻腔炎	12
78	バッド・キアリ症候群	6	178	進行性ミオクロームステんかん	4
79	特発性門脈圧亢進症	10	179	先天異常症候群	1
80	原発性胆汁性胆管炎 旧病名(原発性胆汁性肝硬変)	110	180	非ケトーシス型高グリシン血症	1
81	原発性硬化性胆管炎	28	181	遺伝性自己炎症疾患	7
82	自己免疫性肝炎	98	182	ホモシスチン尿症	2
83	クローン病	230			
84	潰瘍性大腸炎	454			
85	好酸球性消化管疾患	33			
86	慢性特発性偽性腸閉塞症	1			
87	チャージ症候群	1			
88	クリオピリン関連周期熱症候群	3			
89	若年性特発性関節炎 旧病名(全身型若年性特発性関節炎)	19			
90	非典型溶血性尿毒症症候群	1			
91	ブラウ症候群	1			
92	先天性ミオパチー	7			
93	筋ジストロフィー	63			
94	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	3			
95	遺伝性周期性四肢麻痺	1			
96	脊髄空洞症	40			
97	脊髄髄膜瘤	1			
98	アイザックス症候群	2			
99	遺伝性ジストニア	3			
100	脳表ヘモジデリン沈着症	4			

疾患数	182
合計患者数(人)	7876

(注) 「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
地域歯科診療支援病院歯科初診料	ハイリスク分娩管理加算
歯科外来診療環境体制加算2	術後疼痛管理チーム加算
歯科診療特別対応連携加算	後発医薬品使用体制加算1
情報通信機器を用いた診療	病棟薬剤業務実施加算1
特定機能病院入院基本料 一般病棟 7対1入院基本料 入院栄養管理体制加算	病棟薬剤業務実施加算2
特定機能病院入院基本料 精神病棟 7対1入院基本料	データ提出加算2(イ)
救急医療管理加算	入退院支援加算1 入退院支援加算3 入院時支援加算 総合機能評価加算
超急性期脳卒中加算	せん妄ハイリスク患者ケア加算
診療録管理体制加算1	精神疾患診療体制加算
医師事務作業補助体制加算1(15対1)	精神科急性期医師配置加算2
25対1急性期看護補助体制加算(看護補助者5割以上) 夜間100対1急性期看護補助体制加算 夜間看護体制加算 看護補助体制充実加算	地域医療体制確保加算
看護職員夜間12対1配置加算1	救命救急入院料3 精神疾患診断治療初回加算(イを算定する場合に限る。) 救急体制充実加算1 救命救急入院料 小児加算 早期離床・リハビリテーション加算
療養環境加算	特定集中治療室管理料1 特定集中治療室管理料 小児加算 早期離床・リハビリテーション加算 早期栄養介入管理加算
重症者等療養環境特別加算	ハイケアユニット入院医療管理料1 早期離床・リハビリテーション加算
無菌治療室管理加算1	脳卒中ケアユニット入院医療管理料
無菌治療室管理加算2	総合周産期特定集中治療室管理料 1 母体・胎児集中治療室管理料 2 新生児集中治療室管理料
緩和ケア診療加算	新生児治療回復室入院医療管理料
精神科身体合併症管理加算	小児入院医療管理料1 小児入院医療管理料 注2の加算(プレイルーム加算) 無菌治療管理加算2 養育支援体制加算
精神科リエゾンチーム加算	看護職員処遇改善評価料69
摂食障害入院医療管理加算	<施設基準を満たしていれば届出の必要がない項目>
医療安全対策加算1	臨床研修病院入院診療加算(歯科診療以外)
感染対策向上加算1 指導強化加算	臨床研修病院入院診療加算(歯科診療に限る)
患者サポート体制充実加算	妊産婦緊急搬送入院加算

重症患者初期支援充実加算	個別栄養食事管理加算
褥瘡ハイリスク患者ケア加算	がん拠点病院加算1(イ)
ハイリスク妊娠管理加算	後発医薬品使用体制加算の注ただし書に規定する加算

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
ウイルス疾患指導料 注2の加算	がん治療連携計画策定料
外来栄養食事指導料の注2	肝炎インターフェロン治療計画料
心臓ペースメーカー指導管理料の注5に掲げる遠隔モニタリング加算	ハイリスク妊産婦連携指導料1
糖尿病合併症管理料	ハイリスク妊産婦連携指導料2
がん性疼痛緩和指導管理料	薬剤管理指導料
がん患者指導管理料イ	医療機器安全管理料1
がん患者指導管理料ロ	医療機器安全管理料2
がん患者指導管理料ハ	精神科退院時共同指導料2
がん患者指導管理料ニ	禁煙治療補助システム指導管理加算
外来緩和ケア管理料	歯科治療時医療管理料
移植後患者指導管理料 1. 臓器移植後の場合	救急搬送診療料の注4に規定する重症患者搬送加算
移植後患者指導管理料 2. 造血幹細胞移植後の場合	在宅植込型補助人工心臓(非拍動流型)指導管理料
糖尿病透析予防指導管理料	在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
小児運動器疾患指導管理料	持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合) 皮下連続式グルコース測定
乳腺炎重症化予防ケア・指導料	持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合)
婦人科特定疾患治療管理料	在宅患者歯科治療時医療管理料
一般不妊治療管理料	遺伝学的検査
生殖補助医療管理料1	染色体検査の注2に規定する絨毛染色体検査
二次性骨折予防継続管理料1	骨髄微小残存病変量測定
二次性骨折予防継続管理料3	BRCA1/2遺伝子検査
下肢創傷処置管理料	がんゲノムプロファイリング検査
外来放射線照射診療料	先天性代謝異常症検査
外来腫瘍化学療法診療料1	抗アデノ随伴ウイルス9型(AAV9)抗体
連携充実加算	抗HLA抗体(スクリーニング検査) 抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)
ニコチン依存症管理料	HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
こころの連携指導料(Ⅱ)	ウイルス・細菌核酸多項目同時検出

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
検体検査管理加算(Ⅰ)	ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
検体検査管理加算(Ⅳ)	CT撮影及びMRI撮影 (CT 8台、MRI 6台)
国際標準検査管理加算	冠動脈CT撮影加算
遺伝カウンセリング加算	心臓MRI撮影加算
遺伝性腫瘍カウンセリング加算	乳房MRI撮影加算
心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	抗悪性腫瘍剤処方管理加算
時間内歩行試験 シャトルウォーキングテスト	外来化学療法加算1
胎児心エコー法	無菌製剤処理料
ヘッドアップティルト試験	心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ) 心大血管疾患リハビリテーション料 初期加算
人工臓器検査 人工臓器療法	脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ) 脳血管疾患等リハビリテーション料 初期加算
長期継続頭蓋内脳波検査	運動器リハビリテーション料(Ⅰ) 運動器リハビリテーション料 初期加算
脳波検査判断料1	呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ) 呼吸器リハビリテーション料 初期加算
単線維筋電図	がん患者リハビリテーション料
神経学的検査	歯科口腔リハビリテーション料2
黄斑局所網膜電図	療養生活環境整備指導加算
全視野精密網膜電図	療養生活継続支援加算
コンタクトレンズ検査料1	認知療法・認知行動療法1
小児食物アレルギー負荷検査	抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症 治療指導管理料に限る。)
内服・点滴誘発試験	医療保護入院等診療料
前立腺針生検法(MRI撮影及び超音波検査融合画像による もの)	処置の休日加算1、時間外加算1及び深夜加算1
CT透視下気管支鏡検査加算	静脈圧迫処置(慢性静脈不全に対するもの)
経気管支凍結生検法	硬膜外自家血注入
精密触覚機能検査	エタノールの局所注入(甲状腺に対するもの)
画像診断管理加算1	エタノールの局所注入(副甲状腺に対するもの)
遠隔画像診断	人工腎臓(慢性維持透析を行った場合1)
ポジトロン断層撮影	腎代替療法実績加算 導入期加算3

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
透析液水質確保加算 慢性維持透析濾過加算	網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)
難治性高コレステロール血症に伴う重度尿蛋白を呈する糖尿病性腎症に対するLDLアフェレシス療法	網膜再建術
移植後抗体関連型拒絶反応治療における血漿交換療法	内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)及び 経鼻内視鏡下鼻副鼻腔悪性腫瘍手術(頭蓋底郭清、再建を伴うもの)
磁気による膀胱等刺激法	鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)
口腔粘膜処置	鏡視下喉頭悪性腫瘍手術
手術の休日加算1、時間外加算1及び深夜加算1	喉頭形成手術(甲状軟骨固定用器具を用いたもの)
センチネルリンパ節加算	上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限り)、 下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限り)
皮膚移植術(死体)	内視鏡下甲状腺部分切除、腺腫摘出術、内視鏡下パセドウ 甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)、内視鏡下副甲状腺(上皮小 体)腺腫過形成手術
自家脂肪注入	内視鏡下甲状腺悪性腫瘍手術
組織拡張器による再建手術(一連につき) (乳房(再建手術)の場合に限る)	乳房切除術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する乳房切 除術に限る。)
骨移植術(軟骨移植術を含む)(同種骨移植(非生体)(同種 骨移植(特殊なものに限る)))	センチネルリンパ節生検(併用法) 乳がんセンチネルリンパ節加算1
骨移植術(軟骨移植を含む) (自家培養軟骨移植術に限る)	センチネルリンパ節生検(単独法) 乳がんセンチネルリンパ節加算2
後縦靭帯骨化症手術(前方進入によるもの)	乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わ ないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))
椎間板内酵素注入療法	ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
腫瘍脊椎骨全摘術	胸腔鏡下拡大胸腺摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いる 場合)
原発性悪性脳腫瘍光線力学療法加算	胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用い る場合)
内視鏡下脳腫瘍生検術	胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用い る場合)
内視鏡下脳腫瘍摘出術	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除及び肺葉切除又は1肺 葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合に限 る。)
頭蓋骨形成手術(骨移動を伴うものに限る)	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(気管支形成を伴う肺切除)
脳刺激装置植込術及び脳刺激装置交換術	同種死体肺移植術
癒着性脊髄くも膜炎手術(脊髄くも膜剥離操作を行うもの)	生体部分肺移植術

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、 内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、 胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、 小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、 結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、 腎(腎盂)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、 尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、 膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、 陰腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)
角結膜悪性腫瘍切除術	内視鏡下筋層切開術
緑内障手術(流出路再建術(眼内法)及び(水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術))	経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの) (高速回転式アテレクトミーカテーテルによるもの) (エキシマレーザー血管形成用カテーテルによるもの)
緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	胸腔鏡下弁形成術
緑内障手術(濾過胞再建術(needle法))	経カテーテル弁置換術(経心尖大動脈弁置換術及び経皮的 大動脈弁置換術)
胸腔鏡下弁置換術	バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術
経皮的僧帽弁クリップ術	胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上) を伴うもの)
不整脈手術(左心耳閉鎖術(胸腔鏡下によるもの)に限る。)	体外衝撃波胆石破碎術
不整脈手術(左心耳閉鎖術(経カテーテル的手術によるもの) に限る。)	腹腔鏡下肝切除術
経皮的中隔心筋焼灼術	生体部分肝移植術
ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	同種死体肝移植術
ペースメーカー移植術(リードレスペースメーカーの場合)	体外衝撃波膀胱石破碎術
両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び両心 室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)	腹腔鏡下膵腫瘍摘出術
植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下 植込型リードを用いるもの)、 植込型除細動器交換術(その他のもの)及び 経静脈電極抜去術	腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電 極の場合)及び 両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電 極の場合)	腹腔鏡下膵頭部腫瘍切除術
大動脈バルーンパンピング法(IABP法)	腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用 いる場合)
経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)	早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
補助人工心臓	内視鏡的小腸ポリープ切除術
植込型補助人工心臓(非拍動流型)	腹腔鏡下直腸切除・切断術(切除術、低位前方切除術及び 切断術に限る。)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
同種心移植術	腹腔鏡下副腎摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの) 及び 腹腔鏡下副腎髄質腫瘍摘出術(褐色細胞腫)(内視鏡手術用 支援機器を用いるもの)
経皮的下肢動脈形成術	副腎腫瘍ラジオ波焼灼療法

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
腹腔鏡下リンパ節群郭清術(後腹膜)	体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
腹腔鏡下リンパ節群郭清術(傍大動脈)	腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)及び 腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
腹腔鏡下リンパ節群郭清術(側方)	腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
内視鏡的逆流防止粘膜切除術	同種死体腎移植術
腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)	生体腎移植術
腹腔鏡下胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び 腹腔鏡下胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))	膀胱水圧拡張術及び ハンナ型間質性膀胱炎手術(経尿道)
腹腔鏡下噴門側胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び 腹腔鏡下噴門側胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))	腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
腹腔鏡下胃縮小術(スリーブ状切除によるもの)	腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
腹腔鏡下胃全摘術(単純全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び 腹腔鏡下胃全摘術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))	人工尿道括約筋植込・置換術
胃瘻造設術	膀胱頸部形成術(膀胱頸部吊上術以外) 埋没陰茎手術 陰嚢水腫手術(鼠径部切開によるもの)
精巣内精子採取術	外来放射線治療加算
腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術	高エネルギー放射線治療
腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	1回線量増加加算(全乳房照射)
腹腔鏡下腔式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	強度変調放射線治療(IMRT)
腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)	1回線量増加加算(前立腺照射)
腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	画像誘導放射線治療加算(IGRT)
腹腔鏡下子宮瘢痕部修復術	体外照射呼吸性移動対策加算
子宮付属器腫瘍摘出術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する子宮付属器腫瘍摘出術に限る。)	定位放射線治療
胎児胸腔・羊水腔シャント術	定位放射線治療呼吸移動対策加算(その他のもの)
体外式膜型人工肺管理料	画像誘導密封小線源治療加算
輸血管管理料 I	クラウン・ブリッジ維持管理料
貯血式自己血輸血管管理体制加算	CAD/CAM冠及びCAD/CAMインレー
コーディネート体制充実加算	保険医療機関間の連携による病理診断
自己生体組織接着剤作成術	デジタル病理画像による病理診断

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

自己クリオプレシペート作製術(用手法)	病理診断管理加算2
同種クリオプレシペート作製術	悪性腫瘍病理組織標本加算
人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	口腔病理診断管理加算2
胃瘻造設時嚥下機能評価加算	<施設基準を満たしていれば届出の必要がない項目>
上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る) (歯科診療に係るものに限る)、 下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る) (歯科診療に係るものに限る)	ウイルス疾患指導料 (情報通信機器を用いた場合)
顎関節人工関節全置換術(歯科)	小児科療養指導料 (情報通信機器を用いた場合)
広範囲顎骨支持型装置埋入手術	てんかん指導料 (情報通信機器を用いた場合)
レーザー機器加算	難病外来指導管理料 (情報通信機器を用いた場合)
麻酔管理料(Ⅰ)	皮膚科特定疾患指導管理料 (情報通信機器を用いた場合)
麻酔管理料(Ⅱ)	心臓ペースメーカー指導管理料 (植込型除細動器移行期加算)
歯科麻酔管理料	高度難聴指導管理料
放射線治療専任加算	アレルギー性鼻炎免疫療法治療管理料
小児悪性腫瘍患者指導管理料 (情報通信機器を用いた場合)	遠隔連携遺伝カウンセリング
がん性疼痛緩和指導管理料 (情報通信機器を用いた場合)	植込型心電図検査
がん患者指導管理料イ・ロ・ハ・ニ (情報通信機器を用いた場合)	大腸CT撮影加算
外来緩和ケア管理料 (情報通信機器を用いた場合)	廃用症候群リハビリテーション料(Ⅰ)
移植後患者指導管理料 1. 臓器移植後の場合 (情報通信機器を用いた場合)	児童思春期精神科専門管理加算
移植後患者指導管理料 2. 造血幹細胞移植後の場合 (情報通信機器を用いた場合)	耳鼻咽喉科小児抗菌薬適正使用支援加算
糖尿病透析予防指導管理料 (情報通信機器を用いた場合)	一酸化窒素吸入療法(新生児の低酸素性呼吸困難に対して実施するものに限る。)
乳幼児育児栄養指導料 (情報通信機器を用いた場合)	経皮的冠動脈形成術
外来リハビリテーション診療料	経皮的冠動脈ステント留置術
療養・就労両立支援指導料 (情報通信機器を用いた場合)	植込型心電図記録計移植術及び 植込型心電図記録計摘出術
がん治療連携計画策定料2 (情報通信機器を用いた場合)	経皮的動脈遮断術
がん治療連携管理料	ダメージコントロール手術
認知症専門診断管理料	人工授精
肝炎インターフェロン治療計画料 (情報通信機器を用いた場合)	胚移植術

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
薬剤総合評価調整管理料 (情報通信機器を用いた場合)	採卵術
連携強化診療情報提供料	体外受精・顕微授精管理料
がんゲノムプロファイリング評価提供料	受精卵・胚培養管理料
在宅自己注射指導管理料 (情報通信機器を用いた場合)	胚凍結保存管理料
横隔神経電気刺激装置加算	<手術件数の院内掲示が必要な手術(通則5,6 区分1)>
造血器腫瘍遺伝子検査	頭蓋内腫瘍摘出術等
遺伝子相同組換え修復欠損検査	黄斑下手術等
染色体構造変異解析	鼓室形成手術等
Y染色体微小欠失検査	肺悪性腫瘍手術等
デングウイルス抗原定性及びデングウイルス抗原・抗体同時測定定性	経皮的カテーテル心筋焼灼術、肺静脈隔離術
細菌核酸・薬剤耐性遺伝子同時検出	<手術件数の院内掲示が必要な手術(通則5,6 区分2)>
クロストリジオイデス・ディフィシルのトキシンB遺伝子検出1	靭帯断裂形成手術等
水頭症手術等	<手術件数の院内掲示が必要な手術(通則5,6 その他の区分)>
鼻副鼻腔悪性腫瘍手術等	人工関節置換術
尿道形成手術等	乳児外科対象手術
角膜移植術	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
肝切除術等	冠動脈及び大動脈バイパス移植術(人工心肺を使用しないものを含む。)及び体外循環を要する手術
子宮附属器悪性腫瘍手術等	経皮的冠動脈形成術、経皮的冠動脈粥腫切除術及び経皮的冠動脈ステント留置術
<手術件数の院内掲示が必要な手術(通則5,6 区分3)>	胸腔鏡又は腹腔鏡を用いる手術(通則4に掲げる手術を除く)
上顎骨形成術等	
上顎骨悪性腫瘍手術等	
バセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)	
母指化手術等	
内反足手術等	
食道切除再建術等	
同種腎移植術等	

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
房室結節リエントリー性頻拍の不整脈器質の解析	中野 正博	循環器内科	1,430,000	補 委	文部科学省
医療データベースを用いた抗がん剤による未知の循環器合併症の発見と予防法の確立	神田 真人	循環器内科	1,430,000	補 委	文部科学省
心臓超音波による局所左室仕事量解析を用いた心臓再同期療法の効果予測	江口 紀子	循環器内科	3,380,000	補 委	文部科学省
たこつぼ症候群心臓の心移植環境下における機能回復の可能性	加藤 賢	循環器内科	780,000	補 委	文部科学省
拡張現実技術を用いた新方式聴診シミュレータにより最も効果的な医学教育手法の確立	藤本 善英	循環器内科	390,000	補 委	文部科学省
植え込み型除細動器の遠隔モニタリングに記録される心房細動は脳梗塞の予測因子か？	仲野 美代	循環器内科	650,000	補 委	文部科学省
像帽弁形成術における弁輪面積変化率による普遍的な人工弁輪サイズ決定手法の確立	佐々木 晴香	循環器内科	1,430,000	補 委	文部科学省
難治性心血管疾患におけるマルチオミックス解析による病態解明と精密医療	小林 欣夫 (研究分担者)	循環器内科	325,000	補 委	日本医療研究開発機構
中性脂肪蓄積心筋血管症の診療に直結するエビデンス創出研究	宮内 秀行 (研究分担者)	循環器内科	130,000	補 委	日本医療研究開発機構
Cardiac Sarcoidosis Multi-Center Randomized Controlled Trial CHASM- CS RCT/心臓サルコイドーシス患者へのメトトレキサート投与の有効性と安全性を検証する研究者主導無作為化国際試験	大門 道子	循環器内科	789,100	補 委	北海道大学
高中性脂肪血症を合併した冠動脈疾患を対象としたベマフィブラートの冠動脈プラークの退縮に及ぼす影響を検証する無作為化非盲検群間比較試験	北原 秀喜	循環器内科	220,000	補 委	国立循環器病研究センター
急性心筋梗塞治療を最適化するシステム確立のための、レジストリデータを活用した包括的検討	齋藤 佑一	循環器内科	2,000,000	補 委	(公財)武田科学振興財団
古典的な心血管リスクを有さない急性心筋梗塞患者における潜在的危険因子の探索および予防的治療戦略の検討	齋藤 佑一	循環器内科	600,000	補 委	(公財)ちば県民保健予防財団
子宮頸癌に対するRadiomicsを応用した新規IGBT法の開発	渡辺 未歩	放射線科	1,028,000	補 委	日本学術振興会
AIとRadiogenomicsを応用した治療薬選択における癌不均一性の克服	横田 元	放射線科	100,000	補 委	日本学術振興会
MRIによる多角的血流情報を用いた卵巣腫瘍悪性リスク・組織型予測システムの構築	高田 章代	放射線科	921,000	補 委	日本学術振興会
子宮頸癌のMR-only simulationを目指した合成CTの新規開発	黒川 茉莉絵	放射線科	2,700,000	補 委	日本学術振興会
CT新技術と正確な線量評価法の開発による新たな小児被ばく低減指標および手法の確立	服部 真也	放射線科	863,000	補 委	日本学術振興会
Radiomics技術とMR-Linacの多種MRIを応用した予後予測法の開発	阿部 幸太	放射線科	1,568,000	補 委	日本学術振興会
子宮の変位と変形に即時に対応する高磁場MRIニアックによる適応放射線治療法の開発	宇野 隆	放射線科	1,400,000	補 委	日本学術振興会
MR画像誘導即時適応放射線治療中の革新的線量検証システムの確立	恒田 雅人	放射線科	2,400,000	補 委	日本学術振興会
子宮頸癌 I B期- II B期根治手術例における術後放射線治療と術後化学療法との第III相ランダム化比較試験	渡辺 未歩	放射線科	50,000	補 委	日本医療研究開発機構
前立腺癌に対するMR画像誘導即時適応定位放射線治療の臨床応用を目指す研究	宇野 隆	放射線科	1,000,000	補 委	日本医療研究開発機構
放射線療法の提供体構築に資する研究	宇野 隆	放射線科	300,000	補 委	厚生労働省
川崎病性冠動脈瘤に対する新しい血管壁MRイメージング手法の開発	松本 浩史	放射線部	910,000	補 委	日本学術振興会
腰痛患者の選択的体幹サポートを実現する多フレーム型アクティブ装具の開発	折田 純久	整形外科/フロンティア医工学センター	1,000,000	補 委	三井住友海上福祉財団
骨頭圧潰前の特発性大腿骨頭壊死症を対象としたbFGFゼラチン製剤の医師主導第III相試験	中村 順一	整形外科	8,427,900	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
3D MR neurographyを用いた低侵襲関節手術における大腿神経の解剖学的検討	萩原 茂生	整形外科	500,000	補 委	公益財団法人整形災害外科学研究助成財団
非骨傷性頸髄損傷の病態解明	古矢 丈雄	整形外科	2,340,000	補 委	日本学術振興会
説明可能なAIと教師なし学習AIによる脊椎疾患の新しい知見を見出す試み	牧 聡	整形外科	4,550,000	補 委	日本学術振興会
AI (Radiomics)を用いた整形外科疾患の機能予後予測	牧 聡	整形外科	4,290,000	補 委	日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
AI (Radiomics)を用いた整形外科疾患の機能予後予測	牧 聡	整形外科	3,000,000	補委 日本整形外科学会
Deep learning-based radiomics can predict the neurological prognosis of acute cervical spinal cord injury	牧 聡	整形外科	584,740	補委 AO SPINE
足関節固定モデルにおける骨癒合促進のための多血小板血漿を用いた革新的研究	木村 青児	整形外科	1,700,000	補委 日本学術振興会
Muse細胞投与による革新的骨折治療の開発	渡邊 翔太郎	整形外科	1,400,000	補委 日本学術振興会
リキッドバイオプリンに基づく絨毛性腫瘍発症・薬剤耐性の分子機序解明と臨床応用	碓井 宏和	婦人科・周産期母性科	8,300,000	補委 日本学術振興会
母子ペアゲノム配列情報に基づく非自己ハリアントの妊娠アウトカムに対する意義	碓井 宏和	婦人科・周産期母性科	1,400,000	補委 日本学術振興会
卵巣癌における尿中microRNAによる相同組み換え修復経路異常の予測	楯 真一	婦人科・周産期母性科	1,560,000	補委 日本学術振興会
フェルマコグ/マクスによる妊婦ミネルコルチコイド合成経路と血圧調節作用の解明	中田 恵美里	婦人科・周産期母性科	780,000	補委 日本学術振興会
卵巣がん予防法開発に向けたクラミア感染例の臨床病理学的特徴とTP53変異の検索	松岡 歩	婦人科・周産期母性科	2,340,000	補委 日本学術振興会
血流豊富な妊娠組織遺残を維持する分子機構の分泌性蛋白質スクリーニングによる探索	佐藤 明日香	婦人科・周産期母性科	280,000	補委 日本学術振興会
子宮腺筋症に対する選択的プロゲステロン受容体調節薬の有効性の検討	齊藤 佳子	婦人科・周産期母性科	1,100,000	補委 日本学術振興会
子宮内膜癌における長鎖非コードRNA H19を介した発がんメカニズムの解明	金子 明夏	婦人科・周産期母性科	1,900,000	補委 日本学術振興会
プロラクチン受容体解析とエクソーム解析による母乳分泌不全の原因解明	小林 達也	婦人科・周産期母性科	900,000	補委 日本学術振興会
顆粒球マクロファージコロニー刺激因子による妊娠糖尿病予防法の確率	小林 達也	婦人科・周産期母性科	2,080,000	補委 日本学術振興会
早老症のエビデンス集積を通じて診療の質と患者QOLを向上する全国研究	忍足 俊幸	眼科	200,000	補委 厚生労働省
高血糖モデルにおける眼軸長延長抑制	馬場 隆之	眼科	1,100,000	補委 文部科学省
サイトメガロウイルスのマウス眼における線維柱帯構造変化	清水 大輔	眼科	1,400,000	補委 文部科学省
POEMS症候群治療における眼所見と全身症状の関係に関する研究	岩瀬 雄仁	眼科	400,000	補委 文部科学省
黄斑円孔に対する幹細胞由来網膜組織移植後の電子顕微鏡によるシナプス解析	秋葉 龍太郎	眼科	1,100,000	補委 文部科学省
視神経挫滅ラットモデルを用いた多角的アプローチによる視神経再生戦略の検討	忍足 俊幸	眼科	1,300,000	補委 文部科学省
早老症モデルマウスを用いた眼老化メカニズムの解明	北村 裕太	眼科	1,000,000	補委 公益財団法人高齢者眼疾患研究財団
電子顕微鏡を用いた黄斑円孔における網膜中心窩回路のリモデリング解析	杜 沛岩	眼科	1,000,000	補委 公益財団法人日本失明予防協会
免疫チェックポイント阻害剤の課題克服を目指した腫瘍特異的T細胞の解析	猪爪 隆史	皮膚科	1,100,000	補委 文部科学省科学研究費
紫外線ダーモスコピー画像によるメラノーマの病巣範囲の自動決定法の開発	外川 八英	皮膚科	1,300,000	補委 文部科学省科学研究費
抗PD-1抗体への獲得耐性に関わる候補分子CD109とCD276の機能解析	松澤 高光	皮膚科	1,200,000	補委 文部科学省科学研究費
エピゲノム情報に注目した悪性黒色腫の新しい治療標的分子の解明	山本 洋輔	皮膚科	1,500,000	補委 文部科学省科学研究費
大規模レセプトデータ(NDB)を活用した皮膚感染症の治療実態に関する疫学研究	宮地 秀明	皮膚科	2,010,292	補委 文部科学省科学研究費
エピゲノム解析によるMRSAのアウトブレイク株解析と予防法の樹立	山崎 由里子	皮膚科	1,600,000	補委 加齢皮膚医学研究基金
鼻副鼻腔原発の粘膜型悪性黒色腫の免疫ゲノム解析および重粒子線の影響解明	猪爪 隆史	皮膚科	200,000	補委 カシオ科学振興財団
免疫チェックポイント分子の同定用サービスに係る症例画像の提供	川島 秀介	皮膚科	800,000	補委 ちば県民保健予防財団
メラノーマ特異的T細クローンの個細胞解析による次世代がん免疫療法の開発	猪爪 隆史	皮膚科	3,000,000	補委 リディオアリー記念ヒラス皮膚科学振興財団
進行期のメラノーマ患者に生じる白斑における浸潤リンパ球の腫瘍反応性と性質、利用可能性の検証	猪爪 隆史	皮膚科	1,250,000	補委 日本白斑学会
アンドロゲン受容体ならびにエピゲノム修飾を標的とした去勢抵抗性前立腺癌の克服	市川 智彦	泌尿器科	4,000,000	補委 日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
リキッドバイオプシーを応用したアミノ酸トランスポーター前立腺癌治療モデル構築	坂本 信一	泌尿器科	1,000,000	補委 日本学術振興会
前立腺癌AR-V7標的遺伝子の同定を目的とした網羅的エピゲノム解析	今村 有佑	泌尿器科	1,100,000	補委 日本学術振興会
ホルモン治療中の前立腺癌再発を早期に検出可能にするバイオマーカーの開発	竹内 信善	泌尿器科	1,100,000	補委 日本学術振興会
網羅的マイクロRNA発現解析による去勢抵抗性前立腺癌・新規治療標的分子の探索	新井 隆之	泌尿器科	800,000	補委 日本学術振興会
微小環境下の前立腺癌エピゲノム変化に基づく去勢抵抗性獲得機序の解明	金坂 学斗	泌尿器科	800,000	補委 日本学術振興会
前立腺癌の去勢抵抗性増殖を起こすFAK-YAP経路を活性化させる新規GPCRの探索	五島 悠介	泌尿器科	600,000	補委 日本学術振興会
HOXC8を標的とした去勢抵抗性前立腺癌の新規治療法の確立	黒住 顕	泌尿器科	1,100,000	補委 日本学術振興会
尿路上皮癌治療耐性に関与するスーパーエンハンサーの同定とマスター遺伝子の探索	加藤 繭子	泌尿器科	700,000	補委 日本学術振興会
前立腺癌におけるAR依存性を軸としたエピジェネティックな治療抵抗性獲得機構の解明	佐藤 広明	泌尿器科	1,300,000	補委 日本学術振興会
残尿・排尿機能に注目した尿路上皮癌膀胱内再発の病態解明と新規予防法の開発	佐塚 智和	泌尿器科	900,000	補委 日本学術振興会
がん幹細胞性の解析にもとづく革新的な腎がん薬物治療戦略の開発	鎌田 修平	泌尿器科	1,800,000	補委 日本学術振興会
補体レクチン経路が尿路結石形成に与える影響の解析	若井 健	泌尿器科	600,000	補委 日本学術振興会
間質性膀胱炎の分子生物学的観点からの病態解明	加賀 勘家	泌尿器科	600,000	補委 日本学術振興会
鼻副鼻腔原発の粘膜型悪性黒色腫の免疫ゲノム解析および重粒子線の影響解明	花澤 豊行	耳鼻咽喉・頭頸部外科	1,690,000	補委 日本学術振興会
NKT細胞免疫系アプローチを用いたアレルギー性鼻炎に対するワクチン療法の開発	米倉 修二	耳鼻咽喉・頭頸部外科	1,560,000	補委 日本学術振興会
頭頸部扁平上皮癌・スーパーエンハンサー解析に基づく抗癌剤耐性機構の解明	吉川 直子	耳鼻咽喉・頭頸部外科	1,300,000	補委 日本学術振興会
シングルセル解析からつなげる舌下免疫療法の作用機序の解明	飯沼 智久	耳鼻咽喉・頭頸部外科	1,430,000	補委 日本学術振興会
ダニアレルギー性鼻炎の新規診断法と舌下免疫療法の効果に関するバイオマーカー	新井 智之	耳鼻咽喉・頭頸部外科	1,950,000	補委 日本学術振興会
α-galcerシートとNKT細胞免疫系を用いたアレルギー性鼻炎の新規治療法	栗田 惇也	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,170,000	補委 日本学術振興会
鼻ポリープに常在する特殊なメモリーT細胞に着目した好酸球性副鼻腔炎の病態解明	米田 理葉	耳鼻咽喉・頭頸部外科	1,950,000	補委 日本学術振興会
HNSCCにおけるTLSとstem-like T細胞の相互作用の解明	三田 恭義	耳鼻咽喉・頭頸部外科	1,690,000	補委 日本学術振興会
オルガノイド実験系を用いた頭頸部扁平上皮癌における免疫チェックポイント阻害薬に対する治療抵抗性機序の解明	花澤 豊行	耳鼻咽喉・頭頸部外科	300,000	補委 特定非営利活動法人医療・福祉ネットワーク千葉
母乳中micro RNAが食物アレルギー発症に及ぼす影響	中野 泰至	小児科	2,000,000	補委 公益財団法人ニッポンハム食の未来財団
網羅的脳MRI解析を用いた巨脳症性疾患の予後予測のための画像バイオマーカーの探索	塩浜 直	小児科	1,300,000	補委 文部科学省
ヘッジホッグ異常症の病態解明と効果的阻害薬の同定	藤井 克則	小児科	780,000	補委 文部科学省
microRNA病態に基づいたレット症候群の治療薬開発	塩浜 直 (研究分担者)	小児科	700,000	補委 日本医療研究開発機構
遺伝的背景改善による発達障害に対する根治的治療法の基盤技術開発	塩浜 直 (研究分担者)	小児科	2,000,000	補委 日本医療研究開発機構
精神・神経疾患での脳画像撮像および解析手法の標準化と臨床応用に関する研究	塩浜 直 (研究分担者)	小児科	1,300,000	補委 国立精神・神経医療研究センター
網羅的MRI解析を用いた思春期早発症一脳構造連関の解明	高谷 具純	小児科	500,000	補委 公益財団法人成長科学協会
COVID-19パンデミック期における川崎病発症と小児感染症に関する研究	濱田 洋通 (研究分担者)	小児科	100,000	補委 日本川崎病研究センター
血小板活性化に着目した新しい川崎病診断方法の開発	奥主 健太郎	小児科	1,000,000	補委 日本川崎病研究センター
将来の妊娠に備えた精神科薬物療法を臨床現場に実装する研究	橋本 佐	精神神経科 こどものこころ診療部	910,000	補委 文部科学省
医療観察法鑑定入院における付添人と医療者との連携方法とその効果検証に関する研究	椎名 明大	精神神経科 こどものこころ診療部	520,000	補委 文部科学省

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
オキシトシン-GABAバスキュレイに着目した最難治統合失調症の病態解析	金原 信久	精神神経科 こどものこころ診療部	2,080,000	(補)委 文部科学省
心的外傷後ストレス障害に対するイフェンプロジルの有効性と睡眠の質評価	佐々木 剛	精神神経科 こどものこころ診療部	1,170,000	(補)委 文部科学省
抗精神病薬により薬剤耐性の予防法およびドパミン過感受性精神病解除法の探索	小田 靖典	精神神経科 こどものこころ診療部	1,040,000	(補)委 文部科学省
N-メチル-D-アスパラギン酸受容体作動薬による治療抵抗性統合失調症治療の再検討	木村 大	精神神経科 こどものこころ診療部	1,300,000	(補)委 文部科学省
統合失調症の自閉症的特性/オキシトシン/バソプレシンに着目した治療反応性の検討	仲田 祐介	精神神経科 こどものこころ診療部	1,300,000	(補)委 文部科学省
被虐待歴を持つ妊婦のオキシトシン系システムの検討	橘 真澄	精神神経科 こどものこころ診療部	1,430,000	(補)委 文部科学省
気分障害患者のライフイベントに関連した心理的苦悩症状のための尺度開発	佐藤 愛子	精神神経科 こどものこころ診療部	650,000	(補)委 文部科学省
患者レジストリを二次利用した潜在的患者ニーズの自動抽出方法の検討	佐々木 剛 (研究分担者)	精神神経科 こどものこころ診療部	1,560,000	(補)委 文部科学省
退院後の地域生活を見据えた切れ目ない診療モデルの普及と地域生活支援体制の構築に向けた研究	伊豫 雅臣	精神神経科 こどものこころ診療部	10,800,000	(補)委 厚生労働省
精神障害者にも対応した地域包括ケアシステムの構築を推進する政策研究	椎名 明大 (研究分担者)	精神神経科 こどものこころ診療部	300,000	(補)委 厚生労働省
治療抵抗性統合失調症薬の安全性の検証による望ましい普及と体制構築に向けた研究	新津 富央 (研究分担者)	精神神経科 こどものこころ診療部	800,000	(補)委 厚生労働省
摂食障害に対する標準的な治療方法 心理的アプローチと身体的アプローチとその研修方法の開発及び普及に資する研究	橘 真澄 (研究分担者)	精神神経科 こどものこころ診療部	700,000	(補)委 厚生労働省
新型コロナウイルス感染症(COVID-19)に対するフルボキサミンの重症化予防効果に関する医師主導治験(FLVOCCOstudy)	新津 富央	精神神経科 こどものこころ診療部	222,227,000	(補)委 AMED
自殺ポリジェニックリスクスコアを用いた精神疾患患者の自殺リスク予測に関する研究開発	新津 富央 (研究分担者)	精神神経科 こどものこころ診療部	400,000	(補)委 AMED
精神疾患レジストリの利活用による治療効果、転帰予測、新たな層別化に関する研究/血液由来試料の解析と縦断データに基づく、こどもの発達障害と気分障害の治療効果及び予後に関する層別化	佐々木 剛	精神神経科 こどものこころ診療部	2,210,000	(補)委 AMED
千葉県子ども心の診療ネットワーク事業	佐々木 剛	精神神経科 こどものこころ診療部	7,790,000	(補)委 千葉県
癌関連collagenを標的とした新たな治療抵抗性の克服を目指す日米共同研究	鶴澤 一弘	歯科・顎・口腔外科	7,150,000	(補)委 文部科学省
スーパーエンハンサーを標的とした口腔癌薬剤耐性機構の解明による治療法開発	鶴澤 一弘	歯科・顎・口腔外科	5,590,000	(補)委 文部科学省
癌抑制型人工合成環状RNAによる癌進展抑制メカニズムの解明と創薬の開発	笠松 厚志	歯科・顎・口腔外科	5,980,000	(補)委 文部科学省
Heterogeneityに着目した口腔癌抗薬剤耐性機構の解明と制御薬の開発	坂本 洋右	歯科・顎・口腔外科	1,300,000	(補)委 文部科学省
LH2-Colをターゲットとする免疫チェックポイント耐性克服療法の開発	中嶋 大	歯科・顎・口腔外科	1,170,000	(補)委 文部科学省
CRISPR/Cas9ノックアウトスクリーニングによる放射線耐性メカニズムの同定	伊豫田 学	歯科・顎・口腔外科	1,430,000	(補)委 文部科学省
血小板活性化因子受容体PAFRを介した抗薬剤耐性に対する新規効果増強療法の開発	小山 知芳	歯科・顎・口腔外科	1,430,000	(補)委 文部科学省
口腔癌患者由来・癌関連線維芽細胞、機能性RNA解析に基づく治療標的分子の探索	駒 綾香	歯科・顎・口腔外科	1,430,000	(補)委 文部科学省
口腔癌の抗薬剤耐性を決定するtandem duplicatorの全ゲノム解析	宮本 勲	歯科・顎・口腔外科	2,470,000	(補)委 文部科学省
クロマチンアクセシビリティ解析による口腔癌放射線耐性因子の同定と新規治療法の開発	齋藤 智昭	歯科・顎・口腔外科	2,730,000	(補)委 文部科学省
CRISPRスクリーニング法を用いたセツキンマブ耐性分子機構の解明	喜田 晶洋	歯科・顎・口腔外科	2,080,000	(補)委 文部科学省
全身麻酔中の高炭酸ガス血症維持が術後回復過程と退院時アウトカムに与える影響	磯野 史朗	麻酔・疼痛・緩和医療科	1,740,000	(補)委 日本学術振興会
マスク換気困難のメカニズムの解明とマスク人工呼吸法の改善の研究	雨宮 めぐみ	麻酔・疼痛・緩和医療科	2,240,000	(補)委 日本学術振興会
呼吸困難感に対するオピオイドを用いた症状緩和とプロトコール確立	田口 奈津子	麻酔・疼痛・緩和医療科	475,000	(補)委 日本学術振興会
高流量鼻カニューラ酸素療法による術後上気道閉塞の治療効果の解明	坂口 雄一	麻酔・疼痛・緩和医療科	2,000,000	(補)委 日本学術振興会
非拘束、非接触ベッドセンサー生体情報モニターの小児術後管理における有用性検討	波照間 友基	麻酔・疼痛・緩和医療科	160,000	(補)委 日本学術振興会
筋弛緩拮抗薬投与後の再クラーレ化危険因子とそのメカニズム解明に関する研究	村松 隆宏	麻酔・疼痛・緩和医療科	650,000	(補)委 日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
スガマデクス投与による声門狭窄発生のメカニズム:ランダム化比較試験	石橋 克彦	麻酔・疼痛・緩和医療科	1,100,000	補委 日本学術振興会
看護師が成す癌死72時間前の予測に関する非接触非拘束型生体情報モニターによる解析	田口 奈津子 (研究分担者)	麻酔・疼痛・緩和医療科	500,000	補委 日本学術振興会
術前経胸壁心臓超音波検査による麻酔導入時低血圧予測及び予防法の確立	多羅尾 健太郎	麻酔・疼痛・緩和医療科	660,000	補委 日本学術振興会
咽頭浮腫と喉頭浮腫を区別可能なカプリークテスト(CLP)の開発と臨床応用	山田 高之	麻酔・疼痛・緩和医療科	2,100,000	補委 日本学術振興会
ウェアラブル端末を用いた患者のADL客観的評価を慢性疼痛治療指標とする試み	高井 啓有	麻酔・疼痛・緩和医療科	2,100,000	補委 日本学術振興会
ウイルス感染症後遺症による神経炎症の分子機構の解明	神 久予	麻酔・疼痛・緩和医療科	2,100,000	補委 日本学術振興会
経頭蓋電気刺激による脳神経疾患での姿勢制御異常に対する新規治療開発	樋口 佳則	脳神経外科	500,000	補委 日本学術振興会
新プロテオミクス解析から捉える下垂体腫瘍における遺伝子型-表現型連関の解明	堀口 健太郎	脳神経外科	900,000	補委 日本学術振興会
安静時fMRIを用いた脳腫瘍患者の脳内ネットワークの機能的結合の解析	廣野 誠一郎	脳神経外科	1,370,000	補委 日本学術振興会
脳梗塞に対する血清抗体マーカーによる発症予測と病型診断	吉田 陽一	脳神経外科	1,340,000	補委 日本学術振興会
LOCI法を用いた新規グリオーマ血清診断自己抗体マーカーの確立	松谷 智郎	脳神経外科	1,800,000	補委 日本学術振興会
ロングリード次世代シーケンサーを用いた髄液リキッドバイオプシーの確立と臨床応用	足立 明彦	脳神経外科	1,400,000	補委 日本学術振興会
高悪性度神経内分泌肺癌切除例に対する術後補助化学療法の標準治療確立のための研究	吉野 一郎	呼吸器外科	637,000	補委 日本医療研究開発機構
成体固形がんに対する標準治療確立のための基盤研究	吉野 一郎	呼吸器外科	300,000	補委 国がん研究センター研究開発費
抗線維化薬による肺移植後慢性移植肺機能不全の予防	山中 崇寛	呼吸器外科	400,000	補委 令和4年度ちば県民保健予防基金助成金
難治性呼吸器疾患・肺高血圧症に関する調査研究	巽 浩一郎	呼吸器内科	5,900,000	補委 厚生労働省
難治性呼吸器疾患・肺高血圧症に関する調査研究	鈴木 拓児	呼吸器内科	100,000	補委 厚生労働省
難治性呼吸器疾患・肺高血圧症に関する調査研究	田邊 信宏	呼吸器内科	100,000	補委 厚生労働省
難治性呼吸器疾患・肺高血圧症に関する調査研究	坂尾 誠一郎	呼吸器内科	100,000	補委 厚生労働省
難治性呼吸器疾患・肺高血圧症に関する調査研究	寺田 二郎	呼吸器内科	100,000	補委 厚生労働省
難治性呼吸器疾患・肺高血圧症に関する調査研究	杉浦 寿彦	呼吸器内科	100,000	補委 厚生労働省
薬剤性間質性肺炎・重症薬疹に関するバイオマーカー候補の適格性確認と規制要件案の作成に関する研究	巽 浩一郎	呼吸器内科	3,150,000	補委 日本医療研究開発機構
薬剤性間質性肺炎・重症薬疹に関するバイオマーカー候補の適格性確認と規制要件案の作成に関する研究	安部 光洋	呼吸器内科	350,000	補委 日本医療研究開発機構
慢性血栓塞栓性肺高血圧症における肺動脈バルーン形成術の医療の質評価及びフィードバックシステムを構築する社会実装研究	巽 浩一郎	呼吸器内科	100,000	補委 日本医療研究開発機構
ワクチン開発のための世界トップレベル研究開発拠点群 千葉シナジーキャンパス(千葉大学 未来粘膜ワクチン研究開発シナジー拠点)	鈴木 拓児	呼吸器内科	5,000,000	補委 日本医療研究開発機構
新型コロナウイルス感染症で血管炎を誘導する新たな病的免疫細胞集団の同定と病態形成機構の解明	鈴木 拓児	呼吸器内科	2,000,000	補委 日本医療研究開発機構
新型コロナウイルス感染症(COVID-19)に対するフルボキサミンの重症化予防効果に関する医師主導治験(FLVOCCO study)	鈴木 拓児	呼吸器内科	5,000,000	補委 日本医療研究開発機構
気道組織における病的リモデリング(線維化)機構の解明と病態制御治療戦略の基盤構築	鈴木 拓児	呼吸器内科	3,500,000	補委 日本医療研究開発機構
気道組織における病的リモデリング(線維化)機構の解明と病態制御治療戦略の基盤構築	川崎 剛	呼吸器内科	1,000,000	補委 日本医療研究開発機構
レジストリを活用した慢性血栓塞栓性肺高血圧症に対するエドキサパンの適応拡大のための第Ⅲ相医師主導治験	巽 浩一郎	呼吸器内科	1,400,000	補委 日本医療研究開発機構
患者レジストリJapan PH Registryを活用した肺動脈性肺高血圧症のアンメットメディカルニーズに対するエビデンス創出研究	巽 浩一郎	呼吸器内科	500,000	補委 日本医療研究開発機構
患者レジストリJapan PH Registryを活用した肺動脈性肺高血圧症のアンメットメディカルニーズに対するエビデンス創出研究	重田 文子	呼吸器内科	400,000	補委 日本医療研究開発機構
ウイルス-人体相互作用ネットワークの理解と制御	鈴木 拓児	呼吸器内科	2,000,000	補委 国立研究開発法人科学技術振興機構

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
GM-CSF吸入療法の新たな効能: 肺胞/間質性マクロファージのバランスへの介入	鈴木 拓児	呼吸器内科	50,000	補委 日本学術振興会
肺の恒常性維持・生体防御・組織修復を標的とした難治性呼吸器疾患治療法の開発と応用	鈴木 拓児	呼吸器内科	4,300,000	補委 日本学術振興会
異常ミトコンドリアが紡ぐ抗腫瘍免疫応答の本態解明	池田 英樹	呼吸器内科	900,000	補委 日本学術振興会
CTEPH血管リモデリングの病態解明から新規治療へ; 血管内皮細胞に着目して	須田 理香	呼吸器内科	800,000	補委 日本学術振興会
自己抗体マーカーによる睡眠時無呼吸症候群の脳梗塞・心筋梗塞発症予測とモニタリング	寺田 二郎	呼吸器内科	700,000	補委 日本学術振興会
肺動脈性肺高血圧症における組織常在マクロファージの役割と治療応用	重田 文子	呼吸器内科	200,000	補委 日本学術振興会
臨床実習中の学習者に自発的行動を促す新しい対面指導法の実現に関する研究	笠井 大	呼吸器内科	40,000	補委 日本学術振興会
慢性閉塞性肺疾患における呼気ガス分析を用いた診断システムの探索	川田 奈緒子	呼吸器内科	800,000	補委 日本学術振興会
重症肺高血圧症モデルマウスにおける内皮血球転換と肺血管リモデリング機構の解明	関根 亜由美	呼吸器内科	600,000	補委 日本学術振興会
腸内細菌叢の変容が肺高血圧症の病態に関与する機序の解明と臨床応用のシーズ探索	田邊 信宏	呼吸器内科	350,000	補委 日本学術振興会
腸内細菌叢の変容が肺高血圧症の病態に関与する機序の解明と臨床応用のシーズ探索	重城 喬行	呼吸器内科	350,000	補委 日本学術振興会
好中球NETsに着目した慢性閉塞性肺疾患の病態解明	伊狩 潤	呼吸器内科	1,200,000	補委 日本学術振興会
「咳嗽・喀痰の診療ガイドライン2019」喀痰総論の改訂に向けたエビデンスの構築	寺田 二郎	呼吸器内科	100,000	補委 日本学術振興会
KRAS変異肺がん細胞における複数のがん抑制遺伝子の変異併存時の治療標的探索	下村 巖	呼吸器内科	1,200,000	補委 日本学術振興会
fibroblastic fociの細胞起源解明による革新的線維化抑制治療の開発	坂尾 誠一郎	呼吸器内科	1,600,000	補委 日本学術振興会
呼吸器疾患予後予測システムの開発 新型コロナウイルス感染症から慢性進行性疾患まで	川田 奈緒子	呼吸器内科	2,200,000	補委 日本学術振興会
CD26/DPP-4を標的とした肺線維症の新規治療戦略確立に向けた分子基盤の解明	川崎 剛	呼吸器内科	1,600,000	補委 日本学術振興会
急性肺障害における骨髄由来間葉系幹細胞エクソソームの治療応用可能性の検討	内藤 亮	呼吸器内科	1,400,000	補委 日本学術振興会
呼吸器系先天異常疾患の診療体制構築とデータベースおよび診療ガイドラインに基づいた医療水準向上に関する研究	照井 慶太	小児外科	300,000	補委 厚生労働省
Long-read sequenceによるヒルシュスブルグ病の包括的遺伝子解析	照井 慶太	小児外科	800,000	補委 日本医療研究開発機構
神経芽腫難治微小病変の可視化とセラノスティクスによる新規治療開発	菱木 知郎	小児外科	50,000	補委 日本医療研究開発機構
神経芽腫難治微小病変の可視化とセラノスティクスによる新規治療開発	照井 慶太	小児外科	50,000	補委 日本医療研究開発機構
神経芽腫難治微小病変の可視化とセラノスティクスによる新規治療開発	小松 秀吾	小児外科	50,000	補委 日本医療研究開発機構
インドシアニングリーン修飾リポソームを用いた小児肝がん新規治療法の確立	小松 秀吾	小児外科	1,100,000	補委 日本医療研究開発機構
神経芽腫による抗腫瘍免疫抑制機序を応用した新規免疫療法の開発	吉澤 比呂子	小児外科	1,800,000	補委 日本医療研究開発機構
小児短腸症候群患者の腸管順応における腸内細菌叢がもたらす役割の解明	川口 雄之亮	小児外科	1,200,000	補委 日本医療研究開発機構
膵・胆管合流異常を背景とする胆管癌発生の分子機構解明	菱木 知郎	小児外科	1,200,000	補委 日本医療研究開発機構
末梢神経軸索興奮性、脳機能画像による神経障害性疼痛の病態解明と個別化治療の確立	桑原 聡	脳神経内科	900,000	補委 日本学術振興会
運動ニューロン疾患における神経興奮性検査を用いた新規治療薬開発	澁谷 和幹	脳神経内科	800,000	補委 日本学術振興会
POEMS症候群におけるサイトカインプロファイル解析と臓器特異的治療点の探索	水地 智基	脳神経内科	1,000,000	補委 日本学術振興会
プロテオーム解析を用いた特発性後天性全身性無汗症の標的抗原の網羅的解析	荒木 信之	脳神経内科	2,000,000	補委 日本学術振興会
エクソソームmiRNAを用いた多発性硬化症の血液脳関門破壊バイオマーカーの開発	栢田 大生	脳神経内科	2,000,000	補委 日本学術振興会
標的抗原細胞外領域とIgG1Fc融合タンパク質による自己抗体病の革新的治療法開発	森 雅裕	脳神経内科	3,000,000	補委 日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
PETを用いた認知症脳病態の多様性評価に基づく新規診断・治療戦略確立に関する研究	平野 成樹	脳神経内科	30,000	補委 日本学術振興会
臨床実習中の学習者に自発的行動を促す新しい対面指導法の開発に関する研究	杉山 淳比古	脳神経内科	40,000	補委 日本学術振興会
ギラン・バレー症候群における補体プロファイルの網羅的解析による個別化治療の開発	中村 圭吾	脳神経内科	2,000,000	補委 日本学術振興会
シングルセルRNA解析を用いた重症筋無力症の分子病態解明	赤嶺 博行	脳神経内科	1,000,000	補委 日本学術振興会
疾患レジストリ・バイオバンクを用いたCIDPの遺伝子バイオマーカーの確立	青墳 佑弥	脳神経内科	300,000	補委 日本学術振興会
ヒト脳マイクロパソフジオリジカルシステムズ:脳疾患の生体模倣と創薬研究への応用	栴田 大生	脳神経内科	500,000	補委 日本学術振興会
神経免疫疾患のエビデンスに基づく診断基準・重症度分類・ガイドラインの妥当性と患者QOLの検証	桑原 聡	脳神経内科	6,860,000	補委 厚生労働省
神経免疫疾患のエビデンスに基づく診断基準・重症度分類・ガイドラインの妥当性と患者QOLの検証	三澤 園子	脳神経内科	800,000	補委 厚生労働省
神経免疫疾患のエビデンスに基づく診断基準・重症度分類・ガイドラインの妥当性と患者QOLの検証	鶴沢 顕之	脳神経内科	400,000	補委 厚生労働省
運動失調症の医療水準, 患者のQOLの向上に資する研究班	桑原 聡	脳神経内科	700,000	補委 厚生労働省
神経変性疾患領域の基盤的調査研究	桑原 聡	脳神経内科	900,000	補委 厚生労働省
自己免疫性自律神経障害の全国調査、診断基準策定、国際的な総意形成	鶴沢 顕之	脳神経内科	100,000	補委 厚生労働省
新規発見ノド抗原に基づいたノド抗体陽性慢性炎症性脱髄性多発神経炎/中枢末梢連合脱髄症の診断基準・診療ガイドライン作成のためのエビデンスの創出とバイオバンク・レジストリ構築	桑原 聡	脳神経内科	350,000	補委 日本医療研究開発機構
運動失調症の治療法開発を見据えた病型別前向き自然歴・バイオマーカーの確立	桑原 聡	脳神経内科	500,000	補委 日本医療研究開発機構
長期寛解を目指した革新的重症筋無力症治療薬の開発	桑原 聡	脳神経内科	3,556,000	補委 日本医療研究開発機構
多施設連携プラットフォーム(MABB)を基盤にした各種認知症性疾患に対する日本発の包括的な診断・層別化バイオマーカーシステムの確立	平野 成樹	脳神経内科	3,700,000	補委 日本医療研究開発機構
血液脳関門破綻を可視化する革新的プロトコル開発	栴田 大生	脳神経内科	1,800,000	補委 公益財団法人高橋産業経済研究財団
血液脳関門に着目した進行型多発性硬化症病態解明へ向けた革新的動物モデル確立	栴田 大生	脳神経内科	2,000,000	補委 公益財団法人武田科学振興財団
敗血症における細胞外マトリックスタンパク質の機能解明と革新的治療の創出	栗田 健郎	救急科・集中治療部	900,000	補委 日本学術振興会
A novel treatment for REBOA complications: Hydrogen gas inhalation therapy to alleviate oxidative stress due to ischemia-reperfusion injury	松村 洋輔	救急科・集中治療部	4,100,000	補委 日本学術振興会
先進的ゲノム網羅解析統合による敗血症遺伝子多型研究の新展開	中田 孝明	救急科・集中治療部	4,400,000	補委 日本学術振興会
脂肪細胞における脂質受容体を介した病原脂質の解毒に関する研究	島田 忠長	救急科・集中治療部	400,000	補委 日本学術振興会
敗血症におけるIL-22関連蛋白の腸管恒常性破綻への関与とその制御	大網 毅彦	救急科・集中治療部	1,700,000	補委 日本学術振興会
網羅的タンパク質解析を用いた心停止/心停止後症候群に関わる新規物質の発見	今枝 太郎	救急科・集中治療部	1,400,000	補委 日本学術振興会
急性腸間膜虚血における新規biomarkerの開発・検証	柄澤 智史	救急科・集中治療部	1,000,000	補委 日本学術振興会
Mitigation of the cytokine storm with blood purification induced by the ischemia-reperfusion injury: A novel treatment for REBOA complications	林 洋輔	救急科・集中治療部	1,200,000	補委 日本学術振興会
敗血症性DICにおけるCD69-My19/12システムの関与	宮内 清司	救急科・集中治療部	1,100,000	補委 日本学術振興会
重症急性膵炎におけるCD 69-My19/12システムの関与について	大村 拓	救急科・集中治療部	1,200,000	補委 日本学術振興会
CRT測定条件の標準化と臨床的有用性の確立および高精度CRT測定装置の開発	齋藤 大輝	救急科・集中治療部	1,100,000	補委 日本学術振興会
ICTとAIを活用した患者の病院間搬送支援システムの構築研究	中田 孝明	救急科・集中治療部	3,300,000	補委 厚生労働科学研究費
AI救急予測アルゴリズムの実用化を目指した検証の研究開発	大島 拓	救急科・集中治療部	1,320,000	補委 日本医療研究開発機構
冷却刺激誘導ベージュ(beige)脂肪細胞を用いた新しい脂肪移植法の確立	三川 信之	形成・美容外科	1,000,000	補委 日本学術振興会
リンパ管内皮細胞の再生と誘導による革新的皮膚抗老化治療の開発	秋田 新介	形成・美容外科	3,100,000	補委 日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
慢性創傷における血小板・マクロファージの相互作用の解析と細胞治療への応用	小坂 健太朗	形成・美容外科	1,200,000	補 委	日本学術振興会
脳腫瘍のリハビリテーションの確立に向けた術後機能予後およびQOL規定要因の解明	平野潤	リハビリテーション部	3,380,000	補 委	文部科学省 日本学術振興会
人工呼吸器関連肺炎の予防に対する排痰補助装置の集中治療領域への応用	黒岩 良太	リハビリテーション部	3,640,000	補 委	日本学術振興会
ハイリスク患者に対する肺炎球菌ワクチンの理想的な接種プログラムの確立	石和田 稔彦	感染症内科 真菌医学研究センター	3,400,000	補 委	文部科学省
集団機能ゲノミクスによる病原真菌の適応機構の解明と遺伝子を標的とした新規治療法の開発	渡邊 哲	感染症内科 真菌医学研究センター	3,000,000	補 委	AMED
薬剤耐性糸状菌真菌症の制御にむけた検査薬・治療薬の研究開発	渡邊 哲	感染症内科 真菌医学研究センター	6,000,000	補 委	AMED 宮崎大学
令和4年度千葉県新型コロナウイルスワクチン接種技の副反応に係る専門的な医療関連運営業務受託	上原 孝紀	総合診療科	2,604,000	補 委	千葉県
診療録データに基づく医療面接の構造化及びモデル化に関する研究	野田 和敬	総合診療科	500,000	補 委	日本学術振興会
国民、医師を対象とした総合診療専門医に関するニーズ調査	生坂 政臣 (研究分担者)	総合診療科	6,000	補 委	日本学術振興会□
Post-CC OSCEを国家試験化するにあたっての妥当性・信頼性・公平性等の検証に関する研究	鋪野 紀好 (研究分担者)	総合診療科	1,100,000	補 委	厚生労働省
JAMEP基本的臨床推論能力評価試験(GM-ITE:General Medicine In-Training Examination)質向上についての研究	鋪野 紀好 (研究分担者)	総合診療科	6,500,000	補 委	日本学術振興会□
寝たきり度を用いた院内転倒予測モデルの多様な医療機関での検証と実用化に関する研究	鋪野 紀好 (研究分担者)	総合診療科	18,630,000	補 委	日本学術振興会□
機械学習を用いた医学生におけるアンプロフェッショナルリズムな行動に関する予測モデル	鋪野 紀好	総合診療科	4,420,000	補 委	日本学術振興会□
患者中心性視点からのかかりつけ医の質と受療行動に関する調査研究	池上 亜希子	総合診療科	1,300,000	補 委	日本学術振興会□
学術誌抄録から学習した疾患名の分散表現は疾患同士の距離を表現しうるか	横川 大樹	総合診療科	4,680,000	補 委	日本学術振興会□
臨床実習中の学習者に自発的行動を促す新しい対面指導法の実現に関する研究	塚本 知子 (研究分担者)	総合診療科 (総合医療教育研修センター)	52,000	補 委	日本学術振興会□
インターフェロンフリー治療がC型肝炎患者の予後を含めたアウトカムに与える影響を明らかにする研究	加藤直也	消化器内科	200,000	補 委	日本医療研究開発機構
高ずり応力を伴う循環器疾患に随伴する消化管血管異形成の形成・消退の実態解明	加藤直也	消化器内科	200,000	補 委	日本医療研究開発機構
allograftマウスモデルによる肝細胞癌の癌免疫逃避機構の解明	千葉 哲博	消化器内科	800,000	補 委	日本学術振興会
FGF19・FGFR4シグナル阻害による肝癌分子標的薬の新規治療戦略	神崎 洋彰	消化器内科	400,000	補 委	日本学術振興会
社会実装可能な人工知能を用いた画期的大腸癌深達度診断システムの開発	松村 倫明	消化器内科	1,500,000	補 委	日本学術振興会
細胞診アーカイブスのゲノム情報;最難治癌に対する精密医療を目指して	大山 広	消化器内科	1,430,000	補 委	日本学術振興会
パレット食道の発癌リスクの層別化を目指した内視鏡的生検組織の多面的検討	徳長 鎮	消化器内科	390,000	補 委	日本学術振興会
ネオ抗原の質的評価を通じた抗腫瘍免疫応答の解明	石野 貴雅	消化器内科	1,560,000	補 委	日本学術振興会
肝細胞癌の背景肝に蓄積したT細胞の腫瘍抗原認識に着目した機能解析	小笠原 定久	消化器内科	800,000	補 委	日本学術振興会
病原性ヘルパーT細胞を中心とした好酸球性食道炎と食道アカシアの病態解明	金子 達哉	消化器内科	2,600,000	補 委	日本学術振興会
腸肝相関に着目した非アルコール性脂肪性肝疾患由来肝癌の腫瘍免疫制御法の創出	佐久間 崇文	消化器内科	1,100,000	補 委	日本学術振興会
膵癌における細菌叢および真菌叢の検討	山田 俊儒	消化器内科	1,100,000	補 委	日本学術振興会
ゲノム異常に着目した食道扁平上皮癌の革新的な診断・治療法の開発	明杖 直樹	腫瘍内科	390,000	補 委	日本学術振興会
ゲノム解析による膵・胆管合流異常の進化系統学的発癌機序の解明	高橋 幸治	腫瘍内科	1,560,000	補 委	日本学術振興会
潰瘍性大腸炎に対するTXI(Texture and Color Enhancement Imaging)観察による重症度および再燃リスク評価における有用性の検討	對田 尚	消化器内科	500,000	補 委	内視鏡医学研究振興財団
膵癌患者由来検体を用いたゲノム・トランスクリプトーム解析に基づく膵癌早期診断法の確立	大山 広	消化器内科	300,000	補 委	日本対がん協会
十二指腸腫瘍の病理/遺伝学的なrisk層別化を目指した新規術前内視鏡診断法の確立	沖元 謙一郎	消化器内科	400,000	補 委	武田科学振興財団

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
炎症性腸疾患に合併する原発性硬化症胆管炎の早期診断法の開発および病態解明	對田 尚	消化器内科	1,000,000	補 委 土屋文化振興財団
POEMS症候群における微小クローン同定による診断治療戦略の確立	堺田 恵美子	血液内科	1,100,000	補 委 日本学術振興会
成熟B細胞腫瘍モデルマウスによる腫瘍免疫逃避機構の解明と新規治療開発	三村 尚也	輸血・細胞療法部	1,100,000	補 委 日本学術振興会
形質細胞シングルセルRNAシーケンスによるALアミロイドーシス網羅的遺伝子解析	竹田 勇輔	血液内科	1,000,000	補 委 日本学術振興会
自然免疫シグナル経路を介した造血器腫瘍制御機構の統合的解明と治療応用	武藤 朋也	血液内科	3,500,000	補 委 日本学術振興会
自然免疫シグナルから迫る造血器腫瘍の分子病態	武藤 朋也	血液内科	1,713,800	補 委 日本学術振興会
poems症候群患者血小板および骨髄間質細胞遺伝子発現解析	塚本 祥吉	血液内科	110,170	補 委 日本学術振興会
本邦における初発急性前骨髄球性白血病に対するATRA・TAO併用分化誘導療法の確立	堺田 恵美子	血液内科	300,000	補 委 日本医療研究開発機構
POEMS症候群の発症機構の解明と治療戦略の確立	堺田 恵美子	血液内科	2,000,000	補 委 日本血液学会
ポドサイト障害抑制因子の探索と慢性腎臓病治療薬開発の試み	辰元 為仁	腎臓内科	1,100,000	補 委 日本学術振興会
ポドサイトにおけるユビキチン・プロテアソームで発現調整を受ける分子の網羅的解析	牧野 慎市	腎臓内科	700,000	補 委 日本学術振興会
透析患者の免疫能低下における腸内細菌叢変化の寄与	若林 華恵	腎臓内科	1,800,000	補 委 日本学術振興会
腎糸球体足細胞(ポドサイト)に特異的に発現するスリット膜関連蛋白:Dendrinのタンパク機能解析と慢性腎臓病(CKD)治療薬の創出	浅沼 克彦	腎臓内科	2,000,000	補 委 藤井節郎記念大阪基礎医学研究奨励会
遺伝性血管性浮腫における急性浮腫発作出現時のブラジキニン受容体動態解析のための研究	本田 大介	腎臓内科	2,000,000	補 委 藤井節郎記念大阪基礎医学研究奨励会
腎臓の糸球体上皮細胞における、ユビキチン・プロテアソーム系の役割の検討	牧野 慎市	腎臓内科	2,000,000	補 委 藤井節郎記念大阪基礎医学研究奨励会
ウイルス感染に対する自然免疫系	中島 裕史	アレルギー・膠原病内科	34,290,059	補 委 国立研究開発法人科学技術振興機構
気道リモデリング修復による新規喘息治療戦略の確立	中島 裕史	アレルギー・膠原病内科	3,900,000	補 委 日本学術振興会
濾胞性制御性T細胞分化誘導による新規SLE治療法確立のための基礎的検討	鈴木 浩太郎	アレルギー・膠原病内科	1,497,725	補 委 日本学術振興会
アレルギー性気道炎症局所における制御性T細胞の機能維持機構の解明	須藤 明	アレルギー・膠原病内科	1,122,119	補 委 日本学術振興会
アレルギー性気道炎症における侵害刺激受容体TRPV2の役割	前澤 裕子	アレルギー・膠原病内科	1,095,636	補 委 日本学術振興会
罹患組織の単細胞RNAシーケンス解析を起点としたIgG4関連疾患の病態の解明	池田 啓	アレルギー・膠原病内科	1,774,102	補 委 日本学術振興会
喘息の気道上皮細胞における“炎症記憶”に関する研究	横田 雅也	アレルギー・膠原病内科	1,387,435	補 委 日本学術振興会
Fizzled受容体シグナルによるアレルギー性気道炎症の誘導機構の解明とその制御	岩田 有史	アレルギー・膠原病内科	886,899	補 委 日本学術振興会
難治性血管炎の医療水準・患者QOL向上に資する研究	古田 俊介	アレルギー・膠原病内科	200,000	補 委 厚生労働省
マンノース受容体陽性マクロファージを標的にした大血管炎治療への挑戦	古田 俊介	アレルギー・膠原病内科	1,000,000	補 委 日本学術振興会
I型インターフェロンによる自己反応性B細胞活性化及びブルーパス腎炎発症機構の解明	岩本 太郎	アレルギー・膠原病内科	1,777,884	補 委 日本学術振興会
関節リウマチの病態形成におけるFGFR1陽性CD4陽性T細胞の役割の解明	田中 繁	アレルギー・膠原病内科	1,777,450	補 委 日本学術振興会
新規免疫異常症原因遺伝子SBNO2の活性制御分子メカニズムの解析	目黒 和行	アレルギー・膠原病内科	1,100,000	補 委 日本学術振興会
気道上皮細胞の炎症記憶への介入による新規気道炎症制御法の確立	影山 貴弘	アレルギー・膠原病内科	1,600,000	補 委 日本学術振興会
関節リウマチにおけるCXCL13産生CD4陽性T細胞の役割と分化制御機構の解明	須賀 謙介	アレルギー・膠原病内科	1,800,000	補 委 日本学術振興会
健康長寿の促進に向けた新規老化関連因子の探索と老化予測システムの開発	横手 幸太郎	糖尿病・代謝・内分泌内科	9,997,000	補 委 日本医療研究開発機構
早老症疾患特異的iPS細胞を用いた老化促進メカニズムの解明を目指す研究	横手 幸太郎	糖尿病・代謝・内分泌内科	66,000,000	補 委 日本医療研究開発機構
大規模疾患コホート・アカデミア連携を基盤とするオミックス解析・サーベイランス体制の整備による新興感染症重症化リスク因子の探索	横手 幸太郎 (研究分担者)	糖尿病・代謝・内分泌内科	3,100,000	補 委 日本医療研究開発機構

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
フレイル高齢者のレジストリ研究及びロコモ、サルコペニアを含めた病態解明及び予防介入法の確立を目指した臨床ならびに関連研究	横手 幸太郎	糖尿病・代謝・内分泌内科	600,000	補 委 国立長寿医療研究センター
家族性LCAT欠損症を対象としたLCAT-GMAC治療実用化に向けた医師主導治験	横手 幸太郎	糖尿病・代謝・内分泌内科	60,811,400	補 委 日本医療研究開発機構
生活習慣病予防のための行動変容継続を実現するための指標に関する研究	横手 幸太郎 (研究分担者)	糖尿病・代謝・内分泌内科	2,000,000	補 委 日本医療研究開発機構
早老症ウェルナー症候群の革新的治療開発	横手 幸太郎	糖尿病・代謝・内分泌内科	22,366,500	補 委 日本医療研究開発機構
4種のFoxOのインスリン抵抗性および寿命延長作用における役割の解明	小野 啓	糖尿病・代謝・内分泌内科	1,300,000	補 委 日本学術振興会
多層的モデルの解析に基づく老化と関連疾患の分子病態解明	横手 幸太郎	糖尿病・代謝・内分泌内科	8,100,000	補 委 日本学術振興会
老化モデル疾患を対象としたNAD前駆体による革新的治療および老化抑制機序の検討	横手 幸太郎	糖尿病・代謝・内分泌内科	4,300,000	補 委 日本学術振興会
糖尿病の血管合併症におけるPericyte老化の役割の解明	前澤 善朗	糖尿病・代謝・内分泌内科	3,600,000	補 委 日本学術振興会
原発性脂質異常症に関する調査研究	横手 幸太郎	糖尿病・代謝・内分泌内科	200,000	補 委 厚生労働省
原発性脂質異常症に関する調査研究	小倉 正恒	糖尿病・代謝・内分泌内科	200,000	補 委 厚生労働省
早老症のエビデンス集積を通じて診療の質と患者QOLを向上する全国研究	横手 幸太郎	糖尿病・代謝・内分泌内科	5,170,000	補 委 厚生労働省
指定難病の普及・啓発に向けた包括的研究	横手 幸太郎	糖尿病・代謝・内分泌内科	1,250,000	補 委 厚生労働省
治療用ナノ粒子の創製:リボタンパク質の構造と機能に着目した眼難病疾患治療戦略	小倉 正恒	糖尿病・代謝・内分泌内科	500,000	補 委 日本学術振興会
AKAP13を用いた骨代謝調節機構の解明	小出 尚史	糖尿病・代謝・内分泌内科	200,000	補 委 日本学術振興会
治療抵抗性の冠動脈粥腫内石灰化形成におけるプロテアーゼPCSK7の意義解明研究	小倉 正恒	糖尿病・代謝・内分泌内科	500,000	補 委 日本学術振興会
低HDL血症に対する冠動脈疾患克服の新戦略:家族性高コレステロール血症での検討	小倉 正恒	糖尿病・代謝・内分泌内科	169,000	補 委 日本学術振興会
加齢や生活習慣による腎障害の病態解明に資する危険因子、生体マーカーの包括的検討	越坂 理也	糖尿病・代謝・内分泌内科	1,700,000	補 委 日本学術振興会
早老症Werner症候群患者検体を用いた老化に伴うインスリン抵抗性の機序解明	木下 大輔	糖尿病・代謝・内分泌内科	700,000	補 委 日本学術振興会
家族性高コレステロール血症の残余リスク制圧:コレステロール搬出促進薬の開発基盤	小倉 正恒	糖尿病・代謝・内分泌内科	1,913,477	補 委 日本学術振興会
AKAP13を用いたグルコシルコリドの新たな骨代謝調節機構の解明	石田 晶子	糖尿病・代謝・内分泌内科	1,100,000	補 委 日本学術振興会
R3hdm1が切り開く筋骨連関の機序解明およびCKD・サルコペニアの新規治療戦略	石川 崇広	糖尿病・代謝・内分泌内科	800,000	補 委 日本学術振興会
グルタミン代謝の急性腎障害および腎臓を起点とする臓器連関における役割解明	鈴木 佐和子	糖尿病・代謝・内分泌内科	1,400,000	補 委 日本学術振興会
一細胞レベルで肝細胞の局在と機能の関係を明らかにし、肝糖代謝に新見を加える	藤本 真徳	糖尿病・代謝・内分泌内科	1,000,000	補 委 日本学術振興会
ヒト老化モデルの核酸代謝異常がもたらす老化促進機序の解明	加藤 尚也	糖尿病・代謝・内分泌内科	1,800,000	補 委 日本学術振興会
転写因子FoxO1/PPAR α を用いた選択的インスリン抵抗性の病態解明	北本 匠	糖尿病・代謝・内分泌内科	2,100,000	補 委 日本学術振興会
腹部ステントグラフト術後血管イベントの早期予測システムの開発	渡邊 倫子	心臓血管外科	4,290,000	補 委 日本学術振興会
CFDを用いたCABGにおける中枢composite graft吻合の形態的解析	焼田 康紀	心臓血管外科	4,550,000	補 委 日本学術振興会
心筋虚血再灌流障害の関するIL-11による心筋ミトコンドリア保護効果の解明	池内 博紀	心臓血管外科	4,680,000	補 委 日本学術振興会
エクソソーム・腸内細菌叢解析による癌宿主連環制御に基づく食道・胃癌分子治療開発	松原 久裕	食道・胃腸外科	3,800,000	補 委 日本学術振興会
CTコロノグラフィーにおけるテクスチャ解析を用いたスクリーニング検査の開発	栃木 透	食道・胃腸外科	1,040,000	補 委 日本学術振興会
食道扁平上皮癌におけるFra-1による低酸素誘導因子カスケード制御機構の解析	豊住 武司	食道・胃腸外科	1,170,000	補 委 日本学術振興会
胃癌腹膜播種に対する癌由来エクソソームを用いた革新的個別化治療の開発	松本 泰典	食道・胃腸外科	1,950,000	補 委 日本学術振興会
食道扁平上皮癌における長寿遺伝子サーチュインの生物学的意義解明と革新的治療の開発	大塚 亮太	食道・胃腸外科	1,430,000	補 委 日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
切除不能または再発食道癌に対するCF(シスプラチン+5-FU)療法とbDCF(biweekly ドセキタル+CF)療法のランダム化第Ⅲ相比較試験	松原 久裕	食道・胃腸外科	877,500	補 委 静岡県立がんセンター
肝胆膵領域癌におけるLGR5を標的としたSTAT3活性抑制による新規治療の開発	久保木 知	肝胆膵外科	1,300,000	補 委 日本学術振興会
障害肝における肝障害後肝再生機構の解明と再生促進治療開発:肝切除術の適応拡大へ	小西 孝宜	肝胆膵外科	1,430,000	補 委 日本学術振興会
肝胆膵領域癌におけるIRG1を介した抗炎症作用に基づく新規治療戦略	吉住 有人	肝胆膵外科	1,560,000	補 委 日本学術振興会
大腸癌におけるRYBPを介した腫瘍制御機構の解明	森中 孝至	肝胆膵外科	1,040,000	補 委 日本学術振興会
大腸癌の発癌、進展、転移形成における新規治療ターゲットとしてのYAF2の機能解析	酒井 望	肝胆膵外科	1,000,000	補 委 大和証券ヘルス財団調査研究助成金
In vivoエストロゲン非依存性乳癌細胞株による内分泌療法抵抗性機序の解析研究	山田 英幸	乳腺外科	2,210,000	補 委 日本学術振興会
二重機能を有する抗酸化物質による難治性乳癌に対する新たな治療戦略	高田 護	乳腺外科	520,000	補 委 日本学術振興会
Cinobufagin inhibits proliferation of acute myeloid leukaemia cells by repressing c-Myc pathway-associated genes.	平崎 能郎	和漢診療科	330,000	補 委 日本学術振興会
Conventional and Kampo Medicine Treatment for Mild-to-moderate COVID-19: A Multicenter, Retrospective, Observational Study by the Integrative Management in Japan for	並木 隆雄	和漢診療科	15,000,000	補 委 AMED
Multicenter, randomized controlled trial of traditional Japanese medicine, kakkonto with shosaikotokakikyosekko, for mild and moderate coronavirus disease patients.	並木 隆雄	和漢診療科	15,000,000	補 委 AMED
Evaluation of shoseiryuto for seasonal allergic rhinitis, using an environmental challenge chamber.	並木 隆雄	和漢診療科	15,000,000	補 委 AMED
新型コロナウイルス感染症(COVID-19)に対する漢方薬治療の臨床エビデンス構築 日本東洋医学会のCOVID-19に対する取り組みと学会主導臨床研究について	並木 隆雄	和漢診療科	15,000,000	補 委 AMED
肺扁平上皮がんの多面的アプローチによる分子標的薬の開発	滝口 裕一	腫瘍内科	700,000	補 委 日本学術振興会
医療情報データベースに保存された医療情報の実践的な利活用のためのデータ検証(バリデーション)業務	鈴木 隆弘	企画情報部	10,840,908	補 委 医薬品医療機器総合機構
医療情報データベースの活用推進に関する研究	鈴木 隆弘	企画情報部	3,380,000	補 委 厚生労働省
医療施設における標準コードの効率的なマッピング手法に関する調査および実証研究	鈴木 隆弘	企画情報部	260,000	補 委 日本医療研究開発機構
NDBデータの臨床研究応用のための解析手法の開発	鈴木 隆弘	企画情報部	780,000	補 委 文部科学省
中央集約型と分散型の併用による医療情報共有のためのトラスト(信頼関係)の評価法	松下一之	検査部	2,836,021	補 委 日本学術振興会
がん細胞のリボソーム構成タンパク質の発現解析と転写後調節への関与	松下一之	検査部	1,428,804	補 委 日本学術振興会
臨床検査の異常反応の検出と精度保証の研究	松下一之	検査部	50,000	補 委 日本学術振興会
がん遺伝子パネル検査の外部精度評価スキームの戦略的実践によって検査の質向上を図る	松下一之	検査部	50,000	補 委 日本学術振興会
長鎖DNA解析を基盤とする臨床検査群を可能とする本邦初のプラットフォームの開発	西村 基	検査部	2,500,000	補 委 日本学術振興会
マルチオミクスを用いた新規歯周疾患マーカーの開発	西村 基	検査部	100,000	補 委 日本学術振興会
1本鎖DNA/RNA選択的解析によるCOVID-19を含む感染症検査の広範な改良	西村 基	検査部	3,600,000	補 委 日本学術振興会
質量分析によるビタミンD関連マーカーの高精度分析およびGC遺伝子多型との関連解析	石毛 崇之	検査部	1,100,000	補 委 日本学術振興会
検体・項目多重化によるステロイドホルモンのハイスループットLC/MS検査法の開発	石毛 崇之	検査部	50,000	補 委 日本学術振興会
質量分析計によるβ-ラクタム系・カルバペネム系抗菌薬の薬剤感受性試験の臨床応用	石毛 崇之	検査部	100,000	補 委 日本学術振興会
消化器・難治がんのリボソーム生合成の新規メカニズム解明と診断、治療法への応用	北村 浩一	検査部	350,000	補 委 金沢大学がん進展制御研究所
数理科学と医療管理学を融合した新興感染症の推計モデルと医療費資源配分手法	佐藤 大介	次世代医療構想センター	2,070,000	補 委 日本学術振興会
指定難病と医療介護データの統合による経時的解析可能な難病データベース基盤の開発	佐藤 大介	次世代医療構想センター	2,070,000	補 委 日本学術振興会
レセプトデータベース(NDB)の利用を容易にするための包括的支援システムの開発	佐藤 大介 (研究分担者)	次世代医療構想センター	200,000	補 委 日本学術振興会
公的資金が投入されている医療の公共性と公共財としての在り方に関する研究	佐藤 大介 (研究分担者)	次世代医療構想センター	100,000	補 委 日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
HIV感染症及びその併存疾患や関連医療費の実態把握のための研究	佐藤 大介 (研究分担者)	次世代医療構想センター	500,000	補委 日本学術振興会
地域医療構想の達成に向けた病院管理者のための組織マネジメント研修プログラムの普及啓発のための研究	佐藤 大介 (研究分担者)	次世代医療構想センター	100,000	補委 厚生労働省
医薬品・医療機器の費用対効果評価における分析ガイドラインの改定に資する研究	佐藤 大介 (研究分担者)	次世代医療構想センター	600,000	補委 厚生労働省
将来の医療需要への効果的効率的な対応に向けた、DPCデータ等を用いた回復期・地域密着型医療の確保のための研究	佐藤 大介 (研究分担者)	次世代医療構想センター	200,000	補委 厚生労働省
小児科医師確保計画を踏まえた小児医療の確保についての政策研究	吉村 健佑	次世代医療構想センター	3,132,000	補委 厚生労働省
地域の実情に応じた医療提供体制の構築を推進するための政策研究	吉村 健佑 (研究分担者)	次世代医療構想センター	2,000,000	補委 厚生労働省
令和4年度千葉県在宅医療スタートアップ支援事業	吉村 健佑	次世代医療構想センター	17,150,000	補委 千葉県
専門職連携のための専門職連携によるFD実践のための基盤研究とプログラム開発	伊藤 彰一	総合医療教育研修センター	1,040,000	補委 日本学術振興会
英国大学と協働で開発するグローバル・地域包括ケアIPEプログラムの構築	朝比奈 真由美	総合医療教育研修センター	780,000	補委 日本学術振興会
回復期リハビリテーション病棟におけるEBP実装プログラムの検証	酒井 郁子	総合医療教育研修センター	3,510,000	補委 日本学術振興会
外国人患者が安心する医療を提供するために医学英語教育プログラムとは何か？	稲川 知子	総合医療教育研修センター	1,040,000	補委 日本学術振興会
実践的EBM能力を有する医療者養成のための教育プログラム開発とその効果検証	笠井 大	総合医療教育研修センター 呼吸器内科	260,000	補委 日本学術振興会
オンライン模擬医療面接におけるmini-CEXを用いた学生評価の信頼性の検証	塚本 知子	総合医療教育研修センター 総合診療科	780,000	補委 日本学術振興会
Proof-of-concept Study for Podoplanin-targeted Radioimmunotherapy for Glioblastoma as a New Therapeutic Option	Fatema Chowdhury Nusrat	総合医療教育研修センター	1,690,000	補委 日本学術振興会
生涯学習としての患者安全: 事故事例か自己研鑽をもたらす学習科学的戦略の確立	清水 郁夫	総合医療教育研修センター	2,730,000	補委 日本学術振興会
NKT細胞再生によるがん免疫治療技術開発拠点	本橋 新一郎	未来開拓センター	30,000,000	補委 日本医療研究開発機構
再発・進行頭頸部がん患者を対象としたiPS-NKT細胞動注療法に関する第I相試験の第2用量	本橋 新一郎	未来開拓センター	32,772,000	補委 日本医療研究開発機構
再発・進行頭頸部がん患者を対象とした他家iPS-NKT細胞および自家DC/Gal併用療法に関する臨床研究	本橋 新一郎	未来開拓センター	21,885,410	補委 日本医療研究開発機構
エピジェネティクス編集技術を用いた革新的脂肪移植治療法開発に資する基盤的研究	黒田 正幸 (研究分担者)	未来開拓センター	4,700,000	補委 日本学術振興会
移植後生着細胞からのアプローチによる脂肪細胞遺伝子治療製品の移植効率向上研究	黒田 正幸	未来開拓センター	1,200,000	補委 日本学術振興会
皮下脂肪組織由来細胞のシングルセル解析と計算生物学に基づく革新的脂肪移植の開発	黒田 正幸 (研究分担者)	未来開拓センター	4,400,000	補委 日本学術振興会
家族性LCAT欠損症を対象としたLCAT-GMAC治療実用化に向けた医師主導治験	黒田 正幸 (研究分担者)	未来開拓センター	46,778,000	補委 日本医療研究開発機構 (AMED)
蛋白翻訳機構に着目した動脈硬化進展における血管平滑筋細胞の新規増殖亢進機序	内田 雅士	薬剤部	1,200,000	補委 日本学術振興財団
持続血液濾過透析による吸着クリアランスを考慮した抗菌薬投与設計の構築	山崎 伸吾	薬剤部	1,800,000	補委 日本学術振興財団
薬物中枢移行性の変動を考慮した薬物療法の実施に向けた情報基盤の構築	石川 雅之	薬剤部	1,000,000	補委 日本学術振興財団
薬剤の副作用を化学構造から予測する新規手法の確立	堀田 美紗	薬剤部	622,000	補委 政策医療振興財団
化学構造から高尿酸血症誘発薬剤を予測する新規手法の確立	堀田 美紗	薬剤部	150,000	補委 痛風・尿酸財団
ワルファリン服用患者における胆道閉塞時のPT-INR延長と関連因子の検討	中澤 孝文	薬剤部	400,000	補委 日本学術振興財団
Risk factors for early-phase clozapine discontinuation: A nested case-control study	築地 茉莉子	薬剤部	500,000	補委 一般社団法人日本臨床精神神経薬理学会
プラチナ系抗がん薬による腎障害回避を目的とした新規尿中バイオマーカーの臨床応用	鈴木 貴明	薬剤部	1,200,000	補委 厚生労働省
拠点病院集中型のHIV診療から、地域分散型のHIV患者の医療・介護体制の構築	鈴木 貴明 (研究分担者)	薬剤部	1,000,000	補委 厚生労働省
英国大学と協働で開発するグローバル・地域包括ケアIPEプログラムの構築	石井 伊都子 (研究分担者)	薬剤部	780,000	補委 日本学術振興会
専門職連携のための専門職連携によるFD実践のための基盤研究とプログラム開発	石井 伊都子 (研究分担者)	薬剤部	1,040,000	補委 日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
新治療法開発のための医薬品・医療機器・再生医療等製品創造と科学の双翼プロジェクト	花岡 英紀	臨床試験部	171,449,000	補 委	日本医療研究開発機構
成人発症スチル病(AOSD)に対する5-アミノレブリン酸塩酸塩/クエン酸第一鉄ナトリウム(5-ALA HCL/SFC)投与の医師主導治験	花岡 英紀	臨床試験部	30,000,000	補 委	日本医療研究開発機構
標準化電子ワークシートを核とした分散型臨床試験のシステム・運用両面からの構築	花岡 英紀	臨床試験部	12,584,000	補 委	日本医療研究開発機構

計415件

(注)

- 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Kitahara H.	循環器内科	How Can We Prevent Both Bleeding and Ischemic Events After Percutaneous Coronary Intervention in High-Bleeding Risk Patients?	Circ J. 2022;86:1362-1364.	Others
2	Nishi T, Kume T, Yamada R, et al.	循環器内科	Variation of the Appearance of Intraplaque Hemorrhage on Optical Coherence Tomography and Intravascular Ultrasound.	JACC Cardiovasc Interv. 2023 Apr 24;16(8):997-999.	Original Article
3	Nishi T, Kume T, Uemura S.	循環器内科	Resuscitated sudden cardiac arrest related to intraplaque haemorrhage and coronary artery spasm.	Eur Heart J. 2023 May 14;44(19):1766. doi: 10.1093/eurheartj/ehad096. PMID: 36883355.	Original Article
4	Nishi T, Ishii M, Tsujita K, et al.	循環器内科	Outcomes of Venoarterial Extracorporeal Membrane Oxygenation Plus Intra-Aortic Balloon Pumping for Treatment of Acute Myocardial Infarction Complicated by Cardiogenic Shock.	J Am Heart Assoc. 2022;11:e023713.	Original Article
5	Nishi T, Kume T, Yamada R, et al.	循環器内科	Layered Plaque in Organic Lesions in Patients With Coronary Artery Spasm.	J Am Heart Assoc. 2022;11:e024880.	Original Article
6	Kato K, Daimon M, Sano M, et al.	循環器内科	Dynamic Trend of Myocardial Edema in Takotsubo Syndrome: A Serial Cardiac Magnetic Resonance Study.	J Clin Med. 2022;11:987.	Original Article
7	Saito Y, Tateishi K, Kanda M, et al.	循環器内科	Volume-Outcome Relationships for Percutaneous Coronary Intervention in Acute Myocardial Infarction.	J Am Heart Assoc. 2022;11:e023805.	Original Article
8	Saito Y, Inohara T, Kohsaka S, et al.	循環器内科	Characteristics and outcomes of patients with no standard modifiable risk factors undergoing primary revascularization for acute myocardial infarction: Insights from the nationwide J-PCI registry.	Am Heart J. 2023;258:69-76.	Original Article
9	Saito Y, Inohara T, Kohsaka S, et al.	循環器内科	Volume-outcome relationships of percutaneous coronary intervention in patients presenting with acute myocardial infarction: Insights from the J-PCI registry.	Am J Cardiol. 2023;192:182-189.	Original Article
10	Matsumoto T, Saito Y, Yamashita D, et al.	循環器内科	Impact of Active and Historical Cancer on Short- and Long-Term Outcomes in Patients With Acute Myocardial Infarction.	Am J Cardiol. 2021;159:59-64.	Original Article
11	Yamashita D, Saito Y, Sato T, et al.	循環器内科	Impact of PARIS and CREDO-Kyoto Thrombotic and Bleeding Risk Scores on Clinical Outcomes in Patients with Acute Myocardial Infarction.	Circ J. 2022;86:622-629.	Original Article
12	Asada K, Saito Y, Sato T, et al.	循環器内科	Prognostic Value of Natriuretic Peptide Levels and In-Hospital Heart Failure Events in Patients With Acute Myocardial Infarction.	Circ J 2023. 87:540-647.	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
13	Kondo Y, Kajiyama T, Chiba T, et al.	循環器内科	Continuous RAPID-mode ablation with a third-generation laser balloon.	Int J Cardiol Heart Vasc. 2022 Oct 17;43:101137.	Original Article
14	Kitahara H, Yamazaki T, Hiraga T, et al.	循環器内科	Extent of lipid core plaque in patients with Achilles tendon xanthoma undergoing percutaneous coronary intervention for coronary artery disease.	J Cardiol. 2022;79:559-563.	Original Article
15	Kobayashi T, Kitahara H, Kato K, et al.	循環器内科	Impact of Parathyroid Hormone Level on Intracoronary Calcification and Short- and Long-Term Outcomes in Dialysis Patients Undergoing Percutaneous Coronary Intervention.	Circ J. 2023 Jan 25;87(2):247-255.	Original Article
16	Saito K, Kitahara H, Mastuoka T, et al.	循環器内科	Influence of myocardial bridge on atherosclerotic plaque distribution and characteristics evaluated by near-infrared spectroscopy intravascular ultrasound.	Heart Vessels. 2022 Oct;37(10):1701-1709.	Original Article
17	Tateishi K, Saito Y, Kitahara H, et al.	循環器内科	Relation of glucose variability to vulnerable plaque formation in patients with coronary artery disease.	Heart Vessels. 2022;37:1516-1525.	Original Article
18	Tateishi K, Saito Y, Matsuoka T, et al.	循環器内科	Layered coronary plaque associated with coronary vasospasm.	Cardiovasc Interv Ther. 2022;37:389-390.	Original Article
19	Yamazaki T, Saito Y, Kobayashi T, et al.	循環器内科	Factors associated with discordance between fractional flow reserve and resting full-cycle ratio.	J Cardiol. 2022;80:9-13.	Original Article
20	Yamazaki T, Nishi T, Saito Y, et al.	循環器内科	Discrepancy between plaque vulnerability and functional severity of angiographically intermediate coronary artery lesions.	Cardiovasc Interv Ther. 2022;37:691-698.	Original Article
21	Akutsu A, Horikoshi T, Yokota H, et al.	放射線科	MR Imaging Findings of Carcinoma Ex Pleomorphic Adenoma Related to Extracapsular Invasion and Prognosis.	American Journal of Neuroradiology 2022 Nov; 43 (11) 1639-1645; DOI: https://doi.org/10.3174/ajnr.A7656	Original Article
22	Tsuchiya S, Saiga A, Yokota H, et al.	放射線科	Prophylactic Steroids for Preventing Postembolization Syndrome after Transcatheter Arterial Embolization of Renal Angiomyolipoma: A Comparative Study.	Interventional Radiology 2023; Mar 1;8(1):1-6	Original Article
23	Takada A, Yokota H, Nemoto MW, et al.	放射線科	Prognosis prediction of uterine cervical cancer using changes in the histogram and texture features of apparent diffusion coefficient during definitive chemoradiotherapy	PLoS One 2023 Mar 31;18(3):e0282710. doi: 10.1371/journal.pone.0282710. eCollection 2023	Original Article
24	Saiga A, Koizumi J, Ueda H, et al.	放射線科	Ischemic Lumbar Plexopathy After Transarterial Embolization of Type II Endoleak Using N-Butyl-2-cyanoacrylate	Cardiovasc Intervent Radiol.2022 Apr;45(4):536-538.	Case report
25	Nishiyama A, Kawata N, Yokota H, et al.	放射線科	Heterogeneity of Lung Density in Patients With Chronic Thromboembolic Pulmonary Hypertension (CTEPH).	Acad Radiol 2022; 29:e229-e239	Original Article
26	Yoda T, Maki S, Furuya T, et al.	放射線部	Automated Differentiation Between Osteoporotic Vertebral Fracture and Malignant Vertebral Fracture on MRI Using a Deep Convolutional Neural Network	Spine (Phila Pa 1976). 2022 Apr 15;47(8):E347-E352	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
27	Shimokawa K, Matsumoto K, Yokota H, et al.	放射線部	Anxiety relaxation during MRI with a patient-friendly audiovisual system	Radiography (Lond). 2022 Aug;28(3):725-731	Original Article
28	Matsumoto K, Yokota H, Yoda T, et al.	放射線部	Reproducibility between three-dimensional turbo spin-echo and two-dimensional dual inversion recovery turbo spin-echo for coronary vessel wall imaging in Kawasaki disease	Sci Rep. 2022 Apr (オンライン)	Original Article
29	Murata T, Hayashi Y, Onoguchi M, et al.	放射線部	Optimization of the Attenuation Coefficient for Chang Attenuation Correction in 123I Brain Perfusion SPECT.	J Nucl Med Technol. 2023 Mar;51(1):49-56.	Original Article
30	Yano S, Matsuura Y, Hagiwara S, et al.	整形外科	Determinants of fracture type in the proximal femur: Biomechanical study of fresh frozen cadavers and finite element models	Bone. 2022 May;158:116352.	Original Article
31	Yoh S, Kawarai Y, Hagiwara S, et al.	整形外科	Intra-articular injection of monoiodoacetate induces diverse hip osteoarthritis in rats, depending on its dose	BMC Musculoskelet Disord. 2022 May ;23(1):494.	Original Article
32	Shoda J, Tanaka S, Etori K, et al.	整形外科	Semaphorin 3G exacerbates joint inflammation through the accumulation and proliferation of macrophages in the synovium.	Arthritis Res Ther. 2022 Jun;24(1):134.	Original Article
33	Yin X, Kim K, Suetsugu H, et al.	整形外科	Biological insights into systemic lupus erythematosus through an immune cell-specific transcriptome-wide association study.	Ann Rheum Dis.2022 May;81(9):1273-1280.	Original Article
34	Inoue T, Maki S, Furuya T, et al.	整形外科	Automated Fracture Screening Using an Object Detection Algorithm on Whole-Body Trauma Computed Tomography.	Scientific Reports .2022 Oct;12(1):16549.	Original Article
35	Minamoto Y, Akagi R, Maki S, et al.	整形外科	Automated Detection of Anterior Cruciate Ligament Tears Using a Deep Convolutional Neural Network.	BMC Musculoskelet Disord. 2022 Jun;23(1):577.	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
36	Mukaihata T, Maki S, Eguchi Y, et al.	整形外科	Differentiating Magnetic Resonance Images of Pyogenic Spondylitis and Spinal Modic Change Using a Convolutional Neural Network.	Spine (Phila Pa 1976) . 2023;48(4):288-294.	Original Article
37	Nozawa K , Maki S, Furuya T, et al.	整形外科	Magnetic Resonance Image Segmentation of the Compressed Spinal Cord in Patients with Degenerative Cervical Myelopathy Using Convolutional Neural Networks.	Int J Comput Assist Radiol Surg. 2023 Jan;18(1):45-54.	Original Article
38	Okimatsu S, Furuya T, Miura M, et al.	整形外科	Early Decompression Promotes Motor Recovery after Cervical Spinal Cord Injury in Rats with Chronic Cervical Spinal Cord Compression.	Scientific Reports. 2022 Aug ;12(1):14400.	Original Article
39	Shimizu T, Suda K, Maki S, et al.	整形外科	Efficacy of a Machine Learning-Based Approach in Predicting Neurological Prognosis of Cervical Spinal Cord Injury Patients Following Urgent Surgery within 24 h after Injury.	Journal of Clinical Neuroscience: Official Journal of the Neurosurgical Society of Australasia. 2023 Jan;107:150-156.	Original Article
40	Yoda T, Maki S, Furuya T, et al.	整形外科	Automated Differentiation Between Osteoporotic Vertebral Fracture and Malignant Vertebral Fracture on MRI Using a Deep Convolutional Neural Network.	Spine (Phila Pa 1976). 2022 Apr 15;47(8):E347-E352.	Original Article
41	Sugiura S, Matsuura Y, Suzuki T, et al.	整形外科	Biomechanical assessment of the first dorsal compartment of the wrist: A fresh cadaver study with relevance to de Quervain's disease	Clinical Anatomy. 2022 Nov;35(8):1058-1063.	Original Article
42	Ozone E, Matsuura Y, Suzuki T, et al.	整形外科	Evaluation of Suture Elongation of Flexor Tendons using the Pulvertaft Method: a Biomechanical Study using Cadaveric Specimens	MLTJ. 2022 April/June;12 (2):241-246	Original Article
43	Mimata H, Matsuura Y, Yano S, et al.	整形外科	Evaluation of bone healing process after intramedullary nailing for femoral shaft fracture by quantitative computed tomography-based finite element analysis.	Clin Biomech. 2022 Dec;100:105790.	Original Article
44	Iwata S, Eguchi Y, Takaoka H, et al.	整形外科	MRI T2-mapping of lumbar facet joints is effective for quantitative evaluation of lumbar instability in patients with degenerative lumbar disorders.	Eur Spine J. 2022 Jun;31(6):1479-1486.	Original Article
45	Mukaihata T, Shiga Y, Inage K, et al.	整形外科	Anterior Spinal Surgery Requiring Thoracotomy for Post-Operative Hematoma Removal: Two Case Reports.	J Orthop Case Rep. 2022 Jul;12(7):75-78.	Case report
46	Suzuki M, Hanaoka E, Shiko Y, et al.	整形外科	Relationship Between Clinical Symptoms and Skin Autofluorescence in Hemodialysis Patients as a Measure of Advanced Glycation End-Product Accumulation	Cureus. 2022 Jul ;14(7):e27081.	Original Article
47	Shimizu K, Inage K, Morita M, et al.	整形外科	New treatment strategy for chronic low back pain with alpha wave neurofeedback.	Sci Rep. 2022 Aug ;12(1):14532.	Original Article
48	Hozumi T, Akagi R, Fabricant PD, et al.	整形外科	Cross-cultural Adaptation and Validation of the Japanese Version of the Hospital for Special Surgery Pediatric Functional Activity Brief Scale (HSS Pedi-FABS).	Orthop J Sports Med. 2022 Aug ;10(8):23259671221113284.	Original Article
49	Kim G, Inage K, Shiga Y, et al.	整形外科	Bone union-promoting effect of romosozumab in a rat posterolateral lumbar fusion model.	J Orthop Res. 2022 Nov;40(11):2576-2585.	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
50	Takaoka H, Orita S, Inage K, et al.	整形外科	Prevention of Severe Post-operative Urinary Retention after Spinal Surgery for Lumbar Spinal Stenosis: A Technical Review and Five-patient Case Series.	J Orthop Case Rep. 2022 Nov;12(11):71-75.	Original Article
51	Arai T, Suzuki-Narita M, Takeuchi J, et al.	整形外科	Analgesic effects and arthritic changes following intra-articular injection of diclofenac etalhyaluronate in a rat knee osteoarthritis model.	BMC Musculoskelet Disord. 2022 Nov ;23(1):960.	Original Article
52	Takaoka H, Eguchi Y, Shibahashi K, et al.	整形外科	Characteristics and comparative study of thoracolumbar spine injury and dislocation fracture due to tertiary trauma.	Eur Spine J. 2023 Jan;32(1):68-74.	Original Article
53	Takaoka H, Eguchi Y, Koroki J, et al.	整形外科	Quantitative evaluation of the lumbar ligamentum flavum using MRI T2-mapping: Efficacy of its clinical application in patients with lumbar spinal stenosis.	J Orthop Sci. 2023 Jan :S0949-2658(22)00379-7.	Original Article
54	Mukaihata T, Maki S, Eguchi Y, et al.	整形外科	Differentiating Magnetic Resonance Images of Pyogenic Spondylitis and Spinal Modic Change Using a Convolutional Neural Network.	Spine (Phila Pa 1976). 2023 Feb ;48(4):288-294.	Original Article
55	Horii M, Akagi R, Ogawa Y, et al.	整形外科	Foot morphology and correlation with lower extremity pain in Japanese children: A cross-sectional study of the foot posture Index-6	J Orthop Sci. 2023 Jan;28(1):212-216.	Original Article
56	Horii M, Akagi R, Kimura S, et al.	整形外科	The influence of COVID-19 pandemic on the incidence of knee pain and physical activity level in children and adolescents in Japan: A prospective observation study	J Orthop Sci. 2023 Jul;28(4):860-866.	Original Article
57	Horii M, Akagi R, Takahashi S, et al.	整形外科	Risk factors for the occurrence and protraction of patellar and patellar tendon pain in children and adolescents: a prospective cohort study of 3 years	BMC Musculoskelet Disord. 2022 Apr ;23(1):389.	Original Article
58	Nishikimi K, Tate S, Matsuoka A, et al.	婦人科	Predictors of postoperative pancreatic fistula after splenectomy with or without distal pancreatectomy performed as a component of cytoreductive surgery for advanced ovarian cancer.	J Gynecol Oncol. 2022 May;33(3):e30	Original Article
59	Matsuoka A, Tate S, Nishikimi K, et al.	婦人科	Serum FSH as a Useful Marker for the Differential Diagnosis of Ovarian Granulosa Cell Tumors.	Cancers (Basel). 2022 Sep 15;14(18):4480.	Original Article
60	Ishikawa H, Shozu M.	婦人科	Early peritoneal pregnancy in the pouch of Douglas identified by transvaginal ultrasound.	J Gynaecol Obstet. 2022 Oct 6	Original Article
61	Nomoto N, Tate S, Arai M, et al.	臨床栄養部	Pretreatment Nutritional Status in Combination with Inflammation Affects Chemotherapy Interruption in Women with Ovarian, Fallopian Tube, and Peritoneal Cancer.	Nutrients. 2022 Dec 6;14(23):5183.	Original Article
62	Baba T, Yamamoto S.	眼科	CASE OF IDIOPATHIC UVEAL EFFUSION THAT DEVELOPED PROLIFERATIVE DIABETIC RETINOPATHY AFTER SCLERAL RESECTION SURGERY.	Retin Cases Brief Rep. 2022 May 1;16(3):365-367.	Case report
63	Kakisu M, Baba T, Iwase T, et al.	眼科	Relationship between retinal sensitivities and optical coherence tomographic findings in eyes with myopic chorioretinal atrophy	Eur J Ophthalmol. 2022 Sep;32(5):NP24-NP28	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
64	Yamakiri K, Sakamoto T, Koriyama C, et al.	眼科	Effect of surgeon-related factors on outcome of retinal detachment surgery: analyses of data in Japan-retinal detachment registry.	Sci Rep. 2022 Mar 10;12(1):4213.	Original Article
65	Miura G, Ozawa Y, Shiko Y, et al.	眼科	Evaluating the efficacy and safety of transdermal electrical stimulation on the visual functions of patients with retinitis pigmentosa: a clinical trial protocol for a prospective, multicentre, randomised, double-masked and sham-controlled design (EPIC trial)	BMJ Open. 2022 May 6;12(5):e057193.	Original Article
66	Miura G, Baba T, Hashimoto R, et al.	眼科	Long-term follow-up of retinal morphology and physiology after 2000mg sildenafil overdose as a means of attempted suicide: a case report.	BMC Ophthalmol. 2022 May 12;22(1):216.	Case report
67	Tatsumi T, Oshitari T, Takatsuna Y, et al.	眼科	Sodium-Glucose Co-Transporter 2 Inhibitors Reduce Macular Edema in Patients with Diabetes mellitus.	Life (Basel). 2022 May 6;12(5):692	Original Article
68	Tatsumi T, Takatsuna Y, Oshitari T, et al.	眼科	Randomized clinical trial comparing intravitreal aflibercept combined with subthreshold laser to intravitreal aflibercept monotherapy for diabetic macular edema.	Sci Rep. 2022 Jun 23;12(1):10672	Original Article
69	Kawamata Y, Kitamura Y, Yokouchi H, et al.	眼科	Partial visual recovery from incomplete traumatic optic nerve avulsion caused by a badminton shuttle.	Am J Ophthalmol Case Rep. 2022 Jun 15;27:101624.	Case report
70	Ito N, Miura G, Shiko Y, et al.	眼科	Progression Rate of Visual Function and Affecting Factors at Different Stages of Retinitis Pigmentosa.	Biomed Res Int. 2022 Jul 14;2022:7204954.	Original Article
71	Nagai T, Yokouchi H, Miura G, et al.	眼科	Optical coherence tomography findings in three patients with Werner syndrome.	BMC Ophthalmol. 2022 Nov 19;22(1):448	Original Article
72	Akiba R, Takahashi M, Baba T, et al.	眼科	Progress of iPS cell-based transplantation therapy for retinal diseases.	Jpn J Ophthalmol. 2023 Mar;67(2):119-128.	Review
73	Miura G, Fujiwara T, Iwase T, et al.	眼科	Exploratory clinical trial to evaluate the efficacy and safety of transdermal electrical stimulation in patients with central retinal artery occlusion.	PLoS One. 2023 Feb 24;18(2):e0282003.	Original Article
74	Miyachi H, Konishi T, Shigemi D et al.	皮膚科	Association between psoriasis and short-term outcomes of acute myocardial infarction: A matched-pair cohort study using a nationwide inpatient database in Japan	JAAD Int. 2022;8:21-30.	Original Article
75	Iwasawa M, Miyachi H, Wakabayashi S et al.	皮膚科	Epidermal clearance of Candida albicans is mediated by IL-17 but independent of fungal innate immune receptors	Int Immunol. 2022;34:409-420.	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
76	Miyachi H, Konishi T, Hashimoto Y et al.	皮膚科	Clinical course and outcomes of pemphigus vulgaris and foliaceus: A retrospective study using a nationwide database in Japan	J Dermatol. 2023;50:212-221.	Original Article
77	Matsuzawa T, Shu J, Nakamura Y et al.	皮膚科	Anaplastic large-cell lymphoma presenting as large ulcerated tumors and small papules in a 15-year-old girl	Dermatologica Sin. 2022;40:54-55	Case report
78	Shusuke Kawashima, Yosuke Togashi.	皮膚科	Resistance to immune checkpoint inhibitors and the tumor microenvironment.	Exp Dermatol. 2022;32:240-249.	Review
79	Miyachi H, Konishi T, Hashimoto Y et al.	皮膚科	Trends in mortality and morbidity of bullous pemphigoid before and after approval of intravenous immunoglobulin in Japan: An interrupted time-series analysis	Clin Exp Dermatol. 2023 Mar 9;llad086.	Original Article
80	Inozume T.	皮膚科	Adoptive cell transfer therapy for melanoma.	Exp Dermatol. 2023;32:238-239.	Review
81	Wakai K, Azuma K, Iwamura C, et al.	泌尿器科	The new preparation method for paraffin-embedded samples applying scanning electron microscopy revealed characteristic features in asthma-induced mice.	Sci Rep. 2022 May31; 12(1):9046.	Original Article
82	Arai T, Sazuka T, Sato H.	泌尿器科	Efficacy of photodynamic diagnosis-assisted transurethral resection of bladder tumor for T1 bladder cancer: Novel second transurethral resection initiatives utilizing photodynamic diagnosis	Int J Urol 2022 Oc; 29(10):1238-1240.	Original Article
83	Pae S, Sakamoto S, Zhao X, et al.	泌尿器科	Targeting L-type amino acid transporter 1 in urological malignancy: Current status and future perspective.	J Pharmacol Sci. 2022 Dec; 150(4):251-258.	Original Article
84	Baba H, Sakamoto S, Zhao X, et al.	泌尿器科	Tumor Location and a Tumor Volume over 2.8 cc Predict the Prognosis for Japanese Localized Prostate Cancer.	Cancers (Basel). 2022 Nov 25; 14(23):5823.	Original Article
85	Takehita N, Sakamoto S, Kitaguchi D, et al.	泌尿器科	Deep Learning-Based Seminal Vesicle and Vas Deferens Recognition in the Posterior Approach of Robot-Assisted Radical Prostatectomy.	Urology. 2022 Dec 23; 173:98-103.	Original Article
86	Takehita N, Sakamoto S, Yamada Y,	泌尿器科	Detection of intraductal carcinoma in prostate cancer patients with small tumor volume.	Prostate. 2023 May; 83(6):580-589.	Original Article
87	Ryo T, Tomokazu S, Yoshinori H, et al.	泌尿器科	Relationship between Preoperative Pyuria and Bacille Calmette-Guerin Treatment in Intravesical Recurrence after Transurethral Resection of High-Risk, Non-Muscle Invasive, Bladder Carcinoma: A Retrospective Study of Human Data	Cancers (Basel) 2023Mar7; 15(6):1638.	Original Article
88	Shinpei S, Shinichi S, Kosuke H, et al.	泌尿器科	Machine-learning predicts time-series prognosis factors in metastatic prostate cancer patients treated with androgen deprivation therapy.4	Sci Rep 2023 Apr 18; 13(1):6325.	Original Article
89	Shunichi Asai, Tomoaki Saito, et al.	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Genome-Wide Super-Enhancer-Based Analysis: Identification of Prognostic Genes in Oral Squamous Cell Carcinoma	International Journal of Molecular Sciences.2022.8;23(16):9154	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
90	Kosei Mori, Kazuki Yamasaki, Yuki Morimoto, et al.	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Noteworthy Factors to Decide Therapeutic Strategy for Carcinoma ex Pleomorphic Adenoma of Parotid Gland: A Preliminary Study Statistical Analysis of 22 Cases from Single Institution	Life (Basel).2022.10;23(7):1685	Original Article
91	Shunichi Asai, Yusuke Goto, Kengo Tanigawa, et al.	耳鼻咽喉・頭頸部外科	MiR-15b-5p inhibits castration-resistant growth of prostate cancer cells by targeting the muscarinic cholinergic receptor CHRM3	FEBS Letters.2023.2;597(8):1164-1175	Original Article
92	Iinuma T, Kiuchi M, Hirahara K, et al.	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Single-cell immunoprofiling after immunotherapy for allergic rhinitis reveals functional suppression of pathogenic TH2 cells and clonal conversion.	J Allergy Clin Immunol.2022.10;150:850-860	Original Article
93	Yoneda R, Iinuma T, Sakurai D, et al.	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Complement Factor H Is an Early Predictive Biomarker of the Therapeutic Efficacy of Sublingual Immunotherapy for Japanese Cedar Pollinosis.	Pathogens.2022.11;11:1280	Original Article
94	Fukumoto I.	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Preoperative simulation using three-dimensional printer in four temporal bone surgeries	Clinical Case Reports.2023.2(オンライン)	Case report
95	Kobayashi T, Kimura MY, Hasegawa I, et al.	小児科	Increased Myosin light chain 9 expression during Kawasaki disease vasculitis.	Front Immunology. 2022 doi: 10.3389/fimmu.2022.1036672	Original Article
96	Sato H, Inoue Y, Kawashima Y, et al.	小児科	In-Depth Serum Proteomics by DIA-MS with In Silico Spectral Libraries Reveals Dynamics during the Active Phase of Systemic Juvenile Idiopathic Arthritis.	ACS Omega. 2022; 15: 7(8)7012-23	Original Article
97	Shiohama T, Stewart N, Nangaku M, et al.	小児科	Identification of association fibers using ex vivo diffusion tractography in Alexander disease brains.	J Neuroimaging. 2022; 35 : 866-74	Original Article
98	Takatani T, Eguchi A, Yamamoto M, et al.	小児科	Individual and mixed metal maternal blood concentrations in relation to birth size: An analysis of the Japan Environment and Children's Study (JECS).	Environ Int. 2022; 165: 107318	Original Article
99	Takatani T, Kunii Y, Satoh M, et al.	小児科	Vitamin D Metabolite Ratio in Pregnant Women with Low Blood Vitamin D Concentrations Is Associated with Neonatal Anthropometric Data.	Nutrients. 2022; 14(11): 2201	Original Article
100	Masumo Y, Kanahara N, Kogure M, et al.	精神神経科・こどものこころ診療部	Dopamine supersensitivity psychosis and delay of clozapine treatment in patients with treatment-resistant schizophrenia.	International Clinical Psychopharmacology 2023; 38: 102-109.	Original Article
101	Kanahara N, Kimura H, Kinoshita T, et al.	精神神経科・こどものこころ診療部	Efficacy of Asenapine in Drug-resistant Psychotic Patients with Dopamine Supersensitivity Psychosis: Two Cases.	Clinical Psychopharmacology and Neuroscience 2023; 21: 197-201.	Case report
102	Kanahara N, Nakamura M, Shiko Y, et al.	精神神経科・こどものこころ診療部	Are serum oxytocin concentrations lower in patients with treatment-resistant schizophrenia?: A 5-year longitudinal study.	Asian Journal of Psychiatry 2022; 76: 103157.	Original Article
103	Sasaki T, Hashimoto K, Niitsu T, et al.	精神神経科・こどものこころ診療部	lifenprodil tartrate treatment of adolescents with post-traumatic stress disorder: A double-blind, placebo-controlled trial.	Psychiatry Research 2022; 311: 114486.	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
104	Ohsako N, Hashimoto T, Shiko Y, et al.	精神神経科・こどものこころ診療部	Pharmacotherapy for elderly patients with delirium in a general ward setting: A retrospective study.	Asian Journal of Psychiatry 2022; 70: 103024.	Original Article
105	Miyazawa A, Kanahara N, Shiko Y, et al.	精神神経科・こどものこころ診療部	The cortical silent period in schizophrenia: A systematic review and meta-analysis focusing on disease stage and antipsychotic medication.	Journal of Psychopharmacology 2022; 36: 479-488.	Original Article
106	Shibata S, Oda Y, Ohki N, et al.	精神神経科・こどものこころ診療部	Narcolepsy-like symptoms triggered by lemborexant in the context of hyperactive delirium in a patient with bipolar depression: a case report.	Journal of Clinical Sleep Medicine 2022 May 1;18(5):1459-1462.	Case report
107	Minemura C, Asai S, Koma A, et al.	歯科・顎・口腔外科	Identification of Antitumor miR-30e-5p Controlled Genes; Diagnostic and Prognostic Biomarkers for Head and Neck Squamous Cell Carcinoma.	Genes (Basel). 2022 Jul 9;13(7):1225.	Original Article
108	Saito T, Asai S, Tanaka N, et al.	歯科・顎・口腔外科	Genome-Wide Super-Enhancer-Based Analysis: Identification of Prognostic Genes in Oral Squamous Cell Carcinoma.	Int J Mol Sci. 2022 Aug 15;23(16):9154.	Original Article
109	Kasamatsu A, Fukushima R, Nakamura K, et al.	歯科・顎・口腔外科	A novel cell-based transplantation method using a Rho kinase inhibitor and a specific catheter device for the treatment of salivary gland damage after head and neck radiotherapy.	Biochem Biophys Rep. 2022 Nov 12;32:101385.	Original Article
110	Uzawa K, Kasamatsu A, Yamauchi M.	歯科・顎・口腔外科	Collagen cross-linking in oral cancer	Oral Sci Int. https://doi.org/10.1002/osi2.1182 .	Review
111	Yamakawa N, Uzawa K, Kirita T et al.	歯科・顎・口腔外科	Multicenter retrospective study of nivolumab for recurrent/metastatic oral squamous cell carcinoma	Oral Dis. 2022 Dec 15. doi: 10.1111/odi.14471. Online ahead of print.	Original Article
112	Sakaguchi Y, Nozaki-Taguchi N, Isono S, et al.	麻酔・疼痛・緩和医療科	Combination Therapy of High-flow Nasal Cannula and Upper-body Elevation for Postoperative Sleep-disordered Breathing: Randomized Crossover Trial.	Anesthesiology. 2022 Jul 1;137(1):15-27.	Original Article
113	Higuchi Y, Nakano S, Aoyagi K, et al.	脳神経外科	Growth potential of small residual tumors after vestibular schwannoma surgery: comparison between remnants and the natural history of small tumors.	J Neurosurg. 2022 Dec 2:1-9. doi: 10.3171/2022.10.JNS22680. Online ahead of print.	Original Article
114	Kubota M, Zhang BS, Li SY, et al.	脳神経外科	Serum anti-TSTD2 antibody as a biomarker for atherosclerosis-induced ischemic stroke and chronic kidney disease.	Med Int (Lond). 2022 Dec 21;3(1):4. doi: 10.3892/mi.2022.64.	Original Article
115	Ozaki K, Higuchi Y, Nakano S, et al.	脳神経外科	Arachnoid cyst alone causes hemifacial spasm: illustrative case.	J Neurosurg Case Lessons. 2022 Apr 11;3(15):CASE2275. doi: 10.3171/CASE2275. Print 2022 Apr 11.	Case report
116	Sasaki M, Hirono S, Gao Y, et al.	脳神経外科	Clinicopathological and genomic features of pediatric intracranial myxoid mesenchymal tumor with both of EWSR1-CREM gene fusion and MAP3K13 mutation: A case report and comparison with adult cases in the literature.	NMC Case Rep J. 2022 May 18;9:101-109. doi: 10.2176/jns-nmc.2021-0385. eCollection 2022.	Case report
117	Yoshida Y, Kobayashi E, Matsuda T, et al.	脳神経外科	Ruptured bilateral middle cerebral artery aneurysms diagnosed based on cerebral vasospasm-associated ischemic symptoms: A case report.	Radiol Case Rep 17(12): 4470-4477, 2022	Case report

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
118	Yoshida Y, Kobayashi E, Kubota M, et al.	脳神経外科	Two Patients with Reversible Cerebral Vasoconstriction after Carotid Artery Stenting.	Neuroendovasc Ther. 2022;16(2):106-115. doi: 10.5797/jnet.cr.2019-0123. Epub 2021 Jun 22.	Case report
119	Yoshida Y, Tajima Y, Kubota M, et al.	脳神経外科	Carotid Artery Stenting for Patients with Radiation-Induced Carotid Artery Stenosis.	J Neuroendovasc Ther. 2022;16(12):600-605. doi: 10.5797/jnet.oa.2022-0017. Epub 2022 Nov 1.	Original Article
120	Honda S, Tajima Y, Yoshida Y, et al.	脳神経外科	Aneurysm formation after gamma-knife surgery for pituitary adenoma.	Acta Neurol Belg. 2023 Apr;123(2):723-725. doi: 10.1007/s13760-022-02057-1. Epub 2022 Jul 29.	Case report
121	Li SY, Yoshida Y, Kubota M, et al.	脳神経外科	Utility of atherosclerosis-associated serum antibodies against colony-stimulating factor 2 in predicting the onset of acute ischemic stroke and prognosis of colorectal cancer.	Front Cardiovasc Med. 2023 Feb 10;10:1042272. doi: 10.3389/fcvm.2023.1042272. eCollection 2023.	Original Article
122	Kikuchi H, Jitsuishi T, Hirono S, et al.	脳神経外科	2D and 3D structures of the whole-brain, directly visible from 100- μ m slice 7T MRI images	Interdisciplinary Neurosurg Available online 3 March 2023	Original Article
123	Yamamoto T, Yamanaka Y, Hirano S, et al.	脳神経内科	Utility of movement disorder society-unified Parkinson's disease rating scale for evaluating effect of subthalamic nucleus deep brain stimulation.	Front Neurol. 2022;13:1042033.	Original Article
124	Yamato A, Nagano H, Gao Y, et al.	内分泌・代謝内科	Proteogenomic landscape and clinical characterization of GH-producing pituitary adenomas/somatotroph pituitary neuroendocrine tumors.	Commun Biol. 2022 Nov 27;5(1):1304. doi: 10.1038/s42003-022-04272-1.	Original Article
125	Sakairi Y, Yoshino I, Iwata T, et al.	呼吸器外科	A randomized controlled phase III trial protocol: perioperative pifrenidone therapy in patients with non-small cell lung cancer combined with idiopathic pulmonary fibrosis to confirm the preventative effect against postoperative acute exacerbation: the PIII-PEOPLE study (NEJ034)	J Thorac Dis. 2023 Mar 31;15(3):1486-1493.	Original Article
126	Ikubo Y, Sanada TJ, Hosomi K, et al.	呼吸器内科	Altered gut microbiota and its association with inflammation in patients with chronic thromboembolic pulmonary hypertension: A single-center observational study in Japan.	BMC Pulm Med. 2022 Apr;22(1):138.	Original Article
127	Shikano K, Sakao S, Inaba Y, et al.	呼吸器内科	Tolerability of prone positioning in non-intubated patients with hypoxaemia due to COVID-19-related pneumonia.	Respirology. 2022 May;27(5):370-371.	Original Article
128	Kobayashi T, Kim JD, Naito A, et al.	呼吸器内科	Multi-omics analysis of right ventricles in rat models of pulmonary arterial hypertension: Consideration of mitochondrial biogenesis by chrysin.	Int J Mol Med. 2022 May;49(5):69.	Original Article
129	Terada J, Fujita R, Kawahara T, et al.	呼吸器内科	Favipiravir, camostat, and ciclesonide combination therapy in patients with moderate COVID-19 pneumonia with/without oxygen therapy: An open-label, single-center phase 3 randomized clinical trial.	EClinicalMedicine. 2022 Jul;49:101484.	Original Article
130	Nagata J, Sekine A, Tanabe N, et al.	呼吸器内科	Mixed venous oxygen tension is a crucial prognostic factor in pulmonary hypertension: a retrospective cohort study.	BMC Pulm Med. 2022 Jul;22(1):282.	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
131	Sato H, Kawata N, Shimada A, et al.	呼吸器内科	Semiautomatic Assessment of Respiratory Dynamics using Cine MRI in Chronic Obstructive Pulmonary Disease.	Eur J Radiol Open. 2022 Sep;9:100442.	Original Article
132	Hashimoto Y, Eguchi A, Wei Y, et al.	呼吸器内科	Antibiotic-induced microbiome depletion improves LPS-induced acute lung injury via gut-lung axis.	Life Sci. 2022 Oct;307:120885.	Original Article
133	Sanada TJ, Manz XD, Symersky P, et al.	呼吸器内科	Riociguat inhibits ultra-large VWF string formation on pulmonary artery endothelial cells from chronic thromboembolic pulmonary hypertension patients.	Pulm Circ. 2022 Oct;12(4):e12146.	Original Article
134	Tatsumi K, Sagara H, Suzuki T, et al.	呼吸器内科	Efficacy of Kampo medicine in respiratory diseases-1st international symposium on Kampo medicine-	Traditional & Kampo Medicine. 2022 Dec;9:198-199.	Original Article
135	Kinouchi T, Terada J, Sakao S, et al.	呼吸器内科	Effects of the combination of atomoxetine and oxybutynin in Japanese patients with obstructive sleep apnoea: A randomized controlled crossover trial.	Respirology. 2023 Mar;28(3):273-280.	Original Article
136	Imamura S, Inagaki T, Abe M, et al.	呼吸器内科	Impaired dynamic response of oxygen saturation during the 6-min walk test is associated with mortality in chronic fibrosing interstitial pneumonia.	Respir Care. 2023 Mar;68(3):356-365.	Original Article
137	Kuriyama A, Kasai H, Shikino K, et al.	呼吸器内科	The effects of simple graphical and mental visualization of lung sounds in teaching lung auscultation during clinical clerkship: A preliminary study.	PLoS ONE. 2023 Mar;18(3):e0282337.	Original Article
138	Koyanagi Y, Kawasaki T, Kasuya Y, et al.	呼吸器内科	Functional roles of CD26/DPP4 in bleomycin-induced pulmonary fibrosis.	Physiol Rep. 2023 Mar;11(6):e15645.	Original Article
139	Kawame C, Yokota H, Shikano K, et al.	呼吸器内科	Pneumocystis pneumonia in an immunocompetent patient developing a subacute disease course with central consolidation.	Respir Med Case Rep. 2022 May;37:101659.	Case report
140	Imai S, Kasai H, Sugiura T, et al.	呼吸器内科	A case of primary racemose hemangioma with endobronchial lesions demonstrating recurrent hemoptysis initially treated with bronchial arterial embolization.	Respir Med Case Rep. 2022 Oct;40:101762.	Case report
141	Shiohira S, Sugiura T, Ikeda H, et al.	呼吸器内科	Venous Stent Placement for Malignant Vena Cava Syndrome in a Patient with Liposarcoma.	Am J Case Rep. 2023 Jan;24:e938311.	Case report
142	Hirama R, Kono M, Kobayashi T, et al.	呼吸器内科	Intra-abdominal Hemorrhage due to Splenic Vein Aneurysm Rupture Caused by Invasive Aspergillosis During Treatment for Advanced Non-small-cell Lung Cancer.	Intern Med. 2023 Feb;62(3):423-429.	Case report
143	Takeda K, Miwa H, Kono M, et al.	呼吸器内科	Bronchiolitis obliterans syndrome associated with an immune checkpoint inhibitor in a patient with non-small cell lung cancer.	Respir Med Case Rep. 2023 Feb;42:101824.	Case report
144	Takeda K, Sekine A, Tanabe N, et al.	呼吸器内科	Two cases of pulmonary arterial hypertension with specific vascular Malformations and unique eosinophilic inflammation in carriers of the RNF213 p. Arg4810Lys variant: Case series.	Respir Med Case Rep. 2023 Mar;42:101829.	Case report

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
145	Hashimoto Y, Suzuki T, Hashimoto K.	呼吸器内科	Mechanisms of action of fluvoxamine for COVID-19: a historical review.	Mol Psychiatry. 2022 Apr;27(4):1898-1907.	Review
146	Terui K, Nagata K, Yamoto M, et al.	小児外科	A predictive scoring system for small diaphragmatic defects in infants with congenital diaphragmatic hernia	Pediatr Surg Int. 2022;39:4.	Original Article
147	Wataru Kudo, Keita Terui, Shinya Hattori, et al.	小児外科	Establishment and validation of reference values for abdominal skeletal muscle compartments in children.	Clinical Nutrition 2023;42:653-660	Original Article
148	Oita S, Saito T, Sakamoto A, et al.	小児外科	Frequency and function of circulating regulatory T-cells in biliary atresia.	Clinical Nutrition 2023;42:653-660	Original Article
149	Kawaguchi Y, Terui K, Komatsu S, et al.	小児外科	Usefulness of hepatobiliary scintigraphy for predicting late complications in patients with choledochal cysts.	Pediatr Surg Int 2022;38:1839-45.	Case report
150	Kuwabara S, Suichi T.	脳神経内科	Validation of the 2021 EAN/PNS diagnostic criteria for chronic inflammatory demyelinating polyneuropathy	J Neurol Neurosurg Psychiatry. 2022 Dec;93(12):1237-1238.	Review
151	Sugiyama A, Kuwabara S.	脳神経内科	Microstructural changes in the normal appearance cerebral cortex of multiple sclerosis detected by an advanced diffusion MRI technique	J Neurol Neurosurg Psychiatry. 2022 Jun;93(6):572.	Review
152	Suzuki S, Uzawa A, Murai H.	脳神経内科	Efgartigimod for generalized myasthenia gravis with or without anti-acetylcholine receptor antibodies: a worldwide and Japanese perspective	Expert Rev Clin Immunol. 2022 Dec;18(12):1207-1215.	Review
153	Yamanaka Y, Araki N, Kuwabara S.	脳神経内科	Neurodegenerative disorders affecting the autonomic nervous system: Pure autonomic failure and multiple system atrophy	Neurology and Clinical Neuroscience. 2022; 10 (3) : 115-118.	Review
154	Murai H, Utsugisawa K, Motomura M, et al.	脳神経内科	The Japanese clinical guidelines 2022 for myasthenia gravis and Lambert-Eaton myasthenic syndrome.	Clin Exp Neuroimmunol. 2023;14(1):19-27.	Review
155	Suzuki S, Masuda M, Uzawa A, et al.	脳神経内科	Japan MG registry: Chronological surveys over 10years.	Clin Exp Neuroimmunol. 2023 Feb;14(1):5-12.	Review
156	Uzawa A, Utsugisawa K.	脳神経内科	Biological therapies for myasthenia gravis.	Expert Opin Biol Ther. 2023 Feb 28;1-8.	Review
157	Almansour A, Ishiura H, Mitsui J, et al.	脳神経内科	Frequency of FMR1 Premutation Alleles in Patients with Undiagnosed Cerebellar Ataxia and Multiple System Atrophy in the Japanese Population	Cerebellum. 2022 Dec;21(6):954-962.	Original Article
158	Doets A Y, Walgaard C, Lingsma H F, et al.	脳神経内科	International Validation of the Erasmus Guillain-Barré Syndrome Respiratory Insufficiency Score	Ann Neurol. 2022 Apr;91(4):521-531.	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
159	Hiraga A, Kojima K, Kitayama Y, et al.	脳神経内科	Sixth nerve palsy without other objective neurological deficits due to a small pontine infarction	Acta Neurol Belg. 2022 Jun;122(3):821-822.	Others
160	Hiraga A, Kojima K, Kuwabara S.	脳神経内科	Subacute combined degeneration of the spinal cord presenting with a longitudinally extensive spinal lesion with anterior funiculus involvement	Acta Neurol Belg. 2022 Aug;122(4):1099-1101.	Others
161	Hiraga A, Muto M, Kuwabara S.	脳神経内科	Loss of Taste as an Initial Symptom of a "Facial Diplegia and Paresthesia" Variant of Guillain-Barré Syndrome	Intern Med. 2022 Oct 1;61(19):2957-2959.	Case report
162	Hirano S, Kojima A, Nakayama Y, et al.	脳神経内科	A case report of neuromyelitis optica spectrum disorder induced by pembrolizumab treatment for lung adenocarcinoma: a clinical and immunohistochemical study	BMC Neurol. 2022 Dec 15;22(1):483.	Case report
163	Isshiki Y, Oshima M, Mimura N, et al.	脳神経内科	Unraveling unique features of plasma cell clones in POEMS syndrome with single-cell analysis	JCI Insight. 2022 Oct 24;7(20):e151482.	Original Article
164	Ito M, Hiwasa T, Yajima S, et al.	脳神経内科	Low anti-CFL1 antibody with high anti-ACTB antibody is a poor prognostic factor in esophageal squamous cell carcinoma	Esophagus. 2022 Oct;19(4):617-625.	Original Article
165	Kainuma M, Ouma S, Kawakatsu S, et al.	脳神経内科	An exploratory, open-label, randomized, multicenter trial of hachimijogan for mild Alzheimer's disease	Front Pharmacol. 2022 Oct 14;13:991982.	Original Article
166	Koide K, Sugiyama A, Yokota H, et al.	脳神経内科	Nerve Hypertrophy and Altered Diffusion in Anti-Myelin-Associated Glycoprotein Neuropathy Detected by Brachial Plexus Magnetic Resonance Neurography	Eur Neurol. 2022;85(2):95-103.	Original Article
167	Kojima K, Hirano S, Kimura Y, et al.	脳神経内科	Brain 5-HT(2A) receptor binding and its neural network related to behavioral inhibition system	Brain Imaging Behav. 2022 Jun;16(3):1337-1348.	Original Article
168	Kojima Y, Uzawa A, Ozawa Y, et al.	脳神経内科	Serum pentraxin 3 concentration correlates with disease severity in patients with myasthenia gravis	Clin Neurol Neurosurg. 2022 Sep;220:107371.	Original Article
169	Kojima Y, Shibuya K, Uzawa A, et al.	脳神経内科	Decreased initial compound muscle action potential amplitudes in myasthenia gravis	Neurology and Clinical Neuroscience. 2022;10(5):245-251.	Original Article
170	Leonhard S E, van der Eijk A A, Andersen H, et al.	脳神経内科	An International Perspective on Preceding Infections in Guillain-Barré Syndrome: The IGOS-1000 Cohort	Neurology. 2022 Sep 20;99(12):e1299-e1313.	Original Article
171	Masuda H, Mori M, Yokouchi H, et al.	脳神経内科	Clinical difference after the first optic neuritis between aquaporin-4-IgG-associated and myelin oligodendrocyte glycoprotein-IgG-associated disorders	J Neurol. 2022 Apr;269(4):1996-2003.	Original Article
172	Nakano Y, Hirano S, Kojima K, et al.	脳神経内科	Dopaminergic Correlates of Regional Cerebral Blood Flow in Parkinsonian Disorders	Mov Disord. 2022 Jun;37(6):1235-1244.	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
173	Nakano Y, Shimada H, Shinotoh H, et al.	脳神経内科	PET-based classification of corticobasal syndrome	Parkinsonism Relat Disord. 2022 Apr 25;98:92-98.	Original Article
174	Oda F, Uzawa A, Ozawa Y, et al.	脳神経内科	Serum cytokine and chemokine profiles in patients with immune-mediated necrotizing myopathy	J Neuroimmunol. 2022 Apr 15;365:577833.	Original Article
175	Oki R, Izumi Y, Fujita K, et al.	脳神経内科	Efficacy and Safety of Ultrahigh-Dose Methylcobalamin in Early-Stage Amyotrophic Lateral Sclerosis: A Randomized Clinical Trial	JAMA Neurol. 2022 May 9:e220901.	Original Article
176	Osawa K, Sugiyama A, Uzawa A, et al.	脳神経内科	Temporal Changes in Brain Perfusion in a Patient with Myoclonus and Ataxia Syndrome Associated with COVID-19	Intern Med. 2022 Apr 1;61(7):1071-1076.	Others
177	Rohling H M, Althoff P, Arsenova R, et al.	脳神経内科	Proposal for Post Hoc Quality Control in Instrumented Motion Analysis Using Markerless Motion Capture: Development and Usability Study	JMIR Hum Factors. 2022 Apr 1;9(2):e26825.	Others
178	Shibuya K, Tsuneyama A, Misawa S, et al.	脳神経内科	Different patterns of sensory nerve involvement in chronic inflammatory demyelinating polyneuropathy subtypes	Muscle Nerve. 2022 Aug;66(2):131-135.	Original Article
179	Shigemoto Y, Matsuda H, Kimura Y, et al.	脳神経内科	Voxel-based analysis of age and gender effects on striatal [(123)I] FP-CIT binding in healthy Japanese adults	Ann Nucl Med. 2022 May;36(5):460-467.	Original Article
180	Sugiyama A, Nishigori C, Tsujimoto M, et al.	脳神経内科	Clinical Reasoning: A 60-Year-Old Man With Ataxia, Chorea, and Mild Cognitive Impairment	Neurology. 2022 Oct 4;99(14):618-624.	Others
181	Sugiyama A, Sone J, Kuwabara S.	脳神経内科	Teaching NeuroImages: Paravermal Lesions in Neuronal Intranuclear Inclusion Disease	Neurology. 2022 Sep 13;99(11):484-485.	Others
182	Suichi T, Misawa S, Sekiguchi Y, et al.	脳神経内科	Combined Therapy with Ixazomib, Lenalidomide, and Dexamethasone for Polyneuropathy, Organomegaly, Endocrinopathy, Monoclonal Gammopathy, and Skin Changes Syndrome	Intern Med. 2022;61(17):2567-2572.	Original Article
183	Suzuki YI, Shibuya K, Misawa S, et al.	脳神経内科	Relationship between motor cortical and peripheral axonal hyperexcitability in amyotrophic lateral sclerosis	J Neurol Neurosurg Psychiatry. 2022 Aug 22;jnnp-2021-328550.	Original Article
184	Takeda T, Kokubun S, Saito Y, et al.	脳神経内科	Progressive medial temporal degeneration with TDP-43 pathology is associated with upper limb and bulbar onset types of amyotrophic lateral sclerosis	J Neurol. 2022 Oct;269(10):5497-5509.	Others
185	Tamura M, Uzawa A, Kitayama Y, et al.	脳神経内科	Multiple Cerebral Infarctions Complicating Deep Vein Thrombosis Associated With Uterine Adenomyosis: A Case Report and Literature Review	Cureus. 2022 Aug 16;14(8):e28061.	Case report
186	Tanimura Y, Hiroaki Y, Mori M, et al.	脳神経内科	Cell-based flow cytometry assay for simultaneous detection of multiple autoantibodies in a single serum sample	Anal Biochem. 2022 Aug 1;650:114721.	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
187	Tohnai G, Nakamura R, Atsuta N, et al.	脳神経内科	Mutation screening of the DNAJC7 gene in Japanese patients with sporadic amyotrophic lateral sclerosis	Neurobiol Aging. 2022 May;113:131-136.	Original Article
188	Uzawa A, Mori M, Iwai Y, et al.	脳神経内科	Complete Relief of Painful Tonic Seizures in Neuromyelitis Optica Spectrum Disorder by Satralizumab Treatment	Intern Med. 2022 Sep 15;61(18):2785-2787.	Case report
189	Wang J, Sugiyama A, Yokota H, et al.	脳神経内科	Diagnostic efficacy of the magnetic resonance T1w/T2w ratio for the middle cerebellar peduncle in multiple system atrophy and spinocerebellar ataxia: A preliminary study	PLoS One. 2022 Apr 15;17(4):e0267024.	Original Article
190	Watanabe M, Hiraga A, Kuwabara S.	脳神経内科	Peripheral-type facial palsy as an initial symptom of lateral medullary infarction	Acta Neurol Belg. 2022 Jun;122(3):851-853.	Others
191	Yasuda M, Sugiyama A, Hokkoku H, et al.	脳神経内科	Propagation of diffusion-weighted MRI abnormalities in the preclinical stage of sporadic Creutzfeldt-Jakob disease	Neurology. 2022 Oct 18;99(16):699-702.	Original Article
192	Yoshikawa H, Adachi Y, Nakamura Y, et al.	脳神経内科	Nationwide survey of Lambert-Eaton myasthenic syndrome in Japan	BMJ Neurol Open. 2022 Sep 5;4(2):e000291.	Original Article
193	Yoshikawa H, Adachi Y, Nakamura Y, et al.	脳神経内科	Two-step nationwide epidemiological survey of myasthenia gravis in Japan 2018	PLoS One. 2022 Sep 21;17(9):e0274161.	Original Article
194	Akamine H, Uzawa A, Kojima Y, et al.	脳神経内科	Role of soluble forms of follicular helper T-cell membrane molecules in the pathogenesis of myasthenia gravis	J Neuroimmunol. 2023 Feb 15;375:578014.	Original Article
195	Fujii K, Shiohama T, Uchida T, et al.	脳神経内科	Nationwide survey of childhood Guillain-Barré syndrome, Fisher syndrome, and Bickerstaff brainstem encephalitis in Japan	Brain Dev. 2023 Jan;45(1):16-25.	Original Article
196	Hiraga A, Watabe Y, Kuwabara S.	脳神経内科	Dense Inverted Triangle Sign [†] in Cerebral Venous Thrombosis	Intern Med. 2022 Nov 30. doi: 10.2169	Case report
197	Izumi M, Uzawa A, Aoki R, et al.	脳神経内科	Delayed Appearance of Brain Magnetic Resonance Imaging Abnormalities in a Patient with Glial Fibrillary Acidic Protein Astrocytopathy	Intern Med. 2023 Feb 1;62(3):465-468.	Case report
198	Kinouchi T, Terada J, Sakao S, et al.	脳神経内科	Effects of the combination of atomoxetine and oxybutynin in Japanese patients with obstructive sleep apnoea: A randomized controlled crossover trial	Respirology. 2023 Mar;28(3):273-280.	Original Article
199	Masuda H, Mori M, Uzawa A, et al.	脳神経内科	Elevated serum levels of bone morphogenetic protein-9 are associated with better outcome in AQP4-IgG seropositive NMOSD	Sci Rep. 2023 Mar 2;13(1):3538.	Case report
200	Mori S, Suzuki S, Konishi T, et al.	脳神経内科	Proteolytic ectodomain shedding of muscle-specific tyrosine kinase in myasthenia gravis	Exp Neurol. 2023 Mar;361:114300.	Others

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
201	Niino M, Fukumoto S, Okuno T, et al.	脳神経内科	Health-related quality of life in Japanese patients with multiple sclerosis	J Neurol. 2023 Feb;270(2):1011-1018.	Others
202	Oide S, Okubo R, Mitsuhashi T, et al.	脳神経内科	Clinical gynaecological perspectives to improve validity in clinical research: comment on the article by Chiuve et al	J Epidemiol Community Health. 2023 Mar;77(3):204.	Others
203	Sugiyama A, Yokota H, Hirano S, et al.	脳神経内科	Association between Cognitive Impairment and Hippocampal Subfield Volumes in Multiple System Atrophy	Parkinsons Dis. 2023 Mar 6;2023:8888255.	Original Article
204	Uzawa A, Suzuki S, Kuwabara S, et al.	脳神経内科	Impact of Early Treatment with Intravenous High-Dose Methylprednisolone for Ocular Myasthenia Gravis	Neurotherapeutics. 2023 Mar;20(2):518-523.	Original Article
205	Yamamoto T, Yamanaka Y, Hirano S, et al.	脳神経内科	Utility of movement disorder society-unified Parkinson's disease rating scale for evaluating effect of subthalamic nucleus deep brain stimulation	Front Neurol. 2023 Jan 6;13:1042033.	Original Article
206	Saito D, Nakada TA, Imaeda T, et al.	救急科・集中治療部	Impact of posture on capillary refilling time.	American journal of emergency medicine 2022; 56: 378-379.	Original Article
207	Kawaguchi R, Nakada TA, Hattori N, et al.	救急科・集中治療部	Intravascular fluid also affects results: No prolongation of capillary refill time by removal of excessive fluids by hemodialysis.	American journal of emergency medicine 2022; 60: 187-188.	Others
208	Saito D, Imaeda T, Oshima T, et al.	救急科・集中治療部	Sheath introducer accidentally placed in the artificial graft while introducing extracorporeal membrane oxygenation.	Acute medicine & surgery 2022; 9: e761.	Case report
209	Oami T, Imaeda T, Nakada TA, et al.	救急科・集中治療部	Temporal trends of medical cost and cost-effectiveness in sepsis patients: a Japanese nationwide medical claims database.	Journal of intensive care 2022; 10: 33.	Original Article
210	Iwase S, Nakada TA, Shimada T, et al.	救急科・集中治療部	Prediction algorithm for ICU mortality and length of stay using machine learning.	Scientific reports 2022; 12: 12912.	Original Article
211	Takeda M, Oami T, Hayashi Y, et al.	救急科・集中治療部	Prehospital diagnostic algorithm for acute coronary syndrome using machine learning: a prospective observational study.	Scientific reports 2022; 12: 14593.	Original Article
212	Takahashi N, Imaeda T, Nakada TA, et al.	救急科・集中治療部	Short- versus long-course antibiotic therapy for sepsis: a post hoc analysis of the nationwide cohort study.	Journal of intensive care 2022; 10: 49.	Original Article
213	Oami T, Nakada TA, Abe T, et al.	救急科・集中治療部	Mortality analysis among sepsis patients in and out of intensive care units using the Japanese nationwide medical claims database: a study by the Japan Sepsis Alliance study group.	Journal of intensive care 2023; 11: 2.	Original Article
214	Tokumoto H, Akita S, Kosaka K, et al.	形成・美容外科	Utilization of a partial rib-sparing procedure in microvascular breast reconstruction for preserving intercostal nerve and nipple reconstruction	Journal of plastic, reconstructive & aesthetic surgery 2022 Dec;75(12):4354-4360.	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
215	Akita S , Ikehara Y , Arai M , et al.	形成・美容外科	Clinical and Histological Effects of Partial Blood Flow Impairment in Vascularized Lymph Node Transfer	Journal of clinical medicine 2022 Jul 13;11(14):4052	Original Article
216	Tokumoto H , Akita S , Kosaka K , et al.	形成・美容外科	The correlation of flap blood glucose with fat necrosis of free abdominal flap for unilateral breast reconstruction	Microsurgery 2022 Oct;42(7):677-684	Original Article
217	Tokumoto H , Akita S , Kosaka K , et al.	形成・美容外科	Two-stage procedure of free abdominal flap with ptotic skin paddle for unilateral breast reconstruction	Journal of plastic, reconstructive & aesthetic surgery 2022 Jul;75(7):2387-2440.	Review
218	Rikihisa N , Shimanouchi K , Saito Y , et al.	形成・美容外科	Carbon monoxide combined with artificial blood cells acts as an antioxidant for tissues thermally-damaged by dye laser irradiation	Burns : journal of the International Society for Burn Injuries 2023 Mar;49(2):388-400	Original Article
219	Tokumoto H , Akita S , Nakamura R , et al.	形成・美容外科	The usefulness of a free thinned deep inferior epigastric artery perforator flap and measurement of the vascular pedicle length: A thin flap with a long pedicle	Journal of plastic, reconstructive & aesthetic surgery 2022 May;75(5):1579-1585	Original Article
220	Ishigaki T , Akita S , Udagawa A , et al.	形成・美容外科	Central polydactyly of the foot: An experience of a treatment of 22 patients	Journal of orthopaedic science 2023 Mar;28(2):426-431	Original Article
221	Tokumoto H , Akita S , Kubota Y , et al.	形成・美容外科	Relationship Between the Circumference Difference and Findings of Indocyanine Green Lymphography in Breast Cancer-Related Lymphedema	Annals of plastic surgery 2022 Jan 1;88(1):114-117	Review
222	Akita S , Tokumoto H , Yamaji Y , et al	形成・美容外科	Comparison of Vectra three-dimensional stereophotogrammetry measurement and tape measurement in the evaluation of perioperative volume change of the lower abdomen in association with lymphatic microsurgery	Microsurgery 2022 Jan;42(1):50-56	Original Article
223	Igari H , Yahaba M , Taniguchi T , et al.	感染制御部	Antibody responses and SARS-CoV-2 infection after BNT162b2 mRNA booster vaccination among healthcare workers in Japan.	J Infect Chemother . 2022 Nov;28(11):1483-1488	Original Article
224	Herai Y , Yahaba M , Taniguchi T , et al.	感染制御部	Factors Influencing the Indeterminate Results in a T-SPOT.TB test: A Matched Case-control Study	Intern Med. 2023 Mar 31:1-6	Original Article
225	Yokokawa D , Shikino K , Kishi Y et al.	総合診療科	Does scoring patient complexity using COMPRI predict the length of hospital stay? A multicentre case-control study in Japan	BMJ Open. 2022 Apr 21 (オンライン)	Original Article
226	Uchida S , Shikino K , Ishizuka K et al.	総合診療科	The flipped classroom is effective for medical students to improve deep tendon reflex examination skills: A mixed-method study.	PLoS One. 2022 Jun 17 (オンライン)	Original Article
227	Shikino K , Ohira Y , Sato E et al.	総合診療科	Behavior-based medical diagnosis-Applying perspectives of behavioral science to clinical reasoning	J Gen Fam Med. 2022 Mar 30;23(4):291-292	Letter
228	Uehara T , Handa H , Ito M et al.	総合診療科	Acute left chest pain due to spinal hematoma	Am J Med. 2022 Jun (オンライン)	Case report

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
229	Shikino K, Mito T, Ohira Y et al.	総合診療科	Frequency of difficult patient encounters in a Japanese University Hospital and community hospitals: A cross-sectional study	Intern Med. 2023Feb 15;62(4):533-537	Original Article
230	Yanagita Y, Shimada R, Noda K et al.	総合診療科	Pubic Osteomyelitis in a Young Athlete	Cureus. 2023 Feb 22 (オンライン)	Case report
231	Yokokawa D, Noda K, Yanagita Y.	総合診療科	Validating the representation of distance between infarct diseases using word embedding	BMC Med Inform Decis Mak. 2022 Dec 7;22(1):322	Original Article
232	Li Y, Shikino K, Terada J.	総合診療科	The relationship between CPAP and health literacy: A prospective observational study	J Gen Fam Med. 2022 Jul 14;23(6):370-375	Original Article
233	Yokokawa D, Shikino K, Kishi Y.	総合診療科	Translation and Cross-Cultural Adaptation of the Japanese Version of the INTERMED Self-Assessment Questionnaire (IMSA) for Patient-Case Complexity Assessment	Int J Gen Med. 2022 Jul 28;15:6309-6313	Original Article
234	Shikino K, Ide N, Kubota Y.	総合診療科	Effective situation-based delirium simulation training using flipped classroom approach to improve interprofessional collaborative practice competency: a mixed-methods study	BMC Med Educ. 2022 May 27;22(1):408	Original Article
235	Kurihara M, Ishizuka K, Ikusaka M.	総合診療科	Aquagenic Wrinkling of the Palms	Am J Med. 2022 Jul (オンライン)	Case report
236	Shikino K, Kuriyama A, Sadohara M.	総合診療科	Work-related stress and coping methods of internists and primary care physicians during the COVID-19 pandemic in Japan: A mixed-method study	J Gen Fam Med. 2022 May 23(5) 327-335	Original Article
237	Ishizuka K, Ohira Y, Uehara T et al.	総合診療科	VAPES: a new mnemonic for considering paroxysmal disorders	Diagnosis. 2023 Jan 19;10(2):203-204	Letter
238	Fujita N, Kanogawa N, Makishima H, et al.	消化器内科	Carbon-ion radiotherapy versus radiofrequency ablation as initial treatment for early-stage hepatocellular carcinoma.	Hepatol Res. 2022 Dec;52(12):1060-1071.	Original article
239	Fujiwara K, Fukuda Y, Seza K, et al.	消化器内科	Analysis of non-severe acute onset autoimmune hepatitis according to the presence of radiological heterogeneity.	Hepatol Res. 2022 Sep;52(9):804-810.	Original article
240	Fujiwara K, Yasui S, Kondo T, et al.	消化器内科	Thirty-two years' experience of treating fulminant hepatitis in a Japanese single center.	Hepatol Res. 2023 Apr;53(4):357-369.	Original article
241	Iwanaga T, Chiba T, Nakamura M, et al.	消化器内科	Miglustat, a glucosylceramide synthase inhibitor, mitigates liver fibrosis through TGF- β /Smad pathway suppression in hepatic stellate cells.	Biochem Biophys Res Commun. 2023 Jan 29;642:192-200.	Original article
242	Kanogawa N, Ogasawara S, Maruta S, et al.	消化器内科	Use of ramucirumab for various treatment lines in real-world practice of patients with advanced hepatocellular carcinoma.	BMC Gastroenterol. 2023 Mar 11;23(1):70.	Original article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
243	Kondo T, Fujiwara K, Nakagawa M, et al.	消化器内科	The efficacy of contrast-enhanced computed tomography on the management of gastroesophageal varices in patients with hepatocellular carcinoma.	Sci Rep. 2022 Dec 1;12(1):20726.	Original article
244	Ma Y, Nakamoto S, Ao J, et al.	消化器内科	Antiviral Compounds Screening Targeting HBx Protein of the Hepatitis B Virus.	Int J Mol Sci. 2022 Oct 10;23(19):12015.	Original article
245	Maruta S, Sugiyama H, Ogasawara S, et al.	消化器内科	"Salvage techniques" are the key to overcome difficult biliary cannulation in endoscopic retrograde cholangiopancreatography.	Sci Rep. 2022 Aug 10;12(1):13627.	Original article
246	Matsumura T, Ebigo A, Rö mmele C, et al.	消化器内科	Diagnostic value of adding magnifying chromoendoscopy to magnifying narrow-band imaging endoscopy for colorectal polyps.	Clin Gastroenterol Hepatol. 2023 Feb 3.	Original article
247	Muroyama R, Nakagawa R, Matubara Y, et al.	消化器内科	Fusion HBx from HBV integrant affects hepatocarcinogenesis through deregulation of ER stress response.	Virus Res. 2022 Jul 2;315:198787.	Original article
248	Nagashima H, Mikata R, Isono S, et al.	消化器内科	Phase II study comparing nasal pressure monitoring with capnography during invasive endoscopic procedures: a single-center, single-arm trial.	Sci Rep. 2023 Jan 23;13(1):1265.	Original article
249	Nakagawa M, Inoue M, Ogasawara S, et al.	消化器内科	Clinical effects and emerging issues of atezolizumab plus bevacizumab in patients with advanced hepatocellular carcinoma from Japanese real-world practice.	Cancer. 2023 Feb 15;129(4):590-599.	Original article
250	Ogawa K, Chiba T, Nakamura M, et al.	消化器内科	Successful Identification of a Novel Therapeutic Compound for Hepatocellular Carcinoma Through Screening of ADAM9 Inhibitors.	Anticancer Res. 2023 Mar;43(3):1043-1052.	Original Article
251	Ogawa K, Kanzaki H, Chiba T, et al.	消化器内科	Effect of Atezolizumab plus Bevacizumab in Patients with Hepatocellular Carcinoma Harboring CTNNB1 Mutation in Early Clinical Experience.	J Cancer. 2022 May 16;13(8):2656-2661.	Original article
252	Ohyama H, Hirotsu Y, Amemiya K, et al.	消化器内科	Detection of actionable mutations in cytological specimens obtained by endoscopic ultrasound-guided fine needle aspiration with rapid onsite evaluation in pancreatic cancer.	Ann Diagn Pathol. 2022 Oct;60:152008.	Original article
253	Ohyama H, Hirotsu Y, Amemiya K, et al.	消化器内科	Comparison of genomic profiling of circulating tumor DNA in pancreaticobiliary malignancies in plasma and bile.	Cancer. 2023 Jun 1;129(11):1714-1722.	Original article
254	Ohyama H, Mikata R, Hirotsu Y, et al.	消化器内科	Genomic profiling amplifies the utility of endoscopic ultrasound-guided fine needle biopsy by identifying clinically applicable druggable mutations in pancreatic cancer.	Ann Diagn Pathol. 2022 Oct;60:152016.	Original article
255	Okimoto K, Hirotsu Y, Arai M, et al.	消化器内科	Validity of pathological diagnosis for early colorectal cancer in genetic background.	Cancer Med. 2023 Apr;12(7):8490-8498.	Original article
256	Okimoto K, Matsumura T, Maruoka D, et al.	消化器内科	Magnified endoscopy with texture and color enhanced imaging with indigo carmine for superficial nonampullary duodenal tumor: A pilot study.	Sci Rep. 2022 Jun 20;12(1):10381.	Original article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
257	Ozeki Y, Kanogawa N, Ogasawara S, et al.	消化器内科	Liver biopsy technique in the era of genomic cancer therapies: a single-center retrospective analysis.	Int J Clin Oncol. 2022 Sep;27(9):1459-1466.	Original article
258	Qiang N, Ao J, Nakamura M, et al.	消化器内科	Alteration of the tumor microenvironment by pharmacological inhibition of EZH2 in hepatocellular carcinoma.	Int Immunopharmacol. 2023 May;118:110068.	Original article
259	Sakuma T, Nakamura M, Chiba T, et al.	消化器内科	A diet-induced murine model for non-alcoholic fatty liver disease with obesity and insulin resistance that rapidly develops steatohepatitis and fibrosis.	Lab Invest. 2022 Oct;102(10):1150-1157.	Original article
260	Shiratori W, Matsumura T, Okimoto K, et al.	消化器内科	Long-Term Course of Gastric Submucosal Tumors: Growth Speed and Size-Increasing Factors.	Gastrointest Endosc. 2023 Jun;97(6):1052-1058.e2.	Original article
261	Yokoyama Y, Ohta Y, Ogasawara S, et al.	消化器内科	The long-term effect of biologics in patients with ulcerative colitis emerging from a large Japanese cohort.	Sci Rep. 2022 Dec 6;12(1):21060.	Original article
262	Yumita S, Ogasawara S, Nakagawa M, et al.	消化器内科	Hyperprogressive disease during atezolizumab plus bevacizumab treatment in patients with advanced hepatocellular carcinoma from Japanese real-world practice.	BMC Gastroenterol. 2023 Mar 31;23(1):101.	Original article
263	Goto C, Okimoto K, Matsusaka K, et al.	消化器内科	Long-Term Potassium-Competitive Acid Blocker Administration Causes Gastric Fundic Gland-Type Hyperplastic Polyps and Chronic Bleeding.	Clin J Gastroenterol. 2023 Apr;16(2):159-163.	Case report
264	Okimoto K, Matsumura T, Akizue N, et al.	消化器内科	Utility of a super-soft hood for esophageal endoscopic submucosal dissection below an esophageal stricture.	VideoGIE. 2022 Dec 9;8(2):53-55.	Case report
265	Fujiwara K, Yokosuka O, Kato N.	消化器内科	Histological re-evaluation of autoimmune hepatitis with acute presentation.	Liver Int. 2022 Aug;42(8):1916-1917.	Letter
266	Ogasawara S, Kanogawa N, Kato N.	消化器内科	How we use hepatic arterial infusion chemotherapy in the new era of systemic therapy?	Hepatobiliary Surg Nutr. 2022 Oct;11(5):775-778.	Others
267	Ohta Y, Taida T, Kato J, et al.	消化器内科	Clinical Features Focusing on Extraintestinal Manifestations in Japanese Patients with Inflammatory Bowel Diseases: Far East 1000.	Digestion. 2023 Mar 9:1-6.	Others
268	Akizue N, Okimoto K, Hirotsu Y, et al.	腫瘍内科	Carcinogenic potential in regenerated mucosa after endoscopic resection of esophageal squamous cell carcinoma.	J Gastroenterol Hepatol. 2023 May 16.	Original article
269	Kan M, Chiba T, Konno R, et al.	腫瘍内科	Bile proteome analysis by high-precision mass spectrometry to examine novel biomarkers of primary sclerosing cholangitis.	J Hepatobiliary Pancreat Sci. 2023 Jul;30(7):914-923.	Original article
270	Takahashi K, Ohyama H, Ouchi M, et al.	腫瘍内科	Feasibility of a Single Pigtail Stent Made by Cutting a Nasobiliary Drainage Tube in Endoscopic Transpapillary Gallbladder Stenting for Acute Cholecystitis.	Cureus. 2022 May 17;14(5):e25072.	Original article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
271	Takahashi K, Ohyama H, Ouchi M, et al.	腫瘍内科	Feasibility of endoscopic ultrasound-guided hepaticogastrostomy using a 22-gauge needle.	Medicine (Baltimore). 2022 Nov 4;101(44):e31545.	Original article
272	Takahashi K, Ohyama H, Mikata R, et al.	腫瘍内科	Successful endoscopic retrieval of a migrated pancreatic stent using a basket catheter for peroral cholangioscopy through a biliary plastic stent pusher tube: a case report.	J Rural Med. 2022 Jul;17(3):189-192.	Case report
273	Takahashi K, Ohyama H, Nagashima H, et al.	腫瘍内科	Successful endoscopic treatment of huge infected biloma and hepatic abscess after endoscopic ultrasound-guided hepaticogastrostomy with brain abscess: A case report	Clin J Gastroenterol. 2022 Oct;15(5):988-993.	Case report
274	Takahashi K, Ohyama H, Takiguchi Y, et al.	腫瘍内科	Secondary Sclerosing Cholangitis After Emphysematous Cholecystitis.	ACG Case Rep J. 2023 Mar 23;10(3):e01016.	Case report
275	Miyamoto-Nagai Y, Mimura N, Tsukada N, et al.	血液内科	Outcomes of poor peripheral blood stem cell mobilizers with multiple myeloma at the first mobilization: A multicenter retrospective study in Japan.	EJHaem 3 (3):838-848. doi:10.1002/jha2.534	Original Article
276	Isshiki Y, Oshima M, Mimura N, et al.	血液内科	Unraveling unique features of plasma cell clones in POEMS syndrome with single-cell analysis.	JCI Insight 7 (20). doi:10.1172/jci.insight.151482	Original Article
277	Suzuki J, Furuta S, Sugiyama T, et al.	アレルギー膠原病内科	Antiphospholipid antibody positivity and the thrombotic risk in Japanese patients with anti-neutrophil cytoplasmic antibody-associated vasculitis.	Mod Rheumatol. 2023 Mar 2;33(2):346-351.	Original Article
278	Miyachi K, Iwamoto T, Kojima S, et al.	アレルギー膠原病内科	Relationship of systemic type I interferon activity with clinical phenotypes, disease activity, and damage accrual in systemic lupus erythematosus in treatment-naïve patients: A retrospective longitudinal analysis.	Arthritis Res Ther; 2023 Feb 17;25(1):26.	Original Article
279	Kasuya T, Tanaka S, Tamura J, et al.	アレルギー膠原病内科	Epithelial cell-derived cytokine TSLP activates regulatory T cells by enhancing fatty acid uptake.	Sci Rep. 2023 Jan 30;13(1):1653.	Original Article
280	Hattori K, Tanaka S, Ishikawa J, et al.	アレルギー膠原病内科	Visceral Disseminated Varicella Zoster Virus Infection During Non-Intensive Maintenance Therapy in a Patient with Systemic Lupus Erythematosus.	Mod Rheumatol Case Rep. 2023 Jan 3;7(1):57-59.	Case report
281	Ide S, Ide K, Abe K, et al.	糖尿病・代謝・内分泌内科	Sex differences in resilience to ferroptosis underlie sexual dimorphism in kidney injury and repair .	Cell Reports. 2022;41(6), 111610	Original Article
282	Ide K, Souma T.	糖尿病・代謝・内分泌内科	In vivo assessment of ferroptosis and ferroptotic stress in mice.	Current Protocols. 2022; 2, e413.	Original Article
283	Kitamoto T, Lee YK, Sultana N, et al.	糖尿病・代謝・内分泌内科	Chemical induction of gut β -like-cells by combined FoxO1/Notch inhibition as a glucose-lowering treatment for diabetes.	Mol Metab. 2022;66:101624.	Original Article
284	Kitamoto T, Nishikawa T.	糖尿病・代謝・内分泌内科	Clinical Translationality of KCNJ5 Mutation in Aldosterone Producing Adenoma.	Int J Mol Sci. 2022 ;23(16):9042.	Review

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
285	Minamizuka T, Kobayashi J, Tada H, et al.	糖尿病・代謝・内分泌内科	Homozgyous familial lipoprotein lipase deficiency without obvious coronary artery stenosis.	Clin Biochem. 2022 Oct;108:42-45.	Case report
286	Kato H, Koshizaka M, Kaneko H, et al.	糖尿病・代謝・内分泌内科	Lifetime extension and the recent cause of death in Werner syndrome: a retrospective study from 2011 to 2020.	Orphanet J Rare Dis. 2022 Jun 13;17(1):226.	Original Article
287	Kato H, Maezawa Y, Nishijima D, et al.	糖尿病・代謝・内分泌内科	A high prevalence of myeloid malignancies in progeria with Werner syndrome is associated with p53 insufficiency.	Exp Hematol. 2022 May;109:11-17.	Original Article
288	Kato H, Koshizaka M, Kaneko H, et al.	糖尿病・代謝・内分泌内科	Lifetime extension and the recent cause of death in Werner syndrome: a retrospective study from 2011 to 2020.	Orphanet J Rare Dis. 2022;17(1):226. IF3.453	Original Article
289	Koshizaka M, Ishibashi R, Maeda Y, et al.	糖尿病・代謝・内分泌内科	Predictive model and risk engine web application for surgical site infection risk in perioperative patients with type 2 diabetes.	Diabetol Int. 2022;13(4):657-64. IF1.478	Original Article
290	Suzuki S, Ruike Y, Ishiwata K, et al.	糖尿病・代謝・内分泌内科	Clinical Usefulness of the Growth Hormone-Releasing Peptide-2 Test for Hypothalamic-Pituitary Disorder.	J Endocr Soc. 2022;6(8):bvac088.	Original Article
291	Suzuki S, Venkatesh D, Kanda H, et al.	糖尿病・代謝・内分泌内科	GLS2 Is a Tumor Suppressor and a Regulator of Ferroptosis in Hepatocellular Carcinoma.	Cancer Res. 2022;82(18):3209-22	Original Article
292	Fujimoto M, Watanabe S, Igarashi K, et al.	糖尿病・代謝・内分泌内科	Antihypertensive effects of esaxerenone in older patients with primary aldosteronism. Running title: Esaxerenone responders in primary aldosteronism.	Int J Hypertens. 2023;2023:6453933.	Original Article
293	Fujimoto M, Yokoyama M, Kiuchi M, et al.	糖尿病・代謝・内分泌内科	Liver group 2 innate lymphoid cells regulate blood glucose levels through IL-13 signaling and suppression of gluconeogenesis.	Nat Commun. 2022;13(1):5408.	Original Article
294	Deguchi-Horiuchi H, Suzuki S, Lee EY, et al.	糖尿病・代謝・内分泌内科	Pancreatic β -cell glutaminase 2 maintains glucose homeostasis under the condition of hyperglycaemia.	Sci Rep. 2023;13(1):7291.	Original Article
295	Murakami K, Yoshida N, Taniyama Y, et al.	食道・胃腸外科	Maximum standardized uptake value change rate before and after neoadjuvant chemotherapy can predict early recurrence in patients with locally advanced esophageal cancer: a multi-institutional cohort study of 220 patients in Japan	Esophagus. 2022 Apr;19(2):205-213	Original Article
296	Takahashi M, Hosomichi K, Nakaoka H, et al.	食道・胃腸外科	Biased expression of mutant alleles in cancer-related genes in esophageal squamous cell carcinoma	Esophagus. 2022 Apr;19(2):294-302	Original Article
297	Otsuka R, Hayano K, Matsubara H	食道・胃腸外科	Role of sirtuins in esophageal cancer: Current status and future prospects	World J Gastrointest Oncol. 2022 Apr 15;14(4):794-807	Review
298	Tochigi T, Kamran SC, Parakh A, et al.	食道・胃腸外科	Response prediction of neoadjuvant chemoradiation therapy in locally advanced rectal cancer using CT-based fractal dimension analysis	Eur Radiol. 2022 Apr;32(4):2426-2436	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
299	Sekino N, Kano M, Kobayashi S, et al.	食道・胃腸外科	Metformin-Induced Heat Shock Protein Family A Member 6 Is a Promising Biomarker of Esophageal Squamous Cell Carcinoma	Oncology. 2022;100(5):267-277	Original Article
300	Yonemoto S, Uesato M, Nakano A, et al.	食道・胃腸外科	Why is endosonography insufficient for residual diagnosis after neoadjuvant therapy for esophageal cancer? Solutions using muscle layer evaluation	World J Gastrointest Endosc. 2022 May 16;14(5):320-334	Original Article
301	Ohira G, Hayano K, Imanishi S, et al.	食道・胃腸外科	Preoperative evaluation of vascular anatomy of right colic vessels using enhanced computed tomographic colonography	Jpn J Radiol. 2022 Jun;40(6):607-612	Original Article
302	Tang K, Toyozumi T, Murakami K, et al.	食道・胃腸外科	HIF-1 α stimulates the progression of oesophageal squamous cell carcinoma by activating the Wnt/ β -catenin signalling pathway	Br J Cancer. 2022 Aug;127(3):474-487	Original Article
303	Uesato M, Tamachi T, Maruyama T, et al.	食道・胃腸外科	Continuous suturing with a stay suture after endoscopic full-thickness resection in an experimental study	Endoscopy. 2022 Dec;55(S01):E44-E46	Original Article
304	Hayano K, Ohira G, Kano M, et al.	食道・胃腸外科	Prognostic Impact of Hepatic Steatosis Evaluated by CT on Immunotherapy for Gastric Cancer: Associations with Sarcopenia, Systemic Inflammation, and Hormones	Oncology. 2023;101(3):185-192	Original Article
305	Qian L, Murakami K, Toyozumi T, et al.	食道・胃腸外科	An anti-alcoholism drug, disulfiram and copper complex improves radio-resistance of tumor-initiating cells in esophageal squamous cell carcinoma	Esophagus. 2023 Jan;20(1):134-142	Original Article
306	Murakami K, Akutsu Y, Miyata H, et al.	食道・胃腸外科	Essential risk factors for operative mortality in elderly esophageal cancer patients registered in the National Clinical Database of Japan	Esophagus. 2023 Jan;20(1):39-47	Original Article
307	Otsuka R, Hayano K, Hayashi H, et al.	食道・胃腸外科	ypTNM staging is a potentially useful prognostic stratification tool in patients with advanced gastric cancer after preoperative chemotherapy	Langenbecks Arch Surg. 2023 Mar 31;408(1):133	Original Article
308	Matsumoto Y, Sasaki T, Kano M, et al.	食道・胃腸外科	Soluble PD-L1 reflects cachexia status in patients with gastric cancer and is an independent prognostic marker for relapse-free survival after radical surgery	Mol Clin Oncol. 2023 Mar 20;18(5):39	Original Article
309	Hosokawa I, Takayashiki T, Ohtsuka M.	肝胆膵外科	Fusion imaging of real-time ultrasonography and computed-tomography-assisted puncture of the bile duct of segment 6 for Bismuth-Corlette type IV perihilar cholangiocarcinoma.	Asian J Surg. 2023 Feb;46(2):907-908.	Original Article
310	Sakamoto T, Kuboki S, Furukawa K, et al.	肝胆膵外科	TRIM27-USP7 complex promotes tumour progression via STAT3 activation in human hepatocellular carcinoma.	Liver Int. 2023 Jan;43(1):194-207.	Original Article
311	Yogi N, Usui G, Matsusaka K, et al.	肝胆膵外科	Association of tumors having Epstein-Barr virus in surrounding lymphocytes with poor prognosis.	Cancer Med. 2023 Jan;12(2):1122-1136.	Original Article
312	Konishi T, Takano S, Furukawa K, et al.	肝胆膵外科	Impact of resection margin status on survival after operation for pancreatic head cancer with extrapancreatic nerve plexus invasion.	J Surg Oncol.2022 Nov;126(6):1038-1047.	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
313	Hosokawa I, Hayano K, Furukawa K, et al.	肝胆膵外科	Preoperative Diagnosis of Lymph Node Metastasis of Perihilar Cholangiocarcinoma Using Diffusion-Weighted Magnetic Resonance Imaging.	Ann Surg Oncol. 2022 Sep;29(9):5502-5510.	Original Article
314	Miyahara Y, Takano S, Sogawa K, et al.	肝胆膵外科	Prosaposin, tumor-secreted protein, promotes pancreatic cancer progression by decreasing tumor-infiltrating lymphocytes.	Cancer Sci. 2022 Aug;113(8):2548-2559.	Original Article
315	Aoki Y, Furukawa K, Suzuki D, et al.	肝胆膵外科	Influence of sarcopenia as defined by EWGSOP2 on complications after pancreaticoduodenectomy and on the prognosis of pancreatic head cancer: A prospective cohort study.	Nutrition. 2022 Jul-Aug;99-100:111660.	Original Article
316	Sakai N, Hayano K, Mishima T, et al.	肝胆膵外科	Fat signal fraction assessed with MRI predicts hepatic recurrence following hepatic resection for colorectal liver metastases.	Langenbecks Arch Surg. 2022 Aug;407(5):1981-1989.	Original Article
317	Sato N, Sakai N, Furukawa K, et al.	肝胆膵外科	Yin Yang 1 regulates ITGAV and ITGB1, contributing to improved prognosis of colorectal cancer.	Oncol Rep. 2022 May;47(5):87.	Original Article
318	Kawahara K, Takano S, Furukawa K, et al.	肝胆膵外科	The effect of the low stromal ratio induced by neoadjuvant chemotherapy on recurrence patterns in borderline resectable pancreatic ductal adenocarcinoma.	Clin Exp Metastasis. 2022 Apr;39(2):311-322.	Original Article
319	Hosokawa I, Furukawa K, Takayashiki T, et al.	肝胆膵外科	Surgical implications of the confluence patterns of the left intrahepatic bile ducts in right hepatectomy for perihilar cholangiocarcinoma.	J Hepatobiliary Pancreat Sci. 2022 Apr;29(4):460-468.	Original Article
320	Takada M, Fukushima T, Ozawa S, et al.	乳腺外科	Infection control for COVID-19 in hospital examination room.	Scientific reports 12: 18230-18230, 2022.	Original Article
321	Morita A, Uchihara T, Ohashi N, et al.	和漢診療科	Case Report: Acupuncture is an effective treatment for olfactory dysfunction in the post COVID-19 condition. Front. Neurol. 13: 916944, 2022.	Front. Neurol. 13: 916944, 2022.	Case report
322	Matsubara M, Imaizumi Y, Fujikawa T, et al.	検査部	Tracking SARS-CoV-2 variants by entire S-gene analysis using long-range RT-PCR and Sanger sequencing.	Clin Chim Acta. 2022 May 1;530:94-98.	Original Article
323	Imaizumi Y, Ishige T, Fujikawa T, et al.	検査部	Development of multiplex S-gene-targeted RT-PCR for rapid identification of SARS-CoV-2 variants by extended S-gene target failure.	Clin Chim Acta. 2022 Nov 1;536:6-11.	Original Article
324	Niwano A, Sasaki H, Takaoka H, et al.	検査部	Extremely rare rapid development of a papillary fibroelastoma on the left ventricular anterior papillary muscle.	J Cardiol Cases. 2022 Sep 9;26(6):404-406.	Case report
325	Nishizaki Y, Kuroki H, Sato D, et al.	次世代医療構想センター	Determining Optimal Intervals for In-Person Visits During Video-Based Telemedicine Among Patients With Hypertension: Cluster Randomized Controlled Trial	JMIR Cardio . 2023 Jun 8;7:e45230. doi: 10.2196/45230 PMID: 37161483	Others
326	Shikano K, Sakao S, Inaba Y, et al.	総合医療教育研修センター 総合診療科	Tolerability of prone positioning in non-intubated patients with hypoxaemia due to COVID-19-related pneumonia	Respirology. 2022 May;27(5):370-371.	Letter

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
327	Takeda K, Naito A, Sugiura T, et al.	総合医療教育研修センター 呼吸器内科	Pulmonary Veno-occlusive Disease that Developed Following Hematopoietic Stem Cell Transplantation for Acute Myeloid Leukemia: A Case Report.	Internal medicine (Tokyo, Japan) .2022 Jun;62(2) 275-279	Case report
328	Kasai H, Terada J, Nagata J, Yamamoto K, et al.	総合医療教育研修センター 呼吸器内科	A case of thoracic air leak syndrome with pleural parenchymal fibroelastosis after treatment for hematologic malignancy while awaiting lung transplantation: Imaging and pathological findings of rapid loss in lung volume.	Respir Med Case Rep. 2022 May; 14;37:101630.	Case report
329	Kasai H, Saito G, Ito S, et al.	総合医療教育研修センター 呼吸器内科	COVID-19 infection control education for medical students undergoing clinical clerkship: a mixed-method approach.	BMC medical education.2022 Jun; 22(1) 453-453	Original Article
330	Takeda K, Kasai H, Sakao S, et al.	総合医療教育研修センター 呼吸器内科	Clinical Outcomes of Sotrovimab 56 Treatment in 10 High-Risk Patients with Mild COVID-19: A Case Series.	The American journal of case reports.2022 Jul; 23 e936832	Case report
331	Kuroda M, Hori M, Maezawa Y, et al.	未来開拓センター	LCAT-trial-24 weeks: Protocol for a clinical study to evaluate the safety of regenerative medicine and gene therapy by the autologous transplantation of human lecithin:cholesterol acyltransferase gene-transduced human pre-adipocytes	Contemp Clin Trials Commun. 2022 Jun 9;28:100946.	Others
332	Ishikawa M, Uchida M, Yamazaki S, et al.	薬剤部	Evaluation of association between parameters related to penetration into cerebrospinal fluid and the microbiological efficacy of vancomycin in patients with bacterial meningitis.	J Chemother. 2022 May;34(3):157-165.	Original Article
333	Niibe Y, Suzuki T, Yamazaki S, et al.	薬剤部	Identification of factors affecting meropenem pharmacokinetics in critically ill patients: Impact of inflammation on clearance.	J Infect Chemother. 2022 Apr;28(4):532-538.	Original Article
334	Uchida M, Sawada M, Yamazaki S, et al.	薬剤部	Contribution of diafiltration and adsorption to vancomycin clearance in a continuous hemodiafiltration circuit model in vitro.	Artif Organs. 2022 Jun;46(6):1086-1096.	Original Article
335	Yamazaki S, Watanabe K, Okuda Y, et al.	薬剤部	Adverse effect investigation using application software after vaccination against SARS-CoV-2 for healthcare workers.	J Infect Chemother. 2022 Jun;28(6):791-796.	Original Article
336	Ishii I.	薬剤部	[Compliance with Vaccination against SARS-CoV-2: Information Transmission Based on Scientific Evidence and Its Difficulty].	Yakugaku Zasshi. 2022;142(6):601-609.	Review
337	Nakazawa T, Uchida M, Suzuki T, et al.	薬剤部	Oral antibiotics and a low-residue diet reduce the incidence of anastomotic leakage after left-sided colorectal surgery: a retrospective cohort study.	Langenbecks Arch Surg. 2022 Sep;407(6):2471-2480.	Original Article
338	Utsumi A, Goto Y, Suzuki T, Imai C, et al.	薬剤部	Nelarabine-induced rhabdomyolysis in a patient with T-cell acute lymphoblastic leukemia: a case report.	J Pharm Health Care Sci. 2022 Jun 11;8(1):17.	Case report
339	Imai C, Saeki H, Yamamoto K, et al.	薬剤部	Radiotherapy plus cetuximab for locally advanced squamous cell head and neck cancer in patients with cisplatin-ineligible renal dysfunction: A retrospective study.	Oncol Lett. 2022 May;23(5):152.	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
340	Tsukiji M, Ishikawa M, Okubo M, et al.	薬剤部	[Report on a Psychiatric Clinical Practicum in Which Pharmacy Students Perform a Pharmaceutical Intervention].	Yakugaku Zasshi. 2022;142(11):1277-1285.	Original Article
341	Nakazawa T, Yamazaki S, Uchida M, et al.	薬剤部	Relationship between elevated bilirubin levels and enhanced warfarin effects during biliary obstruction.	Eur J Clin Pharmacol. 2023 Mar;79(3):437-443.	Original Article

計341件

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別

計 0件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1)倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
<p>・手順書の主な内容:</p> <p>臨床研究の審査は臨床研究倫理審査委員会が附属病院に設置されており、それぞれ規程と手順書が整備されている。手順書には、医薬品等の臨床試験に関わる業務手順が示されている。ネットワークとしての中央倫理審査委員会機能を果たすことができる手順となっている。また、人を対象とする医学系研究に関する倫理指針に対応した倫理学・法律学の専門家、一般の立場から意見を述べることのできる委員が適切に指名された構成となっている。令和2年4月より医学部とは別に附属病院に生命倫理審査委員会を新設し、定期的に委員会を開催している。令和3年6月30日より医学系指針とゲノム指針が、人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針に統合されているが、当院では引き続きそれぞれの委員会で審査を行っている。</p> <p>なお、臨床研究法下で実施される特定臨床研究を審査する認定臨床研究審査委員会が千葉大学により、附属病院に設置されている。</p> <p><u>1. 千葉大学医学部附属病院臨床研究倫理審査委員会規程</u> 千葉大学医学部附属病院(以下「病院」という。)で行われる人を対象とする生命科学・医学系研究(以下「研究」という。)について、次の各号に掲げる宣言及び指針の趣旨に沿って人間の尊厳及び人権を尊重し、社会の理解と協力を得て適正な研究を実施するため、その審査に当たることを目的として千葉大学医学部附属病院臨床研究倫理審査委員会(以下「委員会」という。)を置く。 一 ヘルシンキ宣言(1964年世界医師会採択、2013年世界医師会修正) 二 人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針(令和3年文部科学省・厚生労働省告示第3号)</p> <p><u>2. 千葉大学医学部附属病院臨床研究倫理審査委員会運営手順書</u> 1 委員会は、千葉大学医学部附属病院(以下「本院」という。)及び1の研究計画書に基づき複数の研究機関において実施される研究(以下「多機関共同研究」という。)の他の研究機関において、人を対象とする生命科学・医学系研究に定める研究を行うことの適否及び継続して行うことの適否等について、ヘルシンキ宣言と人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針(令和3年3月23日文部科学省・厚生労働省・経済産業省 告示第1号)(以下「指針」という。)等に基づいて審査する。 2 委員会は、研究責任者(多機関共同研究については研究代表者)から研究実施の適否等について意見を求められたときは、すべての研究対象者の人権、安全及び福祉を保護するため、ヘルシンキ宣言と人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針(令和3年3月23日文部科学省・厚生労働省・経済産業省 告示第1号)等に基づき、倫理的観点及び科学的観点から、研究機関及び研究者等の利益相反に関する情報も含めて中立的かつ公正に審査を行い、文書にて意見を述べるものとする。</p> <p><u>3. 千葉大学医学部附属病院生命倫理審査委員会規程</u> 千葉大学医学部附属病院に、人を対象とする生命科学・医学系研究について、次の各号に掲げる宣言及び指針の趣旨に沿って人間の尊厳及び人権を尊重し、社会の理解と協力を得て適正な研究を実施するため、その審査を行い、研究責任者に対して文書又は電磁的方法により意見を述べることを目的として、千葉大学医学部附属病院生命倫理審査委員会を置く。 一 ヘルシンキ宣言(1964年世界医師会採択、2013年世界医師会修正) 二 人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針(令和3年文部科学省・厚生労働省・経済産業省告示第1号)</p> <p><u>4. 千葉大学医学部附属病院生命倫理審査委員会運営手順書</u> 1 委員会は、千葉大学医学部附属病院及び1の研究計画書に基づき複数の研究機関において実施される研究の他の研究機関において、人を対象とする生命科学・医学系研究に定める研究を行うことの適</p>	

否及び継続して行うことの適否等について、ヘルシンキ宣言と人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針(令和3年文部科学省・厚生労働省・経済産業省告示第1号、以下「生命・医学系指針」という。)等に基づいて審査する。

2 委員会は、研究責任者から研究実施の適否等について意見を求められたときは、すべての研究対象者の人権、安全及び福祉を保護するため、ヘルシンキ宣言と生命・医学系指針等に基づき、倫理的観点及び科学的観点から、研究機関及び研究者等の利益相反に関する情報も含めて中立的かつ公正に審査を行い、文書又は電磁的方法にて意見を述べるものとする。

5. 千葉大学医学部附属病院観察研究倫理審査委員会規程
 千葉大学医学部附属病院に、人を対象とする生命科学・医学系研究(以下「研究」という。)について、次の各号に掲げる宣言及び指針の趣旨に沿って人間の尊厳及び人権を尊重し、社会の理解と協力を得て適正に研究を実施するため、倫理的観点及び科学的観点から、その研究に係る研究機関及び研究者等の利益相反に関する情報も含めて中立的かつ公正に審査を行い、研究責任者に対して文書又は電磁的方法により意見を述べることを目的として千葉大学医学部附属病院観察研究倫理審査委員会を置く。

一 ヘルシンキ宣言(1964年世界医師会採択、2013年世界医師会修正)

二 人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針(令和3年文部科学省・厚生労働省・経済産業省告示第1号)

6. 千葉大学医学部附属病院観察研究倫理審査委員会運営手順書
 1 委員会は、千葉大学医学部附属病院及び一の研究計画書に基づき複数の研究機関において実施される研究の他の研究機関において、人を対象とする生命科学・医学系研究に定める研究を行うことの適否及び継続して行うことの適否等について、ヘルシンキ宣言と人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針(令和3年文部科学省・厚生労働省・経済産業省告示第1号、以下「生命・医学系指針」という。)等に基づいて審査する。

2 委員会は、研究責任者から研究実施の適否等について意見を求められたときは、すべての研究対象者の人権、安全及び福祉を保護するため、ヘルシンキ宣言と生命・医学系指針等に基づき、倫理的観点及び科学的観点から、研究機関及び研究者等の利益相反に関する情報も含めて中立的かつ公正に審査を行い、文書又は電磁的方法にて意見を述べるものとする。

③ 倫理審査委員会の開催状況	臨床研究倫理審査委員会 年 11 回 生命倫理審査委員会 年 11 回 観察研究倫理審査委員会 年 4 回
----------------	---

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
 2 前年度の実績を記載すること。

(2)利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
<p>・規定の主な内容:</p> <p>1.国立大学法人千葉大学利益相反委員会規程 国立大学法人千葉大学に、本学利益相反マネジメントポリシーに基づき、本学の役員及び職員に係る利益相反に適切に対処するとともに利益相反に関する重要事項を審議するため、利益相反委員会を置き、次に掲げる事項を審議する。</p> <p>一 利益相反マネジメントポリシーに関すること。 二 利益相反ガイドラインに関すること。 三 利益相反防止に関する施策及び啓蒙活動に関すること。</p>	

- 四 利益相反に関する調査及び審査に関すること。
 - 五 その他利益相反に関する重要事項
- 本規程第9条に、「臨床研究に係る利益相反委員会については、別に定める」ことが規定されている。

2. 千葉大学医学部附属病院各種委員会規程及び別表 常置委員会

千葉大学医学部附属病院各種委員会規程第3条に基づく常置委員会として、別表 常置委員会のとおり、①臨床研究に係る利益相反ポリシーに関する事項、②臨床研究に係る利益相反マネジメントに関する事項、③臨床研究に係る利益相反防止に関する施策及び啓発活動に関する事項、④臨床研究に係る利益相反に関する調査及び審査に関する事項、⑤その他臨床研究に係る利益相反に関する重要事項を所轄する。

3. 千葉大学医学部附属病院における臨床研究に係る利益相反ポリシー

本ポリシーは平成17年9月に制定され、臨床研究を行う研究者と関係者、被験者、大学などを取り巻く利益相反の存在を明らかにすることによって、被験者の保護を最優先としつつ、大学や研究者などの正当な権利を認め社会の理解と信頼を得て、大学の社会的信頼を守り、臨床研究の適正な推進を図る。

4. 千葉大学医学部附属病院における臨床研究に係る利益相反マネジメント規程

千葉大学医学部附属病院における臨床研究に係る利益相反の取扱い・マネジメントは、国立大学法人千葉大学利益相反委員会規程第9条に基づき、千葉大学医学部附属病院臨床研究に関する利益相反委員会を設置し、千葉大学医学部附属病院における臨床研究に係る利益相反ポリシー、臨床研究の利益相反ポリシー策定に関するガイドライン(平成18年3月文部科学省)、厚生労働科学研究における利益相反(Conflict of Interest: COI)の管理に関する指針(平成20年3月31日科発第0331001号厚生科学課長決定)並びに法令又はこれに基づく特別の定めによるほか、この規程の定めるところによる。

本規程第4条(管理の手続き)及び第5条(管理の実施)に従い、臨床研究実施者(必要に応じて臨床研究関係者)は臨床研究の利益相反に関する自己申告書を臨床研究実施計画書と共に病院長に提出し、利益相反委員会において審査並びにマネジメントを行う。利益相反委員会の審査結果を臨床研究倫理審査委員会に報告し、臨床研究倫理審査委員会の審査結果も踏まえて、利益相反管理も含めて審査を行っている。

5. 臨床研究の利益相反に関する自己申告書

臨床研究実施者及び倫理審査委員会の委員等は、利益相反委員会に利益相反に関する自己申告書を提出し、適切なマネジメント受け、必要な場合には試験実施計画書を変更等の対応を実施している。臨床研究法下で実施する試験は、提出された申告内容について事実確認を行い、必要に応じて利益相反委員会のマネジメントを受けている。

③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況

年 11 回

(注)前年度の実績を記載すること。

(3)臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況

年 6 回

・研修の主な内容:

- ・臨床研究入門講義 3回
「臨床試験の法的枠組/臨床試験の手続き」「利益相反/研究倫理」「説明・同意/説明文書の作成」
- ・倫理審査委員会研修会 2回
「個人情報保護」「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針の動向」
- ・臨床研究に関わる特別セミナー 1回
「臨床研究と利益相反(COI)管理:最近の動向」

(注)前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

(目的と特徴)
<ul style="list-style-type: none">● 初期研修を修了した医師・歯科医師が臨床医学系専門領域の専門医を取得する● 2年間の卒後研修を含む新しい枠組みでの専門医を取得できるプログラム● 内科、外科の場合は内科認定医・認定内科専門医、外科専門医を取得できると共に、さらにサブスペシャリティーの専門医を取得できるプログラム
(研修期間)
<ul style="list-style-type: none">● 研修期間は3～5年(卒後研修:2年を含まない)原則として各専門領域の専門医取得に定められた期間
(到達目標)
<ul style="list-style-type: none">● 専門医としての患者ケアのための臨床能力を身につける● 専門医としての患者ケアのための知識の習得と応用が出来る● 診療経験を振り返り臨床能力を向上させることが出来る● 必要かつ十分なコミュニケーション能力を示すことが出来る● 医師としてのプロフェッショナルリズムを身につける● 家族・地域・制度などの医療資源を理解し活用することが出来る● 指導医としての教育的役割を果たすことが出来る● 臨床研究の意義を理解し倫理原則にしたがって研究を行うことが出来る

(注)上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	148 人
-------------	-------

(注)前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
加藤 直也	消化器内科	科長(教授)	36年	
堺田 恵美子	血液内科	科長(准教授)	28年	
浅沼 克彦	腎臓内科	科長(教授)	27年	
中島 裕史	アレルギー・膠原病内科	科長(教授)	34年	
小野 啓	糖尿病・代謝・内分泌内科	科長(准教授)	27年	
小林 欣夫	循環器内科	科長(教授)	34年	
小林 欣夫	冠動脈疾患治療部	部長(教授)	34年	
鈴木 拓児	呼吸器内科	科長(教授)	28年	
桑原 聡	脳神経内科	科長(教授)	38年	
生坂 政臣	総合診療科	科長(教授)	37年	
並木 隆雄	和漢診療科	科長(准教授)	37年	
猪狩 英俊	感染症内科	科長(教授)	34年	
瀧口 裕一	腫瘍内科	科長(教授)	39年	
松宮 護郎	心臓血管外科	科長(教授)	36年	
松原 久裕	食道・胃腸外科	科長(教授)	38年	

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
大塚 将之	肝胆膵外科	科長(教授)	34年	
長嶋 健	乳腺・甲状腺外科	科長(准教授)	35年	
吉野 一郎	呼吸器外科	科長(教授)	36年	
菱木 知郎	小児外科	科長(教授)	29年	
滝口 裕一	臨床腫瘍部	部長(教授)	39年	
磯野 史朗	麻酔・疼痛・緩和医療科	科長(教授)	38年	
市川 智彦	泌尿器科	科長(教授)	35年	
大鳥 精司	整形外科	科長(教授)	28年	
馬場 隆之	眼科	科長(教授)	25年	
猪爪 隆史	皮膚科	科長代理(講師)	24年	
花澤 豊行	耳鼻咽喉・頭頸部外科	科長(教授)	33年	
三川 信之	形成・美容外科	科長(教授)	31年	
伊豫 雅臣	精神神経科	科長(教授)	38年	
岩立 康男	脳神経外科	科長(教授)	39年	
甲賀 かをり	婦人科・周産期母性科	科長(教授)	26年	
濱田 洋通	小児科	科長(教授)	32年	
宇野 隆	放射線科	科長(教授)	34年	
中田 孝明	救急科	科長(教授)	23年	
大島 拓	集中治療部	部長(准教授)	24年	
浅沼 克彦	人工腎臓部	部長(教授)	27年	
村田 淳	リハビリテーション科	科長(准教授)	36年	
伊豫 雅臣	こどものこころ診療部	部長(教授)	38年	
松下 一之	検査部	部長(准教授)	34年	
池田 純一郎	病理診断科・病理部	科(部)長(教授)	20年	
加藤 順	内視鏡センター	センター長(准教授)	29年	
鶴澤 一弘	歯科・顎・口腔外科	科長(教授)	33年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

<p>① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況(任意)</p> <p>・研修の主な内容: COVID-19対策のため、全体で集合するのではなく、部署・病棟ごとに急変対応トレーニングを実施した。クリニカルスキルズセンターで実施した研修については、Simam3G、ALSシミュレータ、新生児蘇生人形を使用し、部署で起こりやすい症例について対応をトレーニングした。そのほか人工呼吸器セミナー、ECMO研修などを実施した。 看護師だけでなく医師、臨床工学技士、精神保健福祉士、臨床心理士、理学療法士も参加した。</p> <p>・研修の期間・実施回数: 23回/年</p> <p>・研修の参加人数: 489名 そのほか、各病棟にシミュレータや機器を貸し出した勉強会は11か所、計47回実施された。</p>
<p>② 業務の管理に関する研修の実施状況(任意)</p> <p>・研修の主な内容: 「新任看護師長研修」 新任看護師長が、看護管理に必要な基礎的な知識・技術を学び、看護師長の役割、責務を認識し、職務遂行のための基盤を作る。また、看護師長として、効果的な部署運営のために必要なマネジメント能力を養う。 【講義】病院及び看護部組織と運営/人事・労務管理/人材育成/広報・看護師確保対策/医療安全における管理者の役割/看護業務における管理者の役割、病院再開発の将来構想と看護部の役割/看護の質評価と病院経営への参画 【他部署研修】他部署の看護管理の実際を知り、自部署運営や看護管理者としての役割遂行への示唆を得る</p> <p>・研修の期間・実施回数: 【講義】令和4年4月19・25・27日、5月9・11・13・16日(全7回) 【他部署研修】令和4年11月1・10・14・15・17・29日(1人あたり2部署の研修)</p> <p>・研修の参加人数: 新任看護師長 4名</p>
<p>③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況</p> <p>・研修の主な内容:</p> <p>・研修の期間・実施回数:</p> <p>・研修の参加人数:</p>

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状
管理責任者氏名	病院長 横手 幸太郎	
管理担当者氏名	企画情報部長 鈴木 隆弘 薬剤部長 石井 伊都子 医療安全管理部長 相馬 孝博 感染制御部長 猪狩 英俊 臨床工学センター長 磯野 史朗 総合医療教育研修センター長 伊藤 彰一	総務課長 荘野 典文 管理課長 渡辺 勉 経営企画課長 細川 敬貴 研究推進課長 大塚 隆司 医事課長 富永 吉司 医療サービス課長 高橋 実

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	総務課
		各科診療日誌	各診療科
		処方せん	薬剤部
		手術記録	企画情報部 医療サービス課
		看護記録	企画情報部 医療サービス課
		検査所見記録	企画情報部 医療サービス課
		エックス線写真	企画情報部
		紹介状	企画情報部 医療サービス課
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	企画情報部 医療サービス課
			管理担当者は、病院日誌を所管部門の施錠可能な場所(キャビネット等)で保管・管理している。また、事務LAN内に電子ファイルもあわせて保存している 診療録の外部持出は認められていない。やむを得ない事情がある場合は部局情報保護管理責任者に許可を得なければならない 紙診療録は外来診療録と入院診療録に分けて、外来診療録は一患者ごと、入院診療録は一患者一入院ごとに管理している。紙診療録及び電子カルテ(総合病院情報システム)は、入退室管理された診療録保管庫(サーバー室を含む)で保管している
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	総務課
		高度の医療の提供の実績	研究推進課
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	研究推進課
		高度の医療の研修の実績	総務課
		閲覧実績	総務課
		紹介患者に対する医療提供の実績	経営企画課 医療サービス課
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	経営企画課 医療サービス課 薬剤部
			管理担当者は、病院の管理及び運営に関する諸記録について、所管部門の施錠可能な場所(キャビネット等)で保管・管理している。また、院内LAN内に電子ファイルも合わせて保存している

規 則 第 一 条 の 十 一 第 一 項 に 掲 げ る 事 項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医事課医療安全室	管理担当者は、病院の管理及び運営に関する諸記録について、所管部門の施錠可能な場所(キャビネット等)で保管・管理している。また、院内LAN内に電子ファイルも合わせて保存している
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医事課医療安全室	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	総合医療教育研修センター 医事課医療安全室	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部 医事課医療安全室	

		保管場所	管理方法	
病院の管 理及び運 営に關す る諸記録	規 則 第 一 条 の 十 一 第 二 項 第 一 号 か ら 第 三 号 ま で に 掲 げ る 事 項	院内感染対策のための指針の策定状況	管理担当者は、病院の管理及び運営に関する諸記録について、所管部門の施錠可能な場所(キャビネット等)で保管・管理している。また、院内LAN内に電子ファイルも合わせて保存している	
		院内感染対策のための委員会の開催状況		医事課医療安全室
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況		医事課医療安全室
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況		感染制御部 医事課医療安全室
		医薬品安全管理責任者の配置状況		医事課医療安全室
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況		薬剤部 医事課医療安全室
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況		薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況		薬剤部 医事課医療安全室
		医療機器安全管理責任者の配置状況		管理課
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況		管理課
医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	管理課			
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	管理課			

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第一項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医事課医療安全室
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	医事課医療安全室
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療サービス課
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医療サービス課
		医療安全管理部門の設置状況	医事課医療安全室
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医事課医療安全室
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医事課医療安全室
		監査委員会の設置状況	総務課
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理部 医事課医療安全室
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医事課医療安全室
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医事課医療安全室
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	総務課
		職員研修の実施状況	総合医療教育研修センター 総務課 医事課医療安全室
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医事課医療安全室
		管理者が有する権限に関する状況	総務課
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	総務課		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務課		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画 ② 現状
閲覧責任者氏名	病院長 横手 幸太郎
閲覧担当者氏名	総務課長 荘野 典文 管理課長 渡辺 勉 経営企画課長 細川 敬貴 研究推進課長 大塚 隆司 医事課長 富永 吉司 医療サービス課長 高橋 実
閲覧の求めに応じる場所	千葉大学医学部附属病院
閲覧の手続の概要 国立大学法人千葉大学は「独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律」(以下「情報公開法」)の適用を受けており、この法律に基づき、千葉大学の保有する法人文書の開示を請求することができる。 開示請求者より法人文書の開示請求があった場合、該当法人文書の探索・特定を実施し、情報公開・個人情報保護委員会を開催し、開示又は不開示の決定を行い、その結果を請求者に通知し、法人文書の開示を実施することとなる。	

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0	件
閲覧者別	医師	延	件
	歯科医師	延	件
	国	延	件
	地方公共団体	延	件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11 第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.基本的な考え方 2.病院長の責務 3.医療安全に関する組織と取組 4.医療安全管理のための職員研修 5.医療事故の報告 6.医療事故発生時の対応 7.患者等への当該基本方針の閲覧 8.患者からの相談への対応 9.その他の医療安全推進への対応 10.その他 	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<p>・ 設置の有無(<input checked="" type="checkbox"/>有・無)</p> <p>・ 開催状況:年 12 回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.病院において重大な問題その他委員会において取り扱うことが適当な問題が発生した場合における速やかな原因の究明のための調査及び分析に関すること。 2.前号の分析の結果を活用した医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の立案及び実施並びに病院職員への周知に関すること。 3.前号の改善のための方策の実施の状況の調査及び必要に応じた当該方策の見直しに関すること。 4.入院患者が死亡した場合における当該死亡の事実及び死亡前の状況に関する医療安全管理部への報告の実施の状況の確認及び確認結果の病院長への報告に関すること。 5.入院患者の死亡以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして病院長が定める水準以上の事象が発生したときにおける当該事象の発生の実事実及び発生前の状況の医療安全管理部への報告の実施の状況に関する確認及び確認結果の病院長への報告に関すること。 6.前2号に規定する実施の状況が不十分な場合における適切な報告のための病院職員への研修及び指導に関すること。 7.その他医療安全管理に関すること。 	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 2 回
<p>・ 研修の内容(すべて)：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.第1回安全セミナー 令和4年6月16日～7月8日(eラーニング) <ol style="list-style-type: none"> ①「振り返り(検討)をしましょう」「注射三点認証システムについて」「院内の安全な鎮静に向けて」 ②「求められる情報モラルとリテラシー」 ③「早期のMETコールで重症化予防 RSSとして当院METの役割」 ④「感染対策のポイントや注意点など」 	

- ⑤「当院における抗菌薬適正使用の取り組み」
 - ⑥「画像診断に係る安全管理」
- 2.第2回安全セミナー 令和4年12月9日～令和5年1月4日(eラーニング)
- ①「院内の安全な鎮静に向けて-安全性向上のために-」
「DNARについて考える-医療・ケアチームの責任と重要他者の必要性-」
 - ②「情報の保護・管理に関する最新情報」
 - ③「METコール～院内急変に正しく対応するために～」
 - ④「抗菌薬の適正使用について」
 - ⑤「手指衛生の必要性とタイミングについて」
 - ⑥「医薬品管理の必要性-麻薬・向精神薬・嚴重管理薬-」
 - ⑦「輸液ポンプを安全に使用するために」
 - ⑧「MRI検査とポータブルX線撮影を安全に行うために」
 - ⑨「病理検査報告書の確認忘れ防止の取り組み」

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有・無)
 - ・ その他の改善のための方策の主な内容:
- 1.医療上の問題
「千葉大学医学部附属病院インシデント及び医療上の事故発生時の対応に関する取扱要項」に則り、インシデントが発生した場合はインシデント報告システムにより速やかに報告され、部署リスクマネージャー及びゼネラルリスクマネージャーが内容を把握する。インシデントの詳細な情報は、部署リスクマネージャーが確認し、収集する。ゼネラルリスクマネージャーは報告内容に応じて当該部署に出向き、当事者及び関係者から情報を収集する
 - 2.分析
各部署では当該部署のリスクマネージャーが中心となり、KYTやPOAMなどの分析手法を活用し対策を検討している。医療安全管理部のゼネラルリスクマネージャーが部署への分析手法の指導・支援を行っている
 - 3.改善策の検討
マニュアル改正などはリスクマネジメント会議において多職種による検討を行い、医療の質・安全管理委員会で承認する。また、医療事故発生の原因調査及び原因究明は事例検討委員会において検討する

(注)前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11 第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 基本的な考え方 2. 委員会, その他組織に関すること 3. 従業者に対する研修等 4. 感染症の発生状況及び抗菌薬使用状況の報告 5. 院内感染発生時の対応 6. 患者等への当該基本方針の閲覧 7. その他の院内感染対策推進のために必要な事項 	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
<p>・ 活動の主な内容:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 院内感染の実態把握のための調査及び点検に関すること 2. 院内感染予防対策の立案に関すること 3. 院内感染発生時の対策に関すること 4. 職員に対する院内感染予防対策の教育に関すること 5. 院内感染予防対策マニュアルの作成及び改訂に関すること 6. その他院内感染予防対策に関すること 	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 2 回
<p>・ 研修の内容(すべて):</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 第1回安全セミナー 令和4年6月16日～7月8日 (e-ラーニング) 「感染対策のポイントや注意点など」 「当院における抗菌薬適正使用の取り組み」 2. 第2回安全セミナー 令和4年12月9日～令和5年1月14日 (e-ラーニング) 「抗菌薬の適正使用について」 「手指衛生の必要性和タイミングについて」 	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (<input checked="" type="checkbox"/> 有・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ICT活動 ICTラウンド (月間) ・ 月間耐性菌ラウンド(MRSA・ESBL・MDRP・CREを対象(月1回)と報告) (週間) ・ 耐性菌チェック(分離菌報告) ・ 環境チェック ・ 清掃・廃棄物ラウンド(感染制御部・事務職員・清掃業者でラウンド(月2回)と報告) 	

2. AST活動

- ・血液培養陽性患者のモニター
- ・診療コンサルテーション報告
- ・抗菌薬の許可制
- ・特定薬剤使用状況報告
- ・ASTラウンド

3. 職員感染対策

- ・針刺し・切創、血液・体液曝露外来の実施
- ・職員の抗体検査と予防接種の実施
- ・病院職員・外部委託業者に対するワクチン接種

4. 医療関連感染サーベイランスの実施とフィードバック

- ・カテーテル関連血流感染(全部署及び血液内科)
- ・手術部位感染(10診療科17手技)
- ・手指衛生サーベイランス(払い出し量からみた手指衛生指数・直接観察法)
- ・J-SIPHE(感染対策連携共通プラットフォーム)を活用した他医療機関比較の充実

5. 感染対策向上加算に関する地域連携活動

- ・感染対策向上加算に係る相互チェックの実施(連携医療機関と相互に年1回ずつ)
- ・感染対策向上加算に係るカンファレンスの開催(連携医療機関と年4回)
- ・指導強化加算に係る院内ラウンド(年間4施設に直接訪問して指導を行う)
- ・院内感染地域支援ネットワーク事業と連携した地域の感染対策向上を目的とした活動(研修会・アウトブレイク支援・感染対策相談等)

6. アウトブレイク発生時の対応と終息に向けた対策

- ・新型コロナウイルス感染症クラスター発生から終息までの対応
- ・NICU・GCUにおけるMRSAのアウトブレイク対応

7. 手指衛生遵守率向上のための取組み

- ・手指消毒剤個人携帯の推奨
- ・手指衛生啓発活動
- ・手指衛生サーベイランスの結果報告と手指衛生導等

8. 国公立大学附属病院感染対策協議会における活動(感染対策チェック)

- ・国公立大学感染対策協議会の指示により自己チェックのみ実施し、自施設の改善活動の実施
- ・国公立大学感染対策協議会(総会)参加

9. 新型コロナウイルス感染症対策

- ・新型コロナウイルス感染症対策本部と情報共有し院内感染対策を強化した
- ・行政の会議委員として会議・連絡会等に参加

(注)前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11 第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 3 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>1. 新規採用者ガイダンス eラーニング 「医薬品安全管理(麻薬取り扱い含む)」</p> <p>2. 新規採用者ガイダンス(研修医向け) 「抗がん薬の取り扱いについて」</p> <p>3. 第2回医療安全セミナー eラーニング 令和4年12月9日～令和5年1月4日 「医薬品管理の必要性 -麻薬・向精神薬・厳重管理薬-」</p>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・ 手順書の作成 (<input checked="" type="checkbox"/>有・無)</p> <p>・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容：</p> <p>1. 医薬品の採用を審議する薬事委員会の開催及び適正運用の実施</p> <p>2. 医薬品の購入及び麻薬、向精神薬、毒薬、劇薬、厳重管理薬、特定生物由来製品等の適正管理の実施</p> <p>3. 患者に対する安全な医薬品供給のための処方、調剤、交付、指示出し・指示受け、過誤防止対策、薬剤管理指導等の実施</p> <p>4. 医薬品の情報の収集及び提供の実施</p> <p>5. 医薬品の使用に関する教育・研修の実施</p> <p>6. 各部門における手順書に基づいた業務実施状況の確認 等</p>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (<input checked="" type="checkbox"/>有・無)</p> <p>・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例(あれば)： HIV感染症妊婦からの母子感染予防に使用するジドブジン</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容： 未承認医薬品については臨床倫理審査委員会にて承認が得られたもののみを使用するルールをとり、当該委員会で審議するための必要情報を収集するなどの対応をしている。 院内製剤についても、日本病院薬剤師会の指針に則りクラス分類を導入し、クラスに応じた審査を取り入れている。また、使用後の評価も徹底する運用としている。 その他、医薬品の安全使用に係る医薬品情報は医薬品の安全使用のための措置に係る実施担当者(医薬品情報室長)から医薬品安全管理責任者への報告を行い、医薬品安全管理責任者から院内への周知を行っている。</p>	

(注)前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11 第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 32 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>安全使用に際して技術の習熟が必要と考えられる下記の医療機器に関して、定期的に研修を実施している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人工呼吸器(2回) ・閉鎖式保育器(2回) ・血液浄化装置(2回) ・人工心肺及び補助循環装置(17回) ・除細動器(2回) ・新規導入の機器(3回) ※Eラーニングによるものを含む。 ・診療用高エネルギー放射線発生装置(リニアック)の安全講習会(年2回) ・診療用放射線照射装置(アフターローディング)の安全講習会(年2回) 	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る計画の策定 (<input checked="" type="checkbox"/> 有・無)</p> <p>・ 機器ごとの保守点検の主な内容：</p> <p>診療用高エネルギー放射線発生装置(リニアック)、診療用放射線照射装置(アフターローディング)、生命維持管理装置(人工心肺および補助循環装置・人工呼吸器・血液浄化装置・除細動器・閉鎖式保育器)、当院で定めた機器(CT・MRI・血管造影装置・核医学診断装置、輸液・シリンジポンプ・フットポンプ・生体情報モニタ等)</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (<input checked="" type="checkbox"/> 有・無)</p> <p>・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例(あれば)：</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>医療法施行規則第9条の23第1項第8号に則り、未承認医療機器については臨床倫理審査委員会にて承認が得られたもののみを使用するルールをとり、当該委員会で審議するための必要情報を収集するなどの対応をしている。</p> <p>臨床工学技士を配置し、院内の安全管理部員を兼任とすることで、院内で起こった医療機器に関するインシデント等に早急に対応、安全管理部との共同配信文書として院内へ配信することができている。</p> <p>また、全体で行う院内講習会のほか、インシデント発生等の際には原因を究明し、部署別・事例別の講習会を開催し、再発防止に努めている。</p>	

(注)前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<p>・責任者の資格 (<input checked="" type="checkbox"/>医師・歯科医師)</p> <p>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>「千葉大学医学部附属病院における医療安全管理に関する基本方針」第2の1において、千葉大学医学部附属病院規程第6条第6項の規定により医療安全管理責任者に任命された副院長は、医療安全管理部、医療の質・安全管理委員会、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者等を統括すると定めている。本院の医療安全管理責任者である常勤医師の副院長は医療の質・安全管理委員会等に出席し組織的に医療事故防止について検討し、患者に安全・確実な医療を提供するため病院長と共に医療安全管理対策に取り組んでいる。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有(10 名)・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>「千葉大学医学部附属病院医薬品に関する安全管理規程」において、医薬品安全管理責任者は医薬品の安全使用のための措置に係る実施担当者を指名し、医薬品の安全使用のための業務に資する医薬品に関する情報の整理、周知及び当該周知状況の確認を行わせることとしている。</p> <p>医薬品情報室長を実施担当者として指名し、病院における未承認等の医薬品の使用のための処方状況や、採用されている医薬品全般の医薬品の添付文書情報のほか、医薬品製造販売業者、行政機関、学術誌等からの情報を広く収集し、管理するとともに、得られた情報のうち必要なものは院内全教職員へメールにて周知を行っている。また、特に周知状況の確認が必要と思われる重要周知事項については、全職員がシステムからログインして閲覧を行う事により、閲覧状況を確認できる方策をとっている。</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>「千葉大学医学部附属病院医薬品に関する安全管理規程」において、医薬品安全管理責任者は医薬品の安全使用のための措置に係る実施担当者を指名し、未承認等の医薬品の使用に関し、当該未承認等の医薬品の使用状況の把握のための体系的な仕組みの構築並びに当該仕組みにより把握した未承認等の医薬品の使用の必要性等の検討の状況の確認、必要な指導及びこれらの結果の共有を行わせることとしている。</p> <p>薬剤師ゼネラルリスクマネージャーを実施担当者として指名し、未承認新規医薬品等担当部門と連携を取ることで、院内における未承認新規医薬品等の使用の適否決定状況及び適正使用の確認を行っている。</p> <p>・担当者の指名の有無 (<input checked="" type="checkbox"/>有・無)</p> <p>・担当者の所属・職種：</p> <p>(所属: 薬剤部, 職種: 薬剤師(医薬品情報室長)) (所属: 薬剤部, 職種: 薬剤師(GRM))</p>	

④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
<p>・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無（<input checked="" type="checkbox"/>有・無）</p> <p>・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容： 診療情報管理委員会において、説明・同意文書の新規作成・更新の際に「病院として定めた必要項目が記載されているか」について確認を行い、承認された文書のみ使用する。 診療情報管理士が、各診療科が説明に使用する文書を適切に使用しているか、文書を用いて説明を行った際に、診療録にも説明時の状況や患者の反応の記載がなされているか等、遵守状況を確認（監査）し、説明書の追記が必要な部分に追記がない、診療録に説明時の状況等の記載がないなど不適切な場合は指導を行っている。</p>	

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
<p>・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容： 千葉大学医学部附属病院診療情報管理規程に基づき、診療録等の記載内容の確認および監査を行っている。 入院基本情報、入院診療計画、医療行為等の説明と同意、経過記録、退院時サマリー等を対象とした多職種監査を定期的実施し、その結果を診療情報管理委員会に報告している。また、監査結果は、診療情報責任者ならびに診療情報管理ワーキンググループ委員に対して報告し、記載方法等の指導をしている。 監査結果の報告を受けた診療情報責任者は、速やかに対策を講じ、その結果を診療情報管理責任者へ報告している。</p>	

⑥ 医療安全管理部門の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
<p>・所属職員：専従(4)名、専任(1)名、兼任(23)名 うち医師：専従(1)名、専任(0)名、兼任(13)名 うち薬剤師：専従(1)名、専任(0)名、兼任(2)名 うち看護師：専従(2)名、専任(0)名、兼任(2)名</p> <p>(注)報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること</p> <p>・活動の主な内容： 1.医療の質・安全管理委員会に係る事務 2.事故その他の医療安全管理部において取り扱うことが必要なものとして病院長が認める事象が発生した場合における診療録その他の診療に関する記録の確認、患者又家族への説明、当該事象の発生原因の究明の実施その他の対応の状況の確認及び当該確認の結果に基づく病院職員への必要な指導 3.医療に係る安全管理に係る連絡調整 4.医療に係る安全の確保のための対策の推進 5.医療安全の確保に資する診療状況のモニタリング 6.全病院職員に対する医療安全に係る教育・研修の企画、実施及び医療安全に関する認識状況の確認 7.各部署における医療安全対策の実施状況の評価に基づく、医療安全確保のための業務改善計画書の作成及びそれに基づく医療安全対策の実施状況及び評価結果の記録 8.医療の質・安全管理委員会との連携状況、医療安全に係る職員研修の実績、患者等の相談件数及び相談内容、相談後の取扱いその他の医療安全管理者の活動実績の記録 9.医療安全に係る取組み及びその評価を行うカンファレンスの実施 10.その他医療安全の推進に関すること</p>	

※診療状況のモニタリングとしては、医療の質・安全管理委員会へ転倒転落発生率・損傷発生率、剖検実施率、Ai 実施率、デスクンファ実施率などを報告している。

※従業者の医療安全の認識についてのモニタリングについては、医療安全管理に係る全職員に対する研修を実施した際に、e-ラーニング等により理解度の把握を行っている。

※平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

※医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数(3 件)、及び許可件数(3 件)

・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無(・無)

・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無(・無)

・活動の主な内容:

本院において高難度新規医療技術を用いて実施する医療行為を対象に、高難度新規医療技術の施行についての申請書や患者に対する同意説明文書を通じ、審査・評価している。承認後は、診療録等の記載内容を確認し、有害事象が生じた場合は速やかに報告を受ける。また、当該高難度新規医療技術が千葉大学医学部附属病院高難度新規医療技術・未承認新規医薬品等取扱規程に基づいて施行されていたかどうかについても確認を行う。実施後は、完了や中止・中断の有無、有害事象の有無などの結果報告について文書にて報告を受ける。

・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無(・無)

・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無(・無)

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数(1 件)、及び許可件数(1 件)

・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無(・無)

・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無(・無)

・活動の主な内容:

本院において未承認新規医薬品等を用いて実施する医療行為を対象に、未承認新規医薬品等の使用についての申請書や患者に対する同意説明文書を通じ、審査・評価している。承認後は、診療録等の記載内容を確認し、有害事象が生じた場合は速やかに報告を受ける。また、当該未承認新規医薬品等が千葉大学医学部附属病院高難度新規医療技術・未承認新規医薬品等取扱規程に基づいて使用されていたかどうかについても確認を行う。実施後は、完了や中止・中断の有無、有害事象の有無などの結果報告について文書にて報告を受ける。

・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無(・無)

・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無(・無)

<p>⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況</p>
<p>・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況:年 456 件</p> <p>・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況:年 84 件</p> <p>・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 入院患者が死亡した場合における当該死亡の事実及び死亡前の状況に関する医療安全管理部への報告の実施の状況の確認及び確認結果の病院長への報告に関すること 2. 入院患者の死亡以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして病院長が定める水準以上の事象が発生したときにおける当該事象の発生の事実及び発生前の状況の医療安全管理部への報告の実施の状況に関する確認及び確認結果の病院長への報告に関すること 3. 上記の実施の状況が不十分な場合における適切な報告のための病院職員への研修及び指導に関すること
<p>⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況</p>
<p>・他の特定機能病院等への立入り(<input checked="" type="checkbox"/> (病院名:大分大学医学部附属病院)・無)</p> <p>・他の特定機能病院等からの立入り受入れ(<input checked="" type="checkbox"/> (病院名:和歌山県立医科大学附属病院)・無)</p> <p>・技術的助言の実施状況: 令和4年度は新型コロナウイルス感染症の動向を踏まえ、訪問調査を取りやめ、紙面調査のみとされ、調査シートに基づき紙面での相互チェックを実施した。</p>
<p>⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況</p>
<p>・体制の確保状況: 患者支援センター内の患者相談窓口もしくは電話にて受付を行い、医療安全管理に関する相談内容の場合は医療安全管理部及び関係者に報告と対応を行う。</p>

<p>⑫ 職員研修の実施状況</p>
<p>・研修の実施状況:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.第1回安全セミナー 令和4年6月16日～7月8日(eラーニング) <ol style="list-style-type: none"> ①「振り返り(検討)をしましょう」 「注射三点認証システムについて」 「院内の安全な鎮静に向けて」 ②「求められる情報モラルとリテラシー」 ③「早期のMETコールで重症化予防 RSSとして当院METの役割」 ④「感染対策のポイントや注意点など」 ⑤「当院における抗菌薬適正使用の取り組み」 ⑥「画像診断に係る安全管理」 2.第2回安全セミナー 令和4年12月9日～令和5年1月4日(eラーニング) <ol style="list-style-type: none"> ①「院内の安全な鎮静に向けて-安全性向上のために-」 「DNARについて考える-医療・ケアチームの責任と重要他者の必要性-」

- ②「情報の保護・管理に関する最新情報」
- ③「MET コール～院内急変に正しく対応するために～」
- ④「抗菌薬の適正使用について」
- ⑤「手指衛生の必要性とタイミングについて」
- ⑥「医薬品管理の必要性-麻薬・向精神薬・嚴重管理薬-」
- ⑦「輸液ポンプを安全に使用するために」
- ⑧「MRI 検査とポータブル X 線撮影を安全に行うために」
- ⑨「病理検査報告書の確認忘れ防止の取り組み」

(注) 前年度の実績を記載すること(⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況:

- ・管理者 : 令和 5 年 2 月 2 日 2022 年度特定機能病院管理者研修
公益財団法人日本医療機能評価機構主催
- ・医療安全管理責任者 : 令和 4 年 11 月 11 日 2022 年度特定機能病院管理者研修
公益財団法人日本医療機能評価機構主催
- ・医薬品安全管理責任者 : 令和 4 年 12 月 7 日 2022 年度特定機能病院管理者研修
公益財団法人日本医療機能評価機構主催
- ・医療機器安全管理責任者 : 令和 4 年 12 月 7 日 2022 年度特定機能病院管理者研修
公益財団法人日本医療機能評価機構主催

(注) 前年度の実績を記載すること

⑭ 医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・第三者による評価の受審状況:

日本医療機能評価機構が実施する病院機能評価「一般病院3」を受審し、2022年11月4日に認定された。

・評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況:

病院公式ホームページに公表している。

・評価を踏まえ講じた措置:

- ①説明同意書について管理部署の承認を得た書式を使用する仕組みを作るとともに、使用状況を把握するためのカルテ監査体制を構築した。
- ②手術部位感染サーベイランスの対象診療科を拡大し、術後感染の発生を評価／分析して改善するサイクルを構築した。
- ③コロナ禍で中断されていたBLS訓練を再開し受講歴の一元的管理を開始した。
- ④診療業務に関するマニュアル等の文書一元管理を開始した。
- ⑤病棟において注射用抗がん薬を投与する際、投与前・中・後の患者の状態や反応等の観察記録を残す仕組みを構築した。
- ⑥病棟において抗がん薬投与に関わる際、職員の曝露対策として个人防护服等の着用ルールが遵守されるように研修を実施し、定着させるための定期的なラウンド評価を開始した。

(注) 記載時点の状況を記載すること

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

<p>管理者に必要な資質及び能力に関する基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基準の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 一 医療の安全の確保のために必要な資質及び能力 二 組織管理能力等の当該病院を管理運営する上で必要な資質及び能力 ・ 基準に係る内部規程の公表の有無(<input checked="" type="checkbox"/>・無) ・ 公表の方法 本学ホームページ及び本院ホームページにて選出基準を掲載している。
--

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無(<input checked="" type="checkbox"/>・無) ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無(<input checked="" type="checkbox"/>・無) ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無(<input checked="" type="checkbox"/>・無) ・ 公表の方法:本院ホームページにて掲載している 	

管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の 関係
中谷 晴昭	千葉大学理事	○	学長が指名する理事	有
手島 英雄	千葉大学理事・事務局長		学長が指名する理事	有
松原 久裕	千葉大学大学院医学研究院院長		役職指定	有
森 千里	千葉大学大学院医学研究院教授		医学研究院から推薦された教員	有
吉野 一郎	千葉大学大学院医学研究院教授		医学部附属病院から推薦された教員又は職員	有
入江 康文	千葉県医師会会長		学長が委嘱する学外の有識者	無
山口 育子	認定NPO法人ささえあい医療人権センターCOML 理事長		学長が委嘱する学外の有識者	無
山崎 晋一郎	千葉県病院局長		学長が委嘱する学外の有識者	無
箭内 博子	千葉大学医学部附属病院看護部長		学長が必要と認める者	有

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置
及び運営状況

合議体の設置の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
<p>・合議体の主要な審議内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> 一 病院規程その他規程等の制定改廃に関する事項 二 病院に関する将来計画，中期目標及び年度計画に関する事項 三 病院に関する予算の作成及び決算に関する事項 四 病院，診療科，中央診療施設その他の重要な組織の設置又は廃止に関する事項 五 執行部会において必要と判断された重要事項 六 その他病院の管理・運営・診療に関する重要事項 <p>・審議の概要の従業者への周知状況：</p> <p>議事要録を院内ホームページへ掲載している。</p> <p>・合議体に係る内部規程の公表の有無(<input checked="" type="checkbox"/>有・無)</p> <p>・公表の方法：</p> <p>本学ホームページへ掲載している。</p> <p>・外部有識者からの意見聴取の有無(<input checked="" type="checkbox"/>有・無)</p>	

合議体の委員名簿

氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
横手 幸太郎	○	医師	教授
吉野 一郎		医師	教授
磯野 史朗		医師	教授
加藤 直也		医師	教授
小林 欣夫		医師	教授
大塚 将之		医師	教授
中島 裕史		医師	教授
大鳥 精司		医師	教授
箭内 博子		看護師	看護部長
相馬 孝博		医師	教授
井上 貴裕		事務職員	特任教授
多田 典史		事務職員	事務部長
猪狩 英俊		医師	教授
花澤 豊行		医師	教授
伊藤 彰一		医師	教授
金田 篤史		医師	教授
堺田 恵美子		医師	准教授
浅沼 克彦		医師	教授
小野 啓		医師	准教授
鈴木 拓児		医師	教授
並木 隆雄		医師	准教授
瀧口 裕一		医師	教授

氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
松宮 護郎		医師	教授
松原 久裕		医師	教授
長嶋 健		医師	准教授
市川 智彦		医師	教授
中田 孝明		医師	教授
馬場 隆之		医師	教授
猪爪 隆史		医師	講師
鶴澤 一弘		医師	教授
三川 信之		医師	教授
村田 淳		医師	准教授
伊豫 雅臣		医師	教授
岩立 康男		医師	教授
桑原 聡		医師	教授
甲賀 かをり		医師	教授
濱田 洋通		医師	教授
菱木 知郎		医師	教授
宇野 隆		医師	教授
池田 純一郎		医師	教授
生坂 政臣		医師	教授
松下 一之		医師	准教授
大島 拓		医師	准教授
加藤 順		医師	准教授
田口 奈津子		医師	准教授
大曾根 義輝		医師	特任教授
清水 栄司		医師	教授
藤本 肇		医師	特任教授
鈴木 隆弘		医師	准教授
花岡 英紀		医師	教授
竹内 公一		医師	特任准教授
本橋 新一郎		医師	教授
林 秀樹		医師	教授
花輪 道子		技術職員	特任教授
勝野 達郎		医師	准教授
諏訪園 靖		医師	教授
石井 伊都子		薬剤師	教授
清野 宏		医師	特任教授

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無(有・無)
- ・ 公表の方法:
千葉大学医学部附属病院規程を本院ホームページへ掲載している。
千葉大学会計規程を本学ホームページへ掲載している。
- ・ 規程の主な内容:
 - <病院規程>
 - 一 本院の目的
 - 二 病院長の権限(診療科長等の任命・解任権限など)
 - 三 本院の組織
 - 四 役職者等の任期及び業務内容等
 - <会計規程>
 - 一 会計に関する目的、概要等
 - 二 会計機関、予算、資金・資産管理等
 - 三 契約・決算
 - 四 予算管理責任者の権限(予算配分、予算執行)等
- ・ 管理者をサポートする体制(副院長、院長補佐、企画スタッフ等)及び当該職員の役割:
 - <副病院長>
副病院長は、経営、安全管理、広報などそれぞれの役割において、病院長の職務を補佐する。
副病院長は、病院長に事故あるときはその職務を代理し、病院長が欠員のときはその職務を行う。
 - <院長補佐>
病院長補佐は、病院長の指示する重要事項について企画・立案等を行う。
 - <企画スタッフ>
病院長企画室を設置し、病院経営及び運営に関する分析、企画及び立案を行う。
- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況:
 - <人事>
副病院長は、病院長が指名し、学長が任命する。病院長補佐は、病院長が任命する。
科長は、当該科に対応する医学研究院の研究領域又は当該科の教授のうちから、病院長が任命する。部長・センター長は医学研究院又は病院の教授のうちから病院長が任命する。
 - <研修>
AJMCが開催する医師の働き方改革セミナーに病院長が参加した。
また、国立大学病院長会議が開催する第5回病院長塾に病院長、副病院長及び病院長補佐が参加し、医療DXの現在地や今後の在り方について、検討を行った。

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・ <input type="checkbox"/> 無
<p>・監査委員会の開催状況:年 2 回</p> <p>・活動の主な内容: 監事及び監査室との連携の下、次に掲げる病院業務について監査を行う。 一 医療に係る安全管理に関すること。 二 特定臨床研究の業務執行の状況に関すること。(※) 三 その他委員長が必要と認める病院業務に関すること。 (※)医療安全の観点から、臨床研究中核病院の立入検査と同時開催としている。</p> <p>・監査委員会の業務実施結果の公表の有無(<input checked="" type="checkbox"/>有・<input type="checkbox"/>無)</p> <p>・委員名簿の公表の有無(<input checked="" type="checkbox"/>有・<input type="checkbox"/>無)</p> <p>・委員の選定理由の公表の有無(<input checked="" type="checkbox"/>有・<input type="checkbox"/>無)</p> <p>・監査委員会に係る内部規程の公表の有無(<input checked="" type="checkbox"/>有・<input type="checkbox"/>無)</p> <p>・公表の方法: 本学ホームページ及び本院ホームページにて、設置規程及び委員名簿(選定理由についても記載有)、監査結果報告書を掲載している。</p>	

監査委員会の委員名簿及び選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
宮坂 信之	東京医科歯科大学 学名譽教授	○	医療安全識見者か つ病院管理経験者	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	1
花輪 正明	塩野義製薬株式 会社薬事部長		臨床研究識見者	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	3
藤原 康弘	独立行政法人医 薬品医療機器総 合機構理事長		臨床研究識見者	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	3
東宮 秀夫	一般財団法人医 薬品医療機器レ ギュラトリーサイ エンス財団理事		臨床研究識見者	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	3
山崎 晋一郎	千葉県病院事 業管理者 (千葉県病院局 長)		医療安全識見者か つ病院管理経験者	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	3
宗像 令夫	独立行政法人 中小企業基盤 整備機構関東 本部千葉大亥 鼻イノベーション プラザチーフイ ンキュベーション マネージャー		臨床研究識見者	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	3

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
中谷 晴昭	千葉大学理事		医療及び臨床研究 に関する学識経験 者	<input checked="" type="checkbox"/> ・無	3
後藤 弘子	千葉大学大学院 社会科学研究院 教授		法律学専門家	<input checked="" type="checkbox"/> ・無	1

(注)「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況
<p>・体制の整備状況及び活動内容： 千葉大学監事監査において、管理者の業務が法令に適合することを確認・指導する。</p> <p>・ 専門部署の設置の有無(<input checked="" type="checkbox"/>・無)</p> <p>・ 内部規程の整備の有無(<input checked="" type="checkbox"/>・無)</p> <p>・ 内部規程の公表の有無(<input checked="" type="checkbox"/>・無)</p> <p>・ 公表の方法： 本学ホームページにて、関係規程を掲載している。</p>

規則第15条の4第1項第3号口に掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況： 千葉大学役員会において附属病院の業務の監督を行っている。 ・ 会議体の実施状況（年 13 回 ※うち、3回は臨時開催） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（<input checked="" type="checkbox"/>有・無）（年 8 回 ※うち、1回は臨時開催） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>有・無） ・ 公表の方法： 本学ホームページにて、関係規程を掲載している。 			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：(回答不要)			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
			有・無
			有・無
			有・無
			有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（<input checked="" type="checkbox"/>有・無） ・ 通報件数(年 0 件) ・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無（<input checked="" type="checkbox"/>有・無） ・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（<input checked="" type="checkbox"/>有・無） ・ 周知の方法： ポスター、院内ホームページの掲示及びマニュアルを配布して周知している。